

令和7年度 都城市学校運営協議会 報告集



【学校支援活動～祝吉小の取組～】
「働き方改革」を受け、祝吉地区まちづくり協議会がコーディネーターとなった
地域人材の活用



【教育課程の改善～上長飯小の取組～】
保護者から仕事への思いを聞く
「親の生き方を学ぶ会」



【地域貢献活動～山田中の取組～】
学校運営協議会委員や地域の方々の意見を取り入れた、生徒会企画による
地域貢献ボランティア清掃



【開催の工夫～東小の取組～】
全職員参加による
拡大学校運営協議会の実施

都城市教育委員会

1 姫城ブロック校【明道小・南小・姫城中】

- 明道小学校(1~2) ○ 南小学校(3~4) ○ 姫城中学校(5~6)

2 小松原ブロック校【大王小・小松原中】

- 小松原地区(7~10)

3 妻ヶ丘ブロック校【東小・上長飯小・妻ヶ丘中】

- 東小学校(11~12) ○ 上長飯小学校(13~14) ○ 妻ヶ丘中学校(15~16)

4 五十市ブロック校【五十市小・今町小・五十市中】

- 五十市小学校(17~18) ○ 今町小学校(19~20) ○ 五十市中学校(21~22)

5 祝吉ブロック校【祝吉小・川東小・祝吉中】

- 祝吉小学校(23~24) ○ 川東小学校(25~26) ○ 祝吉中学校(27~28)

6 沖水ブロック校【沖水小・沖水中】

- 沖水小学校(29~30) ○ 沖水中学校(31~32)

7 志和池・白雲ブロック校【志和池小・丸野小・志和池中・白雲小・中】

- 志和池小学校(33~34) ○ 丸野小学校(35~36)
- 志和池中学校(37~38) ○ 白雲小・中学校(39~40)

8 庄内ブロック校【庄内小・菓子野小・乙房小・庄内中】

- 庄内小学校(41~42) ○ 菓子野小学校(43~44) ○ 乙房小学校(45~46)
- 庄内中学校(47~48)

9 西岳・夏尾ブロック校【西岳小・吉之元小・西岳中・夏尾小・夏尾中】

- 西岳地区(49~52) ○ 夏尾・御池地区(53~54)

10 中郷ブロック校【梅北小・安久小・中郷中】

- 中郷地区(55~56)

11 西ブロック校【西小・明和小・西中】

- 西小学校(57~58) ○ 明和小学校(59~60) ○ 西中学校(61~62)

12 山之口ブロック校【山之口小・麓小・富吉小・山之口中】

- 山之口小学校(63~64) ○ 麓小学校(65~66) ○ 富吉小学校(67~68)
- 山之口中学校(69~70)

13 高城ブロック校【高城小・石山小・高城中】

- 高城小学校(71~72) ○ 石山小学校(73~74) ○ 高城中学校(75~76)

14 有水ブロック校【有水小・有水中】

- 有水小学校(77~78) ○ 有水中学校(79~80)

15 山田ブロック校【山田小・中霧島小・木之川内小・山田中】

- 山田小学校(81~82) ○ 中霧島小学校(83~84) ○ 木之川内小学校(85~86)
- 山田中学校(87~88)

16 高崎ブロック校【高崎小・高崎麓小・江平小・縄瀬小・高崎中】

- 高崎小学校(89~90) ○ 高崎麓小学校(91~92) ○ 江平小学校(93~94)
- 縄瀬小学校(95~96) ○ 高崎中学校(97~98)

17 笛水ブロック校【笛水小中】

- 笛水小中学校(99~100)

令和7年度 明道小学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立明道小学校		校長名	坂元 恵美子	
学級数	15学級	児童生徒数	206名	職員数	37名
教育目標	心身ともに健康で、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成				

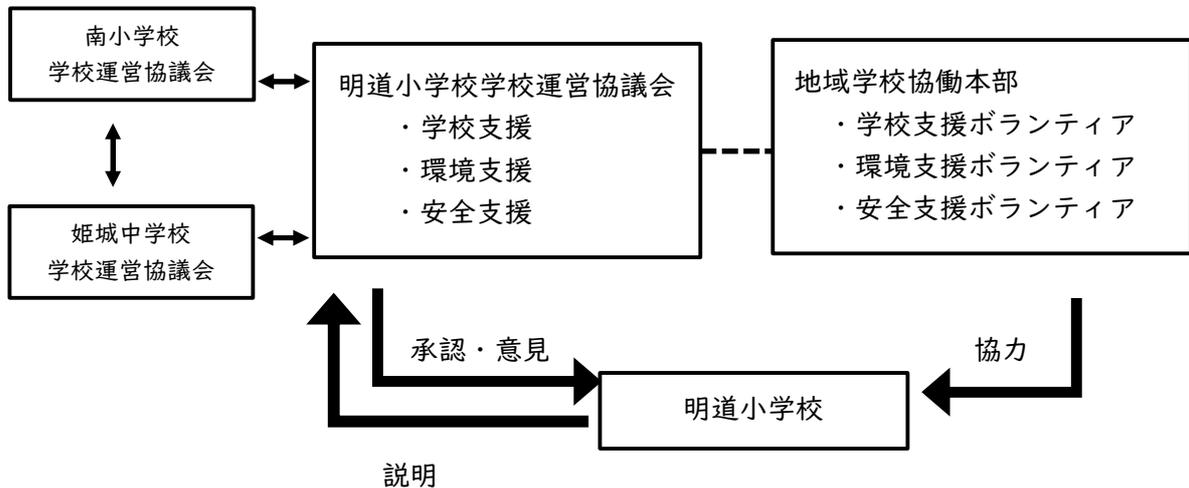
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員（計7名）・事務局（計3名）

学校運営協議会委員	No.	所属名（役職）	氏名	備考
	1	姫城地区自治公民館連絡協議会会長	柿木原 康雄	会長
	2	姫城地区民生委員副会長	前田 真也	
	3	南九州大学人間発達学部教授（学生部長）	宮内 孝	
	4	西町自治公民館長	本藺 秀三	
	5	姫城地区主任児童委員	柚木崎 裕子	
	6	明道フレンドシップ主任	竹田 正紀	
	7	明道小学校PTA会長	酒井 陽介	

事務局	役職	氏名
	校長	坂元 恵美子
	教頭	日高 茂
	教務主任	西 慎吾

(2) 組織編制



3 活動報告

月 日	主な活動及び内容
3月～5月	学校運営協議会委員の人選、依頼
6月 4日	第1回学校運営協議会（委嘱状交付、参観授業、学校運営協議会概要説明、役員選出、学校経営方針説明、年間計画）
9月16日	第2回学校運営協議会：姫城中校区3校合同（3校の取り組みについて）
12月 5日	第3回学校運営協議会（参観授業、学校評価アンケートについて、情報交換等）
1月16日	第4回学校運営協議会（参観授業、学校関係者評価、給食試食会）
2月12日	第5回学校運営協議会（参観授業、1年間のまとめ）

4 今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会を含む）

9月：登下校の見守りや教育活動における地域と学校との関わり

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

ア 環境支援

- 8月にPTA奉仕作業を実施した。延べ100名の親子が参加し、校舎内の窓ふき、扇風機の清掃等を行った。職員だけでは難しい作業なので、学校にとって大変ありがたい活動となった。運動会では、あさぎり会（OBを含めた父親の会）が早朝より大竹を用いた装飾物の設置を行い、運動会に色を添えた。加えて、正月の門松作りにも尽力していただいた。

イ 安全支援

- 見守り隊の方々には、登下校時の交通指導及び見守り活動を通年実施していただいた。登下校の見守りに加え、児童の様々な情報を提供して下さった。ボランティアの方々との対面集会で全校児童による見守りのお願い、そして年度末には感謝集会を行った。

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

教育課程の質的向上と社会に開かれた教育課程の実現に向け、外部人材を積極的に招聘した学習活動を行った。具体的には、福祉体験、歴史学習、食育、科学、スポーツ等の各分野において専門家を講師として招き、専門的な指導を受ける授業を実施した。



【シェフによる味覚の授業】



【建設業協会出前授業】

特に建設分野においては、建設業協会の主催で、学校内での出前授業に留まらず、実際の工事現場を

活用した実地研修を実施した。この取組は、協会側からの提案を受けた形で実現した双方向の連携である。児童にとっては専門技能やキャリア観に触れる貴重な学びの場となり、協会側にとっては業界の社会的意義を周知する機会となるなど、双方にとってメリットのある活動となった。

(3) 地域貢献活動

地域から児童や保護者、学校職員へ、各種行事への参加依頼があった。島津発祥まつりへは、児童15名、職員4名が参加し、島津邸から神柱公園までパレードした。その他にも、島津灯ろう祭り、姫城ふれあい文化祭等にも、多数の児童や保護者、学校職員が参加した。



【明道館パレード】

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 福祉や食育、科学等の専門家を招いた授業を展開できた。特に建設業協会との連携では、現場体験を通じて児童がキャリア観を深めると同時に、業界の意義を周知する「双方にメリットのある活動」を実施することができた。
- あさぎり会による環境整備や「見守り隊」による通年の交通指導など、地域住民の協力により、職員だけでは困難な環境維持と児童の安全確保が実現できた。
- 姫城中校区3校合同の協議会は年1回であるため、小中一貫した視点で地域全体の子どもを育てる視点から、3校との日常的な情報共有をより深めていく必要がある。
- 地域人材の継続的な確保と体制の維持が課題である。また、実施された学校評価の結果を、単なる振り返りに留めず、次年度の具体的な教育活動の改善へと確実に反映させる仕組みづくりが求められる。

7 次年度の方向性

- 「地域と学校の双方にメリットのある活動」をモデルに、外部講師を招いた学習を継続・拡充を行う。専門的な指導を通じて児童のキャリア観を育み、社会に開かれた教育課程のさらなる充実を図る。
- 姫城中校区3校の合同協議やボランティアとの連携を基盤に、小中が連携した見守り体制を模索していく。さらに、地域行事への参画も継続し、地域社会と学校が一体となって児童を育む持続可能な協働体制の構築を目指していく。

令和7年度 都城市立南小学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立南小学校		校長名	田中 美充	
学級数	21学級	児童生徒数	457名	職員数	39名
教育目標	知性をそなえ、心豊かにたくましく生き、ふるさと都城を大切にする児童の育成				

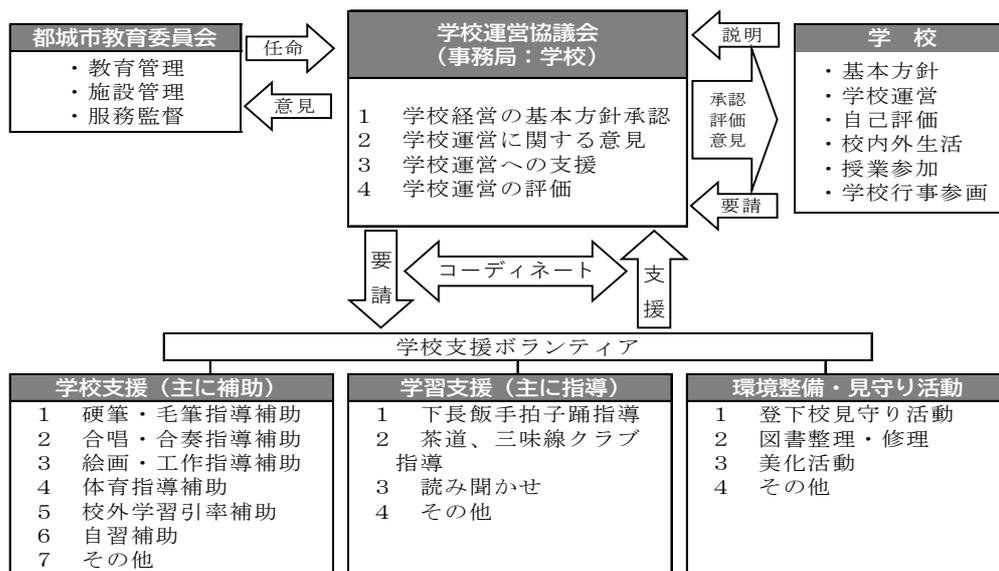
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員（計9名）事務局（計3名）

No.	所属名（役職）	氏名	備考
1	相愛保育園統括園長	高木 かおる	会長
2	下長飯公民館長	谷口 利美	
3	早鈴公民館長	和田 正英	
4	姫城地区主任児童委員	岩崎 元子	コーディネーター
5	南九州大学子ども教育学科准教授	河野 康男	
6	本校前PTA副会長	久保 博史	
7	都城市PTA連絡協議会事務局職員	池田 絹子	
8	元小学校教諭(過年度南小勤務経験)	柴原 通裕	
9	南小学校PTA会長	田口 勝人	

事務局	役職	氏名
	校長	田中 美充
	教頭	柚木崎 誠
	主幹教諭	上田 智秀

(2) 組織編制



3 活動報告

月 日	主な活動及び内容
4月10日	・入学式臨席
5月2日	・学校運営協議会委員選出
5月15日	・第1回学校運営協議会（委嘱状交付、学校運営協議会の説明、学校経営等説明）
5月25日	・運動会参観
9月16日	・第2回学校運営協議会（授業参観、3校合同協議、意見交換） ※3校合同
11月27日	・第3回学校運営協議会（授業参観、学校評価の説明、学校の取組報告、情報交換）
1月20日	・第4回学校運営協議会（学校自己評価の説明・協議、情報交換）
2月17日	・第5回学校運営協議会（学校評価報告、学校評価を受けた改善策の検討等）

4 今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会を含む）

9月：「子どもたちの成長を見守り、子どもたちのためにできること」

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

ア 登下校時の見守り活動

「子ども守りたいボランティア」の方々に、交通量の多い場所での立番や、児童と一緒に歩く登校の見守りなどを実施していただいた。6月初めに1年生と「子ども守りたいボランティア」の方との対面式を実施し、1年生の児童は感謝の気持ちを述べる事ができた。学校運営協議会では、児童の登下校やあいさつの様子について共有することができた。

イ 学習支援ボランティア（地域人材の活用）

地域の茶道教室の先生にお願いして、茶道クラブの指導をいただいた。専門的な取組について貴重な体験ができた。

主任児童委員の方が地域コーディネーターとなり、5年生や6年生の家庭科の学習で、調理や裁縫（手縫い及びミシン）の専門的な指導やアドバイスをいただき、コツをつかむ児童が増えた。



【ミシン指導のボランティア】

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

児童の遊ぶ時間や学年の垣根を越えた交流活動が減少していることに課題があるという意見を受けて、幼保小の交流活動の充実を図った。2年生から1年生へ、1年生から園児へ、手作りおもちゃの工夫を伝えることができた。また、異学年交流の遊びの時間を委員会活動や6年生の卒業プロジェクトで企画し、児童自身が達成感を得ることができた。さらに、6年生の総合的な学習の時間では、「災害が起きた時に何ができるか」をテーマに、避難所での仮想体験をシュミレーションすることにより、自分たちの役割について考えることができた。



【災害時のシュミレーション】

(3) 地域貢献活動

民俗芸能伝承活動である「下長飯手拍子踊り」について、保存会の方々の指導により、5年生が運動会で発表した。学校運営協議会をはじめ地域の皆様に披露できたことや、4年生に受け継ぐ活動を担うことにより、地域の一員としての誇りを高めることができ、地域貢献に携わる意識を高めることができた。

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 学校の学習や生徒指導等の現状や課題について情報共有し、今後の学校の取組について貴重なアドバイスをいただき、学校運営に生かすことができた。
- 姫城中学校区3校による合同協議会を実施したことにより、小中の取組の関連について考えるよい機会となった。
- 学校と家庭、地域それぞれの情報共有を行い、体験活動や交流活動の目的を明確にして、「子どもたちのためにできること」をさらに協議していく必要がある。

7 次年度の方向性

- 本年度、学校運営協議会委員の中から地域コーディネーターをお願いして、学校と地域の方の調整をしていただいた。次年度は、様々な分野でのコーディネートに広げ、「学校と地域をつなぐ」取組をさらに推進していく。

令和7年度 姫城中学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立姫城中学校		校長名	深江 祐史	
学級数	12学級	児童生徒数	319名	職員数	30名
教育目標	「自立・感謝・貢献」する生徒の育成 ～生徒信条（礼を正し・場を清め・時を守る）を基盤として～				

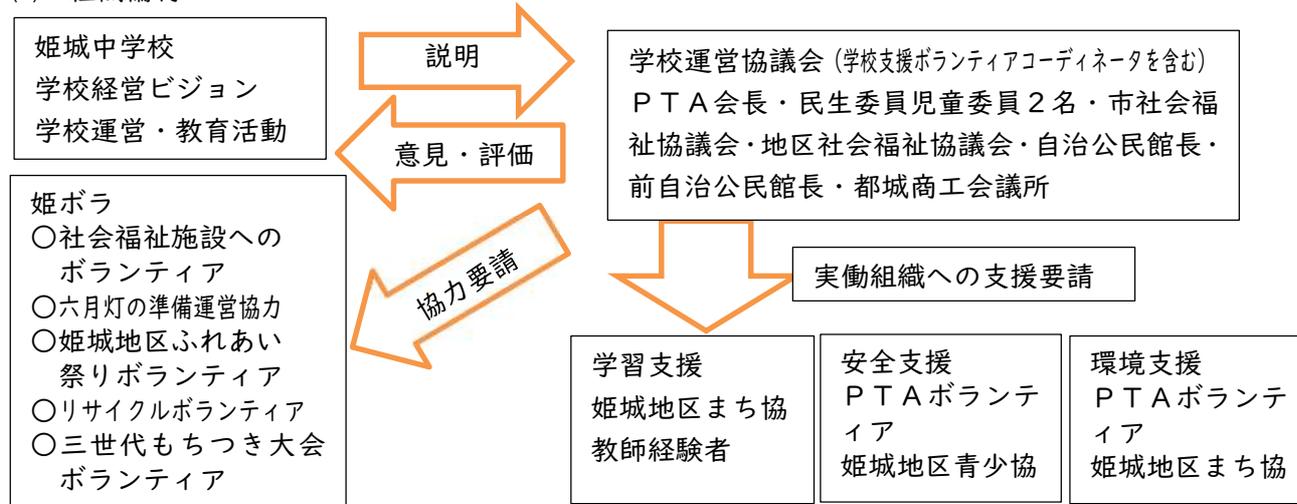
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員（計8名）・事務局（計4名）

学	No.	所属名（役職）	氏名	備考
校 運 営 協 議 会 委 員	1	本校PTA会長	田中 直貴	会長
	2	都城市社会福祉協議会	星村 太一	副会長
	3	姫城地区自治公民館連絡協議会会長	柿木原康雄	
	4	姫城地区壮年連絡協議会会長	高木かおる	
	5	都城商工会議所 事務局長	河野 謙司	
	6	地区民生委員・主任児童委員	岩崎 元子	
	7	姫城地区社会福祉協議会事務局長	谷口 悦子	
	8	地区民生委員・児童委員	野口 恵子	

	役職	氏名
事 務 局	校長	深江 祐史
	教頭	黒木 秀一
	教務主任	金丸 靖臣
	事務主幹	西山 順子

(2) 組織編制



3 活動報告

月 日	主な活動及び内容
4月	○学校運営協議会委員選出
5月～6月	○学校運営協議会や地域より姫ボラ活動依頼 → 姫ボラ活動開始
6月 6日	○第1回学校運営協議会（委嘱状交付、学校経営方針説明、質疑・応答）
6月～7月	○学校運営協議会から姫城地区まちづくり協議会へ支援の依頼（土曜学習開始準備）
9月16日	○第2回学校運営協議会（明道小・南小・姫城中の3校合同開催：姫城中学校区の児童生徒の現状と課題、地区への行事の参加、情報交換等）
9月 6日	○姫城地区土曜学習会開始 開講式
10月12日	○体育大会参観
10月23日	○文化発表会参観
10月23日	○第3回学校運営協議会（学校の様子について、情報交換、今後の活動確認）
1月16日	○第4回学校運営協議会（学校評価、本年度のまとめ、情報交換）
1月30日	○都城商工会議所による職業講話（委員によるコーディネート）
2月20日	○第5回学校運営協議会（学校評価、改善事項の協議、次年度教育課程説明）
2月21日	○姫城地区土曜学習会最終日 閉講式

4 今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会を含む）

9月：「姫城中学校区の児童・生徒の現状と課題について ～子どもたちのためにできること～」

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

本年度、姫城地区の三校の小中学校の学校運営協議会は、地域社会との連携を通じて、生徒の学習支援とキャリア教育に注力した。まず、地区社会福祉協議会の協力を得て、小学校5年生から中学3年生までの希望する児童生徒を対象に学習支援（姫城地区土曜学習会）を実施した。これは9月から2月までの土曜日（計12回）に、午前9時30分から午前11時30分までの2時間実施されたものである。本年度は11名の生徒が参加し、各自が持参した宿題や教材を、学習支援ボランティアの方々のサポートのもとで取り組んだ。

また、年末の門松作りでは、保護者や地域の姫城中OBの方々等、総勢30名程が集まり、立派な門松を飾っていただいた。

1月30日（金）には、学校運営協議会委員のコーディネートによる「職業講話」を実施した。中学1年生を対象とし、講師は学校運営協議会委員（都城商工会議所所属）に選出いただいた都城に根ざした7つの企業の方々である。生徒たちは、働くことの意義や地域経済への貢献など、地域の企業の方々の生の声を聞く貴重な機会を得て、充実したキャリア教育の時間を過ごすことができた。さらに、企業との連絡・調整を学校運営協議会委員が担当したことは、教職員の負担軽減にもつながった。



【門松作りの様子】

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

今年度は、熱中症対策の観点から、体育大会の開催時期を9月初旬から10月12日に変更したが、この決定は委員の意見を伺いながら最終的に承認を得たため、スムーズに変更することができた。また、本校学校運営協議会会長が市教育委員会主催の「教員の働き方改革についての協議」に代表として参加し、建設的な意見を述べられた。学校運営に関わる事項は、常に学校運営協議会委員に確認または承認を得る形で進めており、この恒常的な連携体制によってスムーズな学校運営が実現できている。

(3) 地域貢献活動

姫城地区は数多くの地域活動やイベントが開催される地域であり、本年度も地域からのボランティア要請が多数寄せられた。本校の生徒は、六月灯や清掃ボランティア、空き缶・空き瓶の回収および選別作業、地域のイベントの手伝いなど、多岐にわたる活動に積極的に参加し地域に貢献した。特に、12月7日（日）に姫城地区自治公民館で行われた三世代交流餅つき大会には14名の生徒が参加した。生徒たちは、未就学児から高齢者まで様々な世代の方々と触れ合いながら、餅つきや餅作りの体験を通して地域活動に参画する形での貢献を果たした。このように、地域の方と一緒に学校や地域の行事に取り組むことにより、地域の方と生徒たちが触れ合う機会が生まれ、学校と地域が互いに貢献し合う関係性を築くことができた。



【餅つき大会の様子】

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 第2回3校合同会議では、本校生徒会役員も出席し、本年度、生徒会が主体となって取り組んできた校則の見直しについて提言発表を行い、3校の委員の方々に本校の取組を広めることができた。
- 教職員の働き方改革や部活動の地域展開については、今後も引き続き、協議会で議論を重ねていく必要がある。

7 次年度の方向性

- 学校・地域が連携したキャリア教育の充実
- 教職員の働き方改革や部活動の地域展開についての意見交換の充実

令和7年度 小松原地区（大王小・小松原中） 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立大王小学校 都城市立小松原中学校	校長名	上瀨 清美 鈴木 一成
学級数	(小)26 (中)11	児童生徒数	(小)513名 (中)261名
職員数			(小)35名 (中)33名
教育目標	(小)知・徳・体・勤の調和のとれた人間性豊かで実践力のある児童の育成 (中)心豊かで、知性に富み、たくましい体をもった、実践力のある生徒の育成		

2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員(計14名)・事務局(計10名)

学校運営協議会委員	No.	所属名(役職)	氏名	備考
	1	小松原地区自公連会長	平嶋 弘平	小学校部会会長
	2	都城市議会議員	廣瀬 功三	小学校部会
	3	民生委員・児童委員協議会会長	平川 道子	小学校部会
	4	主任児童委員	福留 浪子	小学校部会
	5	ボランティア会長	川路 豊子	小学校部会
	6	大王小学校PTA会長	竹下 道彰	小学校部会
	7	よみきかせボランティア	川畑 美里	小学校部会
	8	小松原中学校校長	鈴木 一成	小学校部会
	9	小松原地区自公連副会長	田村 真樹	中学校部会会長
	10	都城市議会議員	廣瀬 功三	中学校部会
	11	主任児童委員	本田 隆志	中学校部会
	12	小松原地区まちづくり協議会事務局長	橋口 浩太郎	中学校部会
	13	大王小学校校長	上瀨 清美	中学校部会
14	小松原中学校PTA会長	本田 耕三	中学校部会	

事務局	役職		氏名
	小学校	校長	上瀨 清美
		教頭	丸目 寛之
		教務主任	沖田 頼次郎
		生徒指導主事	金丸 喜紀
		事務主査	徳留 洋志
	中学校	校長	鈴木 一成
		教頭	宮田 守
		教務主任	加藤 慎一
		生徒指導主事	浦川 貢史
事務主任主事		東 友里	

(2) 組織編制



3 年間の活動計画

月 日	主な活動及び内容
5月19日	第78回小松原中体育大会参観・小優勝旗授与
5月30日	小中合同第1回協議会 ・委嘱状交付 ・協議会の趣旨説明 ・校長の学校経営ビジョンの説明 ・年間活動計画
6月1・2日	職場体験(中3)・体験受け入れ事業所の選定
6月18日	小松原地区公民館ボランティア花植え(中3)
7月2日	都城市学校運営協議会 委員研修会
8月28日	中学校第2回協議会 ・授業参観 ・学校の現状について ・学校評価基本方針 ・部会別協議
9月3日	小学校第2回協議会 ・授業参観 ・学校の取組について ・協議会の取組について ・学校評価連絡
9月24～ 26日	家庭科ミシンの使い方指導補助(小5)
10月10日	英語暗唱弁論&合唱コンクール&吹奏楽部定期演奏会参観
10月26日	小学校運動会参観、佯踊り発表協力
10月31日	小中合同第3回協議会 ・授業参観 ・学校評価アンケートについて
11月7日	小松原地区祭り会場設営(中3)
11月8・9日	小松原地区祭り参加(小学・中学) (小学・中学)作品展示 (小学)佯踊り披露(小5) (中学)・こまボラ隊体験コーナー運営・販売コーナー支援、放送委員運営協力 吹奏楽部演奏参加、PTA 出店協力
11月27・28 日	職場体験(中2) ・体験受け入れ事業所の選定、新規事業所の開拓
12月2～6日	オープンスクール参観(中学)
1月13日	小学校第4回協議会 ・授業参観 ・学校関係者評価書(挨拶指導、スマホ取扱、次年度地区祭りほか)
1月24日	中学校第4回協議会 ・3年面接練習の面接官としての支援 ・学校評価アンケートの結果分析と考察
2月26日	小中合同第5回協議会 ・学校関係者評価報告 ・本年度の実践とその反省及び次年度に向けての取組

4 今年度実施した「熟議」のテーマ

- 8月中学部会:3年生の面接練習での、委員による外部面接官について
- 8月中学部会:2学年職場体験学習における新規事業所の開拓について
- 8月中学部会:地域貢献と生徒ボランティア(地区まつり)について
- 8月小中合同、9月小学部会:挨拶指導について

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

《大王小学校》

(I) 学校支援活動

- 民生委員・児童委員との情報交換会(定例会および全体会)
民生委員・児童委員との情報交換会を月1回実施した。月末に実施し民生委員・児童委員の定例会で共有してもらうようにした。夏期休業中には、児童がいる地区の民生委員・児童委員に來校してもらい、全職員との情報交換会を実施、情報共有をした。
- あいさつ指導
小学生の挨拶に元気がないことについての協議を受け、校内での指導重点化および小中合同あいさつ運動の充実を図った。委員からは、以前よりも元気なあいさつが聞かれるようになったとの評価をいただいた。また、学校だけでなく、地域や保護者など大人の率先垂範の重要性も取り上げられ、今後、学校と地域・家庭が一緒にあいさつの向上に取り組むことを確認した。

○ 読み聞かせボランティア

平成13年度に始まった大王小学校の読み聞かせボランティア「ひだまりの会」と紙芝居「まねきねこの会」の協力により、今年度も読み聞かせを実施した。本に親しむきっかけとなる取組として今後も継続する。



【読み聞かせボランティア】

(2) 教育課程の改善(カリキュラム・マネジメント)

○ 俵踊り

地域の民俗芸能である「俵踊り」は、本校の伝統として取り組んでいる。昨年度から運動会での披露を前提とし、5年生の表現活動として位置づけ、地域の保存会の全面協力により、練習時から運動会当日の発表まで支援をしていただいた。本年度は、小松原地区祭りでの披露も行き、保存会との共演をすることができた。



【俵踊りの様子】

(3) 地域貢献活動

○ クリーン大作戦

本校では、毎年学年ごとに「クリーン大作戦」を行っている。全学年で校内の落ち葉清掃を中心に取り組んだ。「クリーン大作戦」に限らず、5・6年生が朝のボランティア活動に積極的に取り組んでおり、一年間継続した。

○ 高齢者への年賀状

小松原地区社会福祉協議会の依頼により、6年生児童が地域の高齢者の方々に年賀状を書き届けてもらった。一人暮らしや身寄りのないお年寄り、子どもたちと接することの少ないお年寄りへの年賀状で喜んでもらえたようである。



【クリーン大作戦】

《小松原中学校》

(1) 学校支援活動

○ 環境安全支援部会の取組:「あいさつ運動・交通安全立番指導の実施」

学校運営協議会とPTAとのつながりにおいて、PTAが主体となり、毎月「0」のつく日に地区ごとの登校指導を実施。立番日誌を通じた情報共有により、学校での生徒指導に迅速に反映させる体制を構築している。一方で、登校時間の変動や保護者の勤務状況の変化により、一部地区での継続が困難という課題も浮き彫りとなった。今後は「生徒の見守り」と「学校の働き方改革」、そして「地域の持続可能な協力体制」のバランスを考慮した再設計が求められている。

○ 学校行事への参画と支援

体育大会や文化系行事(英語暗唱・合唱・吹奏楽)の運営に対し、委員から多角的な助言を得ることで、地域・保護者・生徒の三者が一体となった行事運営へと改善を図った。特に3年生の面接練習では、委員が外部面接官を務めることで、校内練習では得られない緊張感のある場を創出。生徒が地域の支えを再認識すると同時に、委員が生徒の成長や学校の指導体制を深く理解する貴重な「双方向の教育機会」となった。

コロナ禍以前の活動が復活できた。生徒も協議会委員の皆様にも好評であった。今後も効果的に継続させるために、学校側と協議会委員の皆様との連携の在り方を検討したい。



【3年面接練習】

(2) 教育課程の改善(カリキュラム・マネジメント)

○ 教育活動支援部会の取組:「職場体験活動への支援」

キャリア教育として職場体験学習を行っている。生徒が各事業所に向き、実際に仕事を直接体験したり、見学をしたり、業務の助手を行うなど、実体験を通して自分の職業観を養い、将来の夢や目標立てに役立つ活動である。この学びの趣旨を理解したうえで、生徒を引き受けてもらえる事業所の選定や、生徒の希望職種に応じた新規の事業所の開拓に教育活動支援部会に協力していただいた。生徒のニーズに応じた、校区を中心とした事業所の開拓は容易ではなく、大変助かっている。本年度は3学年生徒と2学年生徒の2回の職場体験を異なる時期に実施したため、事業所が増えたことは有り難かった。



【2年 職場体験】

(3) 地域貢献活動

- 環境安全支援部会の取組：「小松原地区公民館の花植えボランティア」
6月に3年生が、小松原地区公民館と地区体育館周辺の花壇の、花植えのボランティア活動をさせていただいた。環境安全支援部会と小松原地区まちづくり協議会との連携における活動であり、花の苗の準備や苗の植え方の技術指導をしてもらうことができた。生徒が地区の環境美化整備の一端を担う活動となった。地区公民館と地区体育館の立替工事に伴い、昨年度まで11月に行っていた、1年生による花植ボランティアはできなくなった。



【公民館植栽ボランティア】

- 小松原地区祭りへの主体的な参画
本年度の小松原地区祭りは、公民館等の建て替えに伴い本校をメイン会場として開催された。実施にあたっては、学校運営協議会委員や地域まちづくり協議会との連携により、生徒が企画段階から参画する貴重な機会を得ることができた。



【地区祭り体験コーナー】

準備段階では、ボランティア組織「こまボラ」のスタッフを中心に打ち合わせを重ね、地域に配布する広報チラシの作成や関連配布物の提案を行った。前々日の会場設営には3年生全員が参加した。

体育館内へのシート敷設やパネルの組み立て、屋外のテント設営など、地域の方々と協力しながら手際よく作業を進めた。

祭り当日は、吹奏楽部によるオープニング演奏や放送委員による司会進行、美術・書道作品の展示に加え、PTAによる飲料販売も行われた。生徒ボランティアは各出店の準備や販売を補助したほか、特設の「こまボラブース」ではフードドライブやアクリルたわしの販売を実施した。さらに射的やボウリング等の体験コーナーでは、生徒自らが立案したゲームを運営した。地域行事の計画から運営まで一貫して主体的に関わる経験は、生徒にとって大きな自信となった。本活動を通じて、単なる「参加者」から「運営の担い手」へとステップアップを遂げ、地域社会への貢献意識と愛着が劇的に向上する成果を得られた。

6 学校運営協議会の成果と課題 (○:成果 ●:課題)

- 小中合同会議を年3回定例化したことで、義務教育9年間を見据えた情報共有と共同協議が可能となった。授業参観や行事参加を通じ、学校の現状と課題を地域が「自分事」として捉える土壤が整った。
- 委員の専門性や人的ネットワークを学校支援(面接練習、職場体験等)に直接結びつけることで、教育内容の充実と地域交流の活性化を同時に実現した。
- 生徒の地域活動への参画やボランティア参加など、地域社会との交流を図ることができた。
- 連絡ツール(sigfy)への登録を推進したが、高齢の地域人材や関係機関において登録・操作に難航するケースが見られる。ICTを活用しつつ、誰もが取り残されない情報共有体制の構築が必要である。
- 地区祭りの合同開催や伝統芸能の継承など、地域からの要望は多岐にわたる。教育課程との整合性や教職員の負担を考慮し、持続可能な協力の在り方を精査する必要がある。
- 3つの支援部会を2つに組織再編し、地域学校協働本部としての機能を明確化したが、今後も自律的に活動を継続するためには支援部会ごとの運営に工夫が必要である。

7 次年度の方向性

- 地区公民館の建て替えに伴う行事への影響を「連携の再構築」の好機と捉え、工事期間中も途切れることのない発展的な協力体制を協議する。早期の年間計画共有を徹底し、予測可能な運営を目指す。
- 「学校の応援団」としての側面を維持しつつ、学校と地域を結ぶ「ハブ」としての組織機能を高めさせたい。双方向のニーズ(学校がしてほしいこと・地域ができること)を精度高くマッチングさせたい。
- 学校側と地域側双方のニーズ、思いや考えを共有するため、既存の会議を最大限生かしながら、学校と地域が思いを共有する熟議の場を充実させたい。積極的な情報収集と情報提供に引き続き努めていく。

令和7年度 東小学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立東小学校		校長名	酒井 昭弘	
学級数	22	児童生徒数	543名	職員数	39名
教育目標	人間性豊かで実践力のある東っ子の育成				

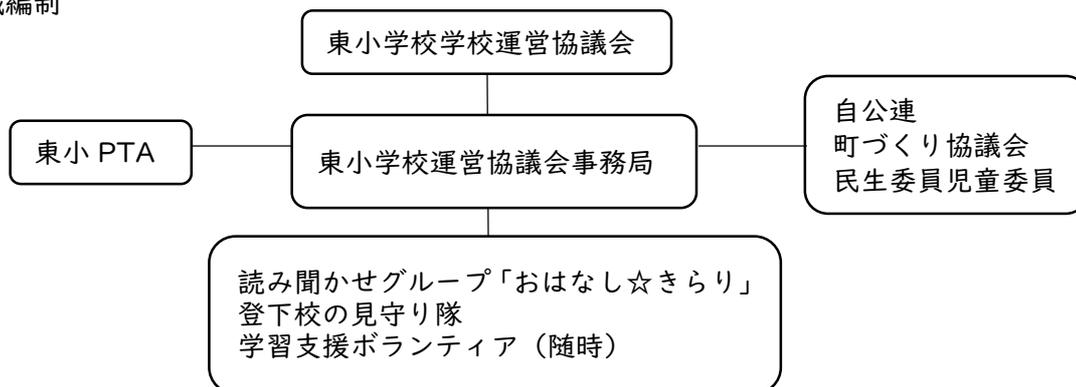
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員(計8名)・事務局(計4名)

学校運営協議会委員	No.	所属名(役職)	氏名	備考
	1	東小 元校長	瀬尾 真路	会長
	2	妻ヶ丘幼稚園園長	内山 強	
	3	社会福祉協議会理事	森岡 英史	
	4	おはなし☆きらり代表	高橋 初代	
	5	元自治公民館長	日高 裕文	
	6	市議会議員	小玉 忠宏	
	7	主任児童委員	鈴木 康伸	
	8	PTA 会長	松本 具久	

事務局	役職	氏名
	校長	酒井 昭弘
	教頭	田中 尚子
	主幹教諭	嶽野 直樹
	事務主査	柿木 三男

(2) 組織編制



3 活動報告

月日	主な活動及び内容	
4月		学校運営協議会委員選出
6月23日	第1回学校運営協議会	委嘱状交付、学校運営協議会概要・学校経営方針・年間活動計画説明、授業参観
7月29日	第2回学校運営協議会…妻ヶ丘地区4校合同学校運営協議会	各校の昨年度の取組発表本年度の児童の実態について、質疑・協議・情報交換
9月16日	第3回学校運営協議会	学校の取組説明、学校評価アンケート内容検討 給食参観・試食
1月19日	第4回学校運営協議会(拡大学校運営協議会)	全教職員参加・子供が主役の授業づくり・ICT活用の実態について・グループによる意見交換
2月16日	第5回学校運営協議会	学校関係者評価について協議 次年度の組織案・活動案について・授業参観

4 今年度実施した「熟議」のテーマ(小中合同学校運営協議会を含む)

7月:「地域との連携:社会性を育む教育を充実させるために」

1月:「子どもが主役の授業とICT教育の実際」について

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

通学の安全を確保や、児童個々への細やかな学習支援等地域で担える部分を支えることで、先生方の働き方改革にもつながる」という意見を受けて、以下の取組を行った。

○ 登校見守り・あいさつ運動

- ・ 民生委員児童委員・東小 PTA・見守りボランティアによる登校見守り
- ・ 職員によるまちづくり協議会から寄贈のスクールゾーンの横断幕設置

○ 学習支援ボランティア

- ・ 5,6年生の家庭科学習における指導補助(ミシン)
- ・ 地域の方より生活科で使う材料の提供(どんぐりなど)
- ・ 月に2~3回、朝の時間に読み聞かせ(おはなし☆きりり)

○ 土曜学習会

妻ヶ丘地区まちづくり協議会主催の土曜学習会の実施。

(2) 教育課程の改善(カリキュラム・マネジメント)

「児童は地域との活動の中で社会性が育まれる」という意見を受けて、以下のような取組を行った。

○ 総合的な学習の時間における取組

- ・ おかげ祭り保存会による郷土をテーマにした特色あるまつりの学習
- ・ 地域在住の藤間流師範の先生による「妻ヶ丘よかこ音頭」の指導

○ キャリア教育「東小キッズワークショップ」(全学年)

- ・ 地域内外の21業種の外部講師によるキャリア教育に係るワークショップ

(3) 地域貢献活動

- ・ 本校合唱部による複数の地区の祭りでの歌声披露

(4) その他

○ 拡大学校運営協議会の実施

- ・ 委員から要望のあった全職員参加の学校運営協議会を実施し、「子どもが主役の授業」「ICT教育の実際」について取組を説明する機会を設けた。前半は、研究主任、情報主任による動画も含めたプレゼンテーションでの学校の取組紹介。後半は学校職員をグループに分け、取組に対する質問を受けたり、さまざまなテーマを決めて自由に意見を交わしたりする時間を設定した。

6 学校運営協議会の成果と課題(○:成果 ●:課題)

- 本年度、全職員と学校運営協議会委員との合同での協議会により、双方の理解が進むとともに、地域からの学校運営への関心を高め、地域に開かれた学校としてのよりよい取り組みに結び付くと考えられる。学校運営協議会をさまざまなメンバーで進めていくことの可能性を見つけることができた。
- 学校運営協議会の存在について、今後さらに保護者へも周知を図っていくべきだと考えている。そのためには、周知のタイミングや方法、協議の内容について考えていく必要がある。

7 次年度の方向性

- 今後も、学校運営協議会の委員と職員との共通理解のもとで学校運営に関わっていくことが肝要だと感じる。さらに今後、保護者の認知度を高める取り組みが考えていけるとよいと思う。PTA 総会での具体的活動内容の説明、委員の紹介また、保護者の学習支援ボランティアへの参加促進など、学校運営に参画する機会を意図的に設けていければと考える。



【横断幕取り付け】



【キッズワークショップ・ドローンパイロット】



【妻ヶ丘地区祭り】



【拡大学校運営協議会】

令和7年度 都城市立上長飯小学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立上長飯小学校		校長名	平部 至識	
学級数	26学級	児童生徒数	615名	職員数	50名
教育目標	子どもに「今日も学校に来てよかった!」と感じさせる学校経営 ～よき伝統の継承・共通の壁の確立・保護者を感じる風土の醸成～				

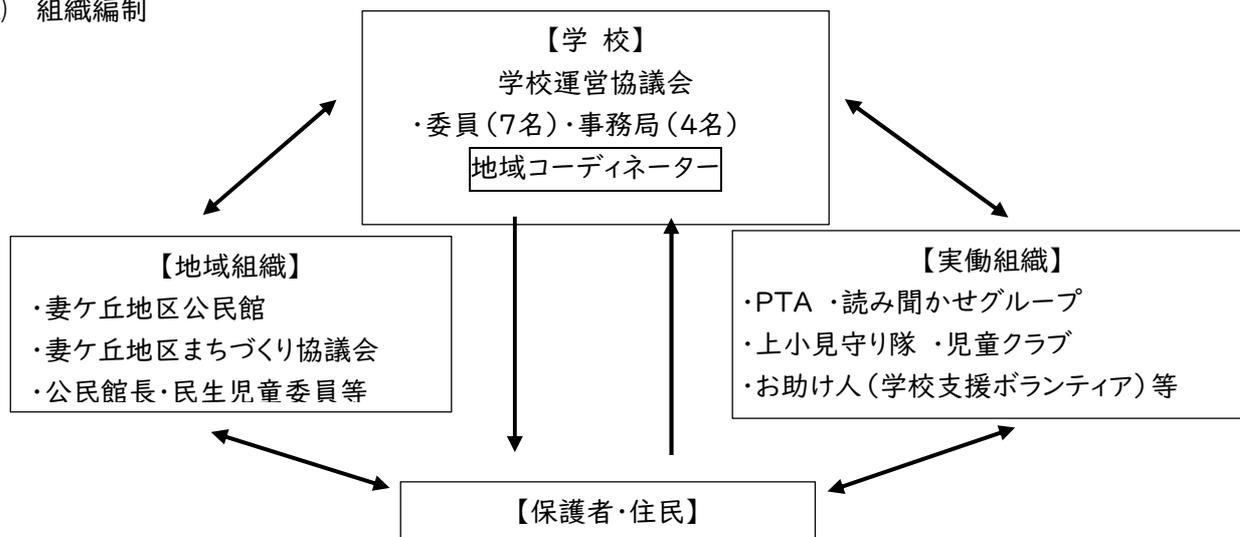
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員(計7名)・事務局(計4名)

学校運営協議会委員	No.	所属名(役職)	氏名	備考
	1	都城市市議会議員・現PTA会長	岩元 弘樹	
	2	広原自治公民館長	釘田 重臣	
	3	放課後こども教室 スマイルふれんど代表	武藤 佐智子	副会長、地域CO
	4	読み聞かせボランティア ほほんたクラブ代表	山下 秀子	
	5	妻ヶ丘地区社会福祉協議会理事	松尾 伊津子	会長
	6	元PTA常任委員	今村 美奈	
	7	主任児童委員	前川 智子	

事務局	役職	氏名
	校長	平部 至識
	教頭	日野 浩二
	主幹教諭	小山田 祥
	主事	森 泰士朗

(2) 組織編制



3 活動報告

月 日	主な活動及び内容
4月	・学校運営協議会委員選出
5月12日	・第1回学校運営協議会(委嘱状交付、協議会の趣旨説明、役員選出、年間活動計画説明、学校経営方針説明)
5月25日	・運動会参観
7月30日	・第2回学校運営協議会【妻ヶ丘地区合同開催】(各校の取組と課題発表、協議)
9月24日	・第3回学校運営協議会(学校評価基本方針確認、アンケートに関する検討、学校評価手順の確認)
11月26日	・第4回学校運営協議会(アンケート結果の分析・考察、協議)
2月12日	・第5回学校運営協議会(評価報告書検討、今年度の反省と次年度の方向性)

4 今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会を含む）

5月：「キャリア教育について」

（委員）今の子ども達は何事も実際の経験が不足していることは否めない。体験を伴う学習、職業体験的な学習を本校でも行ってはどうか。

（校長）都城の産業などを支える身近な保護者が生き様を語るような会や体験を目的とした学習を計画している。上小流のキャリア教育を考えていきたい。

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

① 米作り活動

5年生は、毎年米作りの学習に取り組んでいる。本年度もJA青年部と地域の方々で組織された「お助け人」から専門的な指導を受け、田植え、稲刈りを行った。収穫した米は、保護者や教職員に販売するとともに、「お助け人」の方にも感謝の手紙を添えて、一人一人に贈呈した。



【稲刈りの様子】

② 生活科「むかしから つたわる あそびを たのしもう」

1年生は、地域の方に、昔から伝わる遊び（羽子板、けん玉、竹とんぼ、お手玉など）を教わったり、一緒に遊んだりする活動を行った（オープンスクールの時に実施）。楽しかったことや気付いたことを振り返り、遊びを教えてくださいました方々にお礼の手紙を渡すことができた。



【昔の遊び体験の様子】

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

- 5月の「熟議」のテーマに関連して、子どもたちにさまざまな体験活動をさせる目的で、地域の方々等の協力を得ながら、オープンスクールの内容を以下のような学習とした。

1年生：上小スマイルフレンドや地域の方に教わる「昔の遊び」
2年生：南九州大学学生との「親子クリスマスリース作り」
3年生：都城高専の先生による「スライム作り」
4年生：御池青少年自然の家の方による「防災教育」
5年生：マネーラボの講師による「金銭教育」
6年生：保護者から仕事への思いを聞く「親の生き方を学ぶ会」



【火災時の煙体験の様子】

特に6年生の「親の生き方を学ぶ会」では、13名の親の仕事や生き方等を直接聞くことによって、一人でも多くの子どもが、将来、都城で生きることも選択肢の一つとして考えられるようになってほしいという思いや願いのもと、実施した。

- 毎日の登下校の見守りを行っている上小見守り隊や毎週月曜日の読み聞かせやブックトークなど学習支援ボランティア等の人材活用は、延べ299名（12/1段階）であった。



【親の生き方を学ぶ会の様子】

(3) 地域貢献活動

見守り隊や民生児童委員の方々に手紙を書いて感謝の気持ちを伝える集会を委員会活動が主体となって実施したり、運動会で指導いただいた地元の踊りの先生に対しお礼の手紙を児童が自発的に作成したりするなどの活動を行った。

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 学校運営協議会での「熟議」のテーマ（キャリア教育、あいさつなど）を、学校運営に反映している。特に、「熟議」に関連したオープンスクールでは、多くの地域人材に触れることができ、児童にとって新たな発見や充実感を味わう契機となった。
- 学校運営協議会の目的や役割について、教職員や保護者、児童の認識が不十分である。
- 児童が委員会活動などから発信する地域貢献活動が不十分である。

7 次年度の方向性

- 「熟議」の時間を確保し、コミュニティ・スクールの機能を十分に生かしたい。
- 本協議会と地域学校協働活動本部がつながり、地域人材確保がスムーズになるような体制の確立について、妻ヶ丘地区公民館等に相談、情報共有を図っていく。
- 教職員や児童、保護者に対し、学校運営協議会について積極的に周知を行う。

令和7年度 妻ヶ丘中学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立妻ヶ丘中学校		校長名	飯千 裕二	
学級数	20	児童生徒数	572名	職員数	54名
教育目標	主体的に学び、心ゆたかに、たくましく伸びる生徒の育成				

2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員（計8名）・事務局（計5名）

学 校 運 営 協 議 会 委 員	No.	所属名（役職）	氏 名	備 考
	1	西部公民館長	山元 博司	委員長
	2	前東町公民館長	川添 康史	副委員長
	3	妻ヶ丘地区自公連会長	木下 和男	
	4	妻ヶ丘地区まち協会長	堀川 渉	
	5	主任児童委員	鈴木 康伸	
	6	南九州大学教授	早川 純子	
	7	元PTA会長	川畑 洋子	
	8	PTA会長	大和 ゆずる	

事 務 局	役 職	氏 名
	校 長	飯千 裕二
	教 頭	松下 幸政
	教務主任	熊谷 博幸
	生徒指導主事	田之上 和寿
	事務主幹	岩満 進

(2) 組織編制

妻ヶ丘中を支える地域



3 活動報告

月 日	主な活動及び内容
4月～5月	学校運営協議会委員の人選
6月 5日 (木)	第1回学校運営協議会 委嘱状交付 役員選出 年間計画等 ※授業参観
7月30日 (水)	妻ヶ丘地区合同学校運営協議会 各学校の取組 児童・生徒の実態
10月10日 (金)	第2回学校運営協議会 現状報告 学校評価等 ※文化祭参観
12月 4日 (木)	第3回学校運営協議会 現状報告 学校評価 R8教育課程等
12月19日 (金)	学校運営協議会委員を中心とした3年生への面接指導
1月22日 (木)	第4回学校運営協議会 学校評価 教育的課題に関する協議
2月17日 (火)	第5回学校運営協議会 学校評価結果を踏まえた協議 R8教育課程等

4 今年度実施した「熟議」のテーマ (小中合同学校運営協議会を含む)

1月：「学校と地域の効果的な連携の在り方について」

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

- ① 3年生に対し、まちづくり協議会の方々が3年生への面接指導を行った。2回の実施予定であったが、感染症拡大防止のために11月実施分を中止とした。



【面接指導の打合せ】

(2) 教育課程の改善 (カリキュラム・マネジメント)

- ① 文化祭 (都城市総合文化ホール) 当日に運営協議会を計画し、委員の参観を実施した。その後の協議会会場も、市文化ホール会議室を利用し実施した。
- ② 学校運営協議会の開催に合わせて、委員の方々による授業参観を実施した。また、学校行事等にも出席を依頼し、学校運営に関しての建設的な意見をいただく機会となった。



【ふれあい祭りボランティア】

(3) 地域貢献活動

① 地域奉仕活動

- 各地区で開催される夏祭りの企画や運営に、自主的に携わった。
- 3年生による公民館清掃を、3月に計画している。

② 妻ヶ丘地区ふれあい祭への参加

- まちづくり協議会及び公民館長会に生徒会役員が積極的に参加し、地域の祭の企画・運営に携わった。前日準備から当日を含め、150名の生徒がボランティアとして参加した。



【小鷹神社祭りボランティア】

6 学校運営協議会の成果と課題 (○：成果 ●：課題)

○ 委員の方々に助言をいただき、地域との連携を図ることで、地域行事やボランティアで活躍する生徒が増えた。また、学校や生徒の様子を見ていただいたことで、学校運営に関して、具体的な意見や支援をいただくことができた。

● 学校運営協議会について、地域や保護者の認識が十分でない。学校HPの活用や充実を含め、活動を認識していただく手立てを講じる必要がある。

7 次年度の方向性

○ 学校運営協議会を通して、よりよい地域・学校づくりについて地域との情報交換を積極的に進めていき、「地域の中の学校づくり」に努めていきたい。

○ 学校運営協議会の取組について、地域や保護者への情報発信に力を入れ、学校と地域がWin-Winの関係となるよう構築していく。

令和7年度 五十市小学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立五十市小学校		校長名	堀之内 伸浩	
学級数	31学級	児童生徒数	758名	職員数	56名
教育目標	児童一人一人に愛情をもって大切に育てることを基本理念として、学校・家庭・地域の連携協力を基盤とした「チーム五十市」の組織力を高めることにより、笑顔あふれる五小っ子の学舎を創造する。				

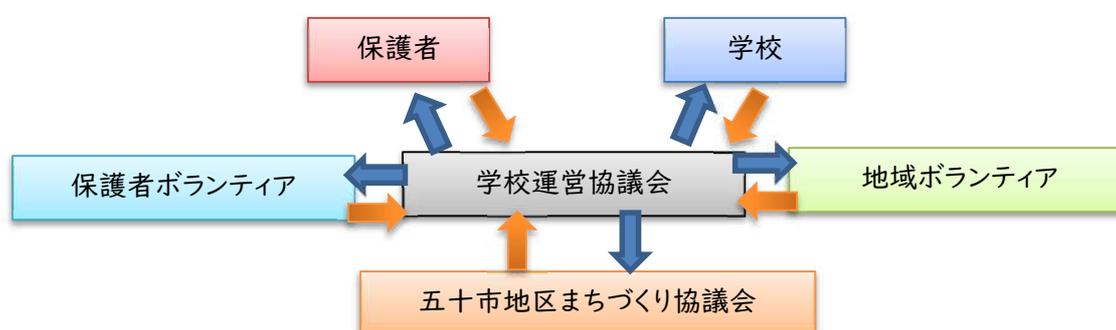
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員（計8名）・事務局（計3名）

学校運営協議会委員	No.	所属名（役職）	氏名	備考
	1	元五十市地区まちづくり協議会会長	明利 克	会長
	2	鷹尾5丁目自治公民館館長	西川 英男	副会長
	3	中尾自治公民館館長	尾藤 正武	
	4	主任児童委員	大橋 あゆみ	
	5	民生委員・児童委員会会長	福丸 良秋	
	6	さつき児童クラブ施設長	瀬口 信一	
	7	元PTA会長	湯浅 大介	
	8	PTA会長	村川 真矢	

事務局	役職	氏名
	校長	堀之内 伸浩
	教頭	中井上 健
	教頭	下野 雅代

(2) 組織編制



3 活動報告

月 日	主な活動及び内容
4月	学校運営協議会委員選出
6月3日	第1回学校運営協議会（委嘱状交付、学校運営協議会の説明、学校経営説明、質疑）
6月9日	田植えにおける支援ボランティア
7月30日	民生委員・児童委員の方々との連絡会
7月31日	第2回五十市中校区3校合同学校運営協議会（各学校活動状況報告、中学校区のよさや課題についての熟議）
10月3日	稲刈りにおける支援ボランティア
10月8日	第3回学校運営協議会（授業参観、学校の活動状況報告について協議、学校評価についての説明）
11月13日	町探検における支援ボランティア
12月18日	第4回学校運営協議会（授業参観、学校評価報告書について協議）
2月9日	第5回学校運営協議会（授業参観、学校評価と改善事項の協議、次年度の方向性と学校行事の説明）

4 今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会を含む）

7月：「五十市中学校区におけるよさや課題について」

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

- 地域連携による体験活動の充実（5年：総合的な学習の時間「米作り」）
学校運営協議会において「子供たちに郷土愛と勤労の尊さを学ばせてほしい」との意見を受け、地域ボランティアの「ふるさとの会」が中心となり活動を支援。同会が地域の人材確保と進行管理を一括してコーディネートしたことで、田植えから稲刈り、脱穀、しめ縄作りまでの一連の体験を円滑に実施することができた。



【稲刈り】

- 安全な校外学習の基盤づくり（2年：生活科「町たんけん」）
「児童の安全確保と、地域への理解を深める機会を増やしてほしい」という委員の提言に基づき、学年主任と学校運営委員2名が中心となって外部との連絡調整を分担。公民館長、民生委員、保護者ボランティア等の協力を得て、各班への同行や交差点での立番指導を実現した。地域が主体となって安全管理をサポートすることで、教員が児童の学習評価や個別の指導に注力できる体制が整った。



【店での見守り】

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

- 地域での児童のあいさつを一部の児童だけでなく全体的によくしたいとの意見が出た。そこで、SWPBSの流れを意識した「いちハピ」（1秒で、一瞬で、一緒に、相手も自分もハッピーになるあいさつや言動）運動を展開した。児童の挨拶や思いやりのある言動の広がりが、校内だけでなく家庭や地域にも見られるようになった。



【よさを伝える情報番組】

(3) 地域貢献活動

- 地域の行事に多くの子どもたちが参加してほしいとの要望があった。そこで、地域の行事情報を学校側から保護者や子どもたちへ積極的に発信した。まちづくり協議会主催の子ども料理教室や歩こう会へは、多くの児童が参加し、地域の方々との交流を楽しむことができた。また、「イルミ&アートフェスタ」に向けて6年生がパネルに絵を描くなど地域の活性化に貢献している。



【歩こう会】

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 地域ボランティアが教育活動に参加する機会が増えており、充実した体験活動が実施できた。そのため、児童の郷土への愛情や地域貢献への意欲の高まりが見られる。
- 児童の地域貢献意欲に対し保護者の意識に差が見られるため、活動内容や公民館行事等の情報共有を強化し、家庭の理解と参画を促す必要がある。

7 次年度の方向性

- 保護者や地域との連携を基盤に、学習活動への協力、登下校の見守り、読み聞かせ等の学校支援体制をさらに充実させる。
- 地域と一体となって学びの質向上と安全確保に努めるとともに、学校運営の情報を積極的に発信し、家庭・地域の理解と参画をより一層深める教育課程を推進する。

令和7年度 都城市立今町小学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立今町小学校		校長名	鹿嶋 陽一	
学級数	8	児童生徒数	136名	職員数	19名
教育目標	○心やさしく実践力のある今町っ子の育成 (校訓) やさしく・かしこく・元気よく				

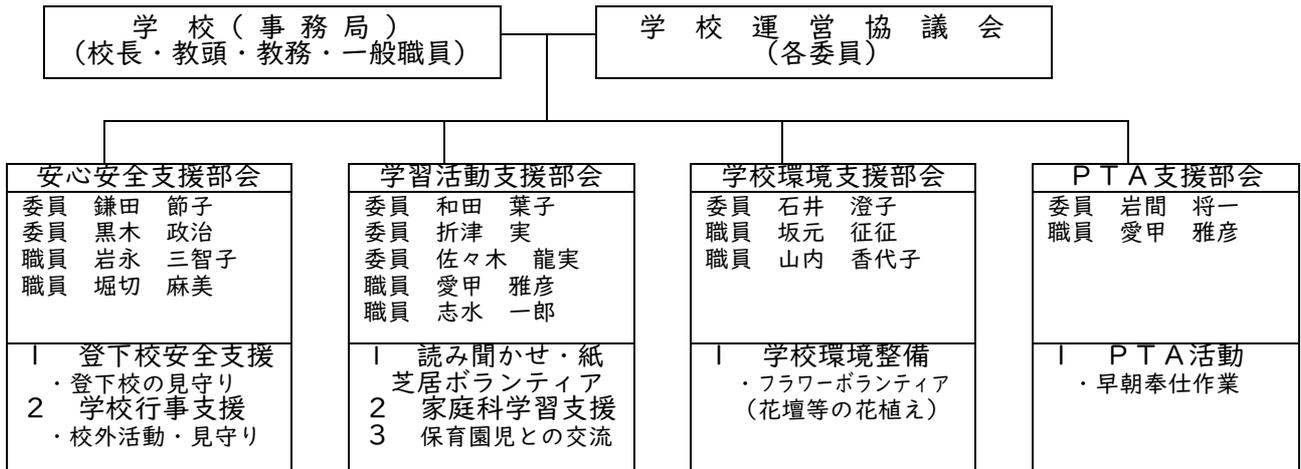
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員 (計8名)・事務局 (計11名)

学 校 運 営 協 議 会 委 員	No.	所属名 (役職)	氏 名	備 考
	1	認定こども園今町保育園園長	佐々木 龍実	委員長
	2	中今町自治公民館館長	日高 覚助	副委員長
	3	上今町自治公民館副館長	黒木 政治	
	4	横尾地区民生委員児童委員	石井 澄子	
	5	主任児童委員、紙芝居代表	折津 実	
	6	読み聞かせボランティア代表	和田 葉子	
	7	元学校事務職員	鎌田 節子	
	8	現PTA会長	岩間 将一	

事 務 局	役 職	氏 名
	校 長	鹿嶋 陽一
	教 頭	愛甲 雅彦
	教 務	志水 一郎

(2) 組織編制



3 年間の活動計画

月 日	主な活動及び内容
4月	・学校運営協議会委員選出・依頼
5月16日	・第1回学校運営協議会(委嘱状交付、学校経営説明、学校運営協議会年間計画協議)
5月26日	・運動会 ※参席・観覧
6月19日	・第2回学校運営協議会(授業参観、学校経営状況説明、学校運営協議会活動協議)
7月31日	・3校合同学校運営協議会(第3回学校運営協議会)(各学校の活動状況報告、中学校区内におけるよさや課題についての協議)
9月	・家庭科ボランティア(6年生、5年生)
11月28日	・フラワーボランティア活動(児童・保護者・地域住民の協働で花の苗植え)参加 ※インフルエンザ感染防止のため中止。児童のみで実施。
12月 3日	・戦争に関する講話(6年生対象、1時間)
12月 4日	・第4回学校運営協議会(校内縄跳び大会参観、学校経営状況説明、学校評価説明) ※インフルエンザ感染防止のため中止。資料のみ配付。
2月19日	・第5回学校運営協議会(授業参観、学校経営状況説明、学校評価説明、学校関係者評価協議)

4 今年度実施した「熟議のテーマ」（小中合同学校運営協議会を含む）

7月：「五十市中学校区内におけるよさや課題について」

報告会では、よさについて「児童・生徒の素直さ、明るさ。挨拶」が挙げられていた。課題としては、「交通ルールマナー、保護者の横のつながりが希薄になっている」という意見が出された。特に、中学校は、各小学校から集まってくるため、なじむのに時間がかかり、それが保護者にもつながっているとの意見だった。よさ・課題ではないが、今年度本校が取り組むPTAと地域が合同で開催する「今町っ子まつり」が話題になっていた。この取組が五十市校区に広がっていくことを願う声がたくさん聞かれた。

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

○ 読み聞かせ・紙芝居ボランティア

児童の読書教育、情操教育を培う観点から、毎週火曜日の朝の活動の時間に、読み聞かせ・紙芝居を行ってもらっている。児童が熱心に聞いたり、反応したり質問したりする姿が見られた。



【学習支援部会による読み聞かせ】

○ 登下校見守り活動

児童の登下校の安全を確保することを目的として、見守り隊による通学路の交差点や横断歩道などでの登下校時の見守り活動を行ってもらっている。おかげで、毎年、交通事故0を継続している。



【安心安全部会による登下校の見守り】

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

○ 家庭科学習ボランティア

高学年の家庭科の裁縫の学習活動において、指導者不足が課題として挙げられている。そこで、地域住民の協力により、手縫いやミシン縫いの学習活支援をしていただいた。おかげで、安全に、計画的に進めることができた。



【学習活動支援部会による家庭科支援】

○ 戦争に関する講話

教科書からの情報だけでは児童に戦争や平和について関心を深めさせることが難しいという課題が挙げられている。そこで、戦争体験者を講師に、6学年の社会科学習に関連して戦争中・戦後の生活について、直接、話を聞く機会を設けた。平和について考えるよい機会となった。

○ 校外学習の引率

1年生の校外学習において、学級担任だけでは、安全面に不安があるとの課題が挙がった。そこで、児童引率補助をお願いした。複数の目で対応することで、安全に学習を行うことができた。今回は、「通学路探検」という学習内容だったため地域住民目線での危険箇所等の説明もあり、より安全意識を高めることができた。



【学習活動支援部会による戦争体験講話】

6 学校運営協議会の成果と課題（○:成果 ●:課題）

- 地域の方の協力で教育活動・学習活動を充実させることができた。家庭科学習時のミシン操作支援活動は、教員の負担軽減にもつながった。また、通学路点検では、学級担任では、分からない地域ならではの情報を知るよい機会となった。
- 地域人材活用の年間計画を作成し、協議会で提示したことで、見通しをもって取り組むことができた。
- 本年度は、本校で3校合同での学校運営協議会を開催し、活発な意見交換を行うことができた。これにより、中学校区内の児童・生徒の状況や課題等を確認することができた。
- 地域人材活用が固定化してきており、深まりが薄くなっている。さらに活性化していくために、熟議をしていく必要がある。

7 次年度の方向性

- 今年度、地域の取組として、懇和会(地域住民・本校保護者等)が中心となり「今町っ子まつり」を開催した。次年度は、学校運営協議会との連携を強化し、学校・保護者・地域のつながりを深めたい。

令和7年度 五十市中学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

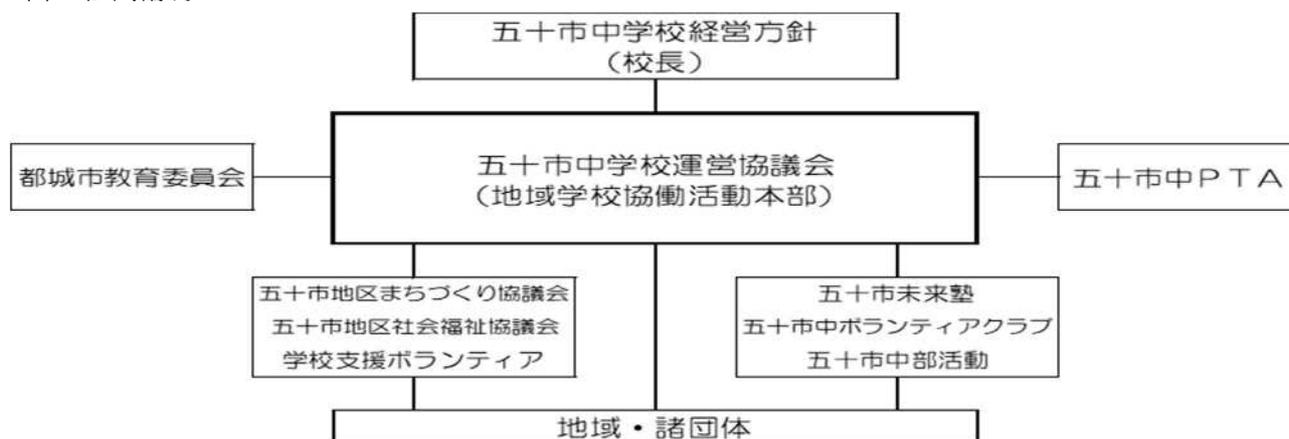
学校名	都城市立五十市中学校		校長名	川越 広幸	
学級数	17	児童生徒数	516名	職員数	37名
教育目標	感謝の心と自他を大切にすることをもち、社会の変化に主体的に対応できるたくましい人間の育成				

2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員（計7名）・事務局（計3名）

学校運営協議会委員	No.	所属名（役職）	氏名	備考	事務局	役職	氏名
	1	青少年育成協議会顧問	廣底 喜昭	会長		校長	川越 広幸
	2	社会福祉法人ますみ福祉会 さくら児童クラブ施設長	瀬口 信一	副会長		教頭	塩月 貴史
	3	ヤマエ食品工業株式会社 代表取締役	江夏 啓人			ボランティア担当	新西理紗
	4	柳田酒造合名会社代表	柳田 正				
	5	五十市地区主任児童員	大橋 あゆみ				
	6	都城市社会福祉協議会	橋本 楓華				
	7	五十市中学校教育後援会会長	大崎 貴博				

(2) 組織編制



3 活動報告

月 日	主な活動及び内容
4月	・学校運営協議会委員の人選・依頼・市教委への報告
5月17日	・体育大会
6月19日	・第1回学校運営協議会（体育大会観戦・委嘱状交付・学校運営協議会の説明・学校経営説明 他）
7月31日	・第2回学校運営協議会（小中合同開催 於：今町小学校）
10月 3日	・第3回学校運営協議会（桜凍祭参観・部活動結果報告・情報交換）
10月25日	・いそいち Study Room 土曜の朝（五十市地区社会福祉協議会主催の3年生を対象とした学習支援事業）
11月10日	・第4回学校運営協議会（鑑賞教室観覧・情報交換・学校関係者評価の説明）
11月 8日	・いそいち Study Room 土曜の朝
11月15日	・いそいち Study Room 土曜の朝
11月20日	・いそいち Study Room 土曜の朝
12月 6日	・いそいち Study Room 土曜の朝
12月20日	・いそいち Study Room 土曜の朝
1月10日	・いそいち Study Room 土曜の朝
1月24日	・いそいち Study Room 土曜の朝

2月 5日	・第5回学校運営協議会（学校評価の説明・評価依頼・アンケート・次年度役員依頼）
2月 7日	・いそいち Study Room 土曜の朝
2月 21日	・いそいち Study Room 土曜の朝
2月 28日	・第5回学校運営協議会（学校評価のまとめ・卒業式参列の依頼・次年度の対策他）
3月 16日	・卒業式（学校運営協議会委員への案内）

4 今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会を含む）

7月：「五十市中学校区における良さや課題について」

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

「いそいち Study Room 土曜の朝」とは、学校運営協議会委員が所属する五十市地区社会福祉協議会が主催する学習支援授事業で、生徒に学びの場や生徒を支える支援体制を構築していただいている。2学期後半から3学期中旬まで3年生を対象として、計10回計画された。地域ボランティアの方々が、参加生徒に対して懇切丁寧に指導して下さった。高校生等のボランティア参加者も年々増え、本事業が伝統として定着している。また、本校の中学生が小学生を対象に学習支援を行うボランティア活動も行われており、毎年多くの生徒が小学生への学習支援を行っている。

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

学校運営協議会における協議内容をすみやかに具現化するために、同会が地域学校協働本部としての役割も担っている。本年度は、これまで実施してきた五十市未来塾を1学年対象に行い、講師の選定については、同会にはお願せず、別の組織が対応した。

(3) 地域貢献活動

地域の各種団体が実施する行事に積極的に参加したり、ボランティアクラブを発足し、地域から依頼のあったボランティア活動に参加したりするようシステムを構築し、そのような活動を継続している。

- ・五十市地区まちづくり協議会・・・「地区ふれあい文化祭」
- ・都城市社会福祉協議会、五十市地区社会福祉協議会・・・今町っ子まなび館。五っ子 study room（学習支援）
- ・NPO 法人子育てネット おひさまとはらっぱ・・・うめきたキャンプ（ボランティア）
- ・都城ボランティアフェスティバル
- ・校内ボランティアクラブ生が毎年増え、200名近い生徒が加入し、各種活動に参加した。



【ボランティアクラブ説明会】

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 学校評価による学校の現状や課題等の共有と解決に向けた意見交換を行うことができた。
- 学校 HP の更新を頻繁に行うことで、学校運営協議会委員との情報共有が図られ、校長の学校経営方針の理解が進み、様々な助言を頂くことができた。
- 地域貢献活動への意識が高まり、地域のボランティア活動に参加する生徒が増加し、地域からの要請も増加している。
- 地域人材の活用に関しては、行事の精選などの影響もあり、機会が減少している。

7 次年度の方向性

- 本校生徒の意識が高まっているボランティア活動への、より一層の積極的な参加をさらに充実していくために、学校運営協議会委員の一人である社会福祉協議会職員の方と連携したボランティア活動の活性化に今後も一層取り組んでいきたい。
- 委員の顔ぶれや職業が様々であるため、委員の持っている繋がりや経験をより活かすことができるよう、学校行事や教育課程との連携の仕方を工夫する。
- 本地区で活動している様々な団体との連携を深め、保護者や地域との交流を充実させていく。

令和7年度 祝吉小学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

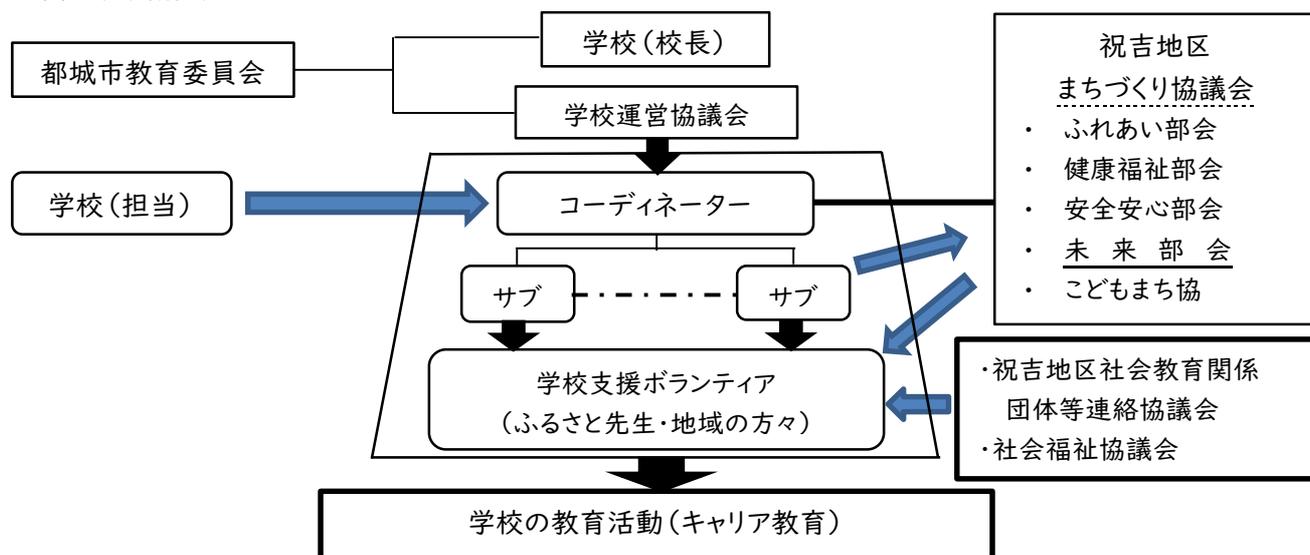
学校名	都城市立祝吉小学校		校長名	長谷川 雅一	
学級数	34学級	児童生徒数	881名	職員数	69名
教育目標	自ら学び、自ら考え、豊かな人間性をもち、たくましく生きる児童の育成				

2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員（計8名）・事務局（計7名）

学校運営協議会委員	No.	所属名（役職）	氏名	備考	事務局	役職	氏名
	1	市P連絡協議会事務局	池田 絹子	会長		校長	長谷川 雅一
2	民生委員児童委員	小堀 博子	副会長	教頭	松本 陽慈朗		
3	祝吉地区まちづくり協議会事務局長	今村 昇		教頭	江内谷 義郎		
4	郡元自治公民館長	細井 徹		主幹教諭	永井 繁郎		
5	都城市議会議長	神脇 清照		事務主査	川野 貴志		
6	いなり認定こども園長	浅井 俊博		主事	葛島 理華子		
7	祝吉小PTA会長	藪本 葵		主事	川路 かおり		
8	祝吉小PTA副会長	泊 百合加					

(2) 組織編制



3 活動報告

月 日	主な活動及び内容
4月上旬	・学校運営協議会委員選出
6月 3日	・第1回学校運営協議会（委嘱状交付、授業参観、学校運営協議会概要説明、自己紹介、役員選出、学校経営方針説明、活動内容の協議、情報交換）
7月30日	・第2回学校運営協議会・祝吉地区3校〔祝吉中・祝吉小・川東小〕合同で実施（各校の取組、情報交換・協議）
11月18日	・第3回学校運営協議会（授業参観、学校関係者評価についての説明、情報交換）
1月22日	・第4回学校運営協議会（授業参観、学校評価の結果報告・協議、情報交換）
3月 3日	・第5回学校運営協議会 ※予定（次年度の学校経営ビジョン・教育課程等） ・次年度へ引継ぎ

4 今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会を含む）

- (1) 6月：「学校と地域の連携（安全確保）」
- (2) 7月：「教職員の働き方改革」

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

- 熟議のテーマ「働き方改革」を受け、地域人材の活用という取組を行った。祝吉地区まちづくり協議会の「未来部会」がコーディネーターとなり、地域人材による学習支援を要請している。祝吉地区の自治公民館長、警察官、スポーツ選手、和菓子職員など、様々な立場・職種の人材が登録されている。学校の教職員が人材を探したり、講師依頼をしたりなどの準備が不要となり、働き方改革につながっている。
- 祝吉小校区は交通量が多いので、児童の安全確保のことが話題に挙がった。地域の見守り隊（スクールガード）が結成され、登校や下校中、児童の見守りをしてもらっている。大きな事故がなく、児童の安全が確保されている。元気なあいさつや優しい声掛けをもらい、児童は明るく登校している。



【地域人材の学習支援】



【スクールガードによる朝の見守り】

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

- 「児童の体力面について個人差が大きい」という意見を受け、体力向上のための取組を行ってきた。「パワーアップ体操」という本校独自の体操をつくり、体育の時間や朝の会の時間に取り組んでいる。昼休み時間は外遊びを励行し、遊具での遊びやおにごっこなどを通して体力向上を図ることができた。
- 「情報モラル・SNSルールについて指導を強化してほしい」という声を受け、学校全体のルールづくりや非行防止教室を行った。非行防止教室では、都城警察署の方を講師に招き、SNSの正しい使い方などを学んだ。



【朝の会でのパワーアップ体操】



【警察署の方による情報モラル授業】

(3) 地域貢献活動

- 祝吉地区の行事である「あやめ祭り」や「ふれあい文化祭」のステージで、本校の吹奏楽部が演奏発表をした。祭りが盛り上がりとともに、地域の方に喜んでもらった。

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 授業参観や熟議を通して本校の実態や課題を委員に把握してもらった。課題解決への貴重な意見をもらい、児童の安全確保や体力向上、教職員の働き方改革に生かすことができた。
- 学校運営協議会の協議内容や活動などを、学校ホームページで発信したが、保護者や地域住民に十分周知できなかったことが課題である。

7 次年度の方向性

- 学校運営協議会の活動を保護者や地域住民に周知させる手立てを協議する。
- 祝吉地区3校合同の運営協議会を充実させ、地区全体に活動を広げていく。

令和7年度 川東小学校学校運営協議会 実践報告

1 学校の概要

学校名	都城市立川東小学校		校長名	川添 卓哉	
学級数	14	児童生徒数	254名	職員数	33名
教育目標	心身ともに健康で、主体的・創造的に生きるたくましく実践力のある児童の育成				

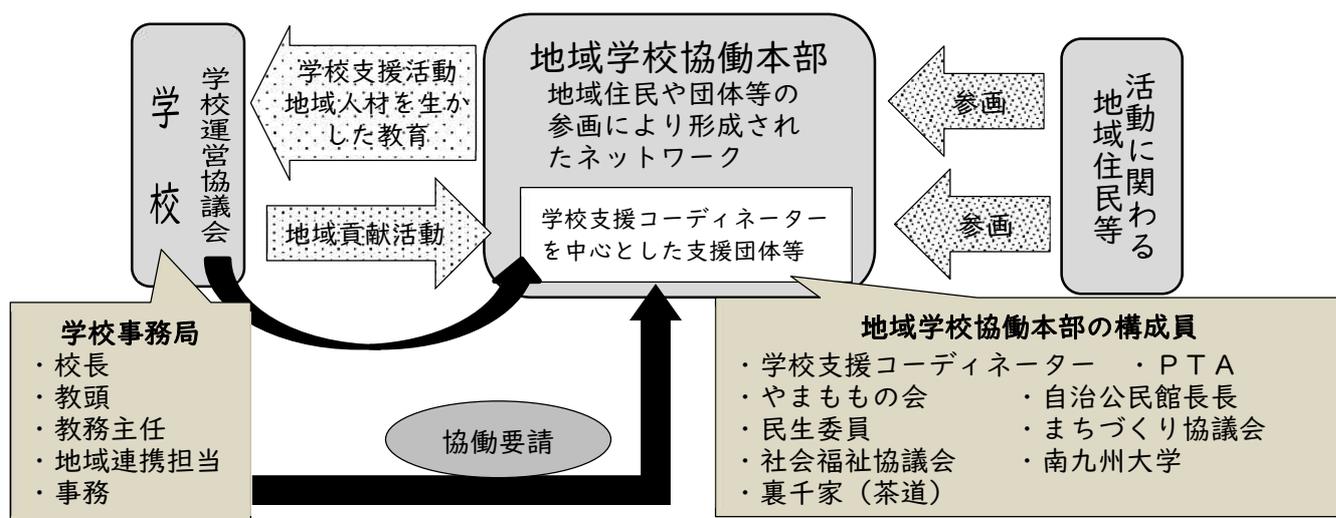
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員（計8名）・事務局（計5名）

No.	所属名（役職）	氏名	備考
1	下川東自治公民館長	山下 孝一	会長
2	元小学校校長	黒木 信吉	
3	見守り隊	黒木 準一	
4	祝吉地区社会福祉協議会	黒木 理佳	
5	さくらんぼこども園園長	櫻井 俊一	
6	前PTA会長	柚木 敏修	
7	PTA会長	寶来 大史	
8	PTA副会長	下津 佐崇	

役職	氏名
校長	川添 卓哉
教頭	黒木 聖雄
教務主任	野崎 成嗣
地域連携主任	福重 夏菜子
主任主事	原口 和秀

(2) 組織編制



3 年間の活動計画

月日	主な活動及び内容
6月27日	・第1回学校運営協議会（委嘱状交付、学校経営方針説明）
7月18日	・地域貢献活動（乙戸神社清掃 6年）
7月30日	・第2回学校運営協議会（祝吉地区合同学校運営協議会）
9月25日～	・学校支援ボランティア（ミシンボランティア 5・6年 計9回）
10月10日	
11月14日	・学校支援ボランティア（ふるさと参観日 全校）
11月20日	・第3回学校運営協議会（地域人材活用・地域貢献活動、評価項目について）
11月25日	・学校支援ボランティア（ハローワーク 6年）
11月28日	・地域貢献活動（公園、公民館等清掃 4・5・6年）
12月10日	・第4回学校運営協議会（学校評価について、学校関係者評価について）
1月27日	・第5回学校運営協議会（学校関係者評価のまとめ、今年度の活動の反省等）

4 今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会を含む）

7月：「ふるさとを好きになる子どもを育てるために」

祝吉地区3校の学校運営協議会委員が集い、「地域とともにある学校」づくりの実現に向けて各学校の課題や地域でできること等について協議した。

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

9月25日から10月10日にかけて、計10回の5・6年生の家庭科の授業に、総勢14名のミシンボランティアが参加した。ミシンの操作に慣れていない児童も多かったが、一人一人に対する丁寧な指導のおかげで、児童の技能は著しく上達し、全員が作品を完成させることができた。こうした個別対応の支援は、教員にとっても大きな助けとなった。

11月14日（金）には、ふるさと学習（参観日）を実施し、地域学校協働活動本部の協力のもと、総勢30名ほどのボランティアが講師として来校した。具体的には、1年「むかしの遊びをしよう」、2年「おいものついでリースを作ろう」、3年「地域の警察官の仕事」、4年「郷土料理ねったぼづくり」、5年「包括的性教育」、6年「マイブン活用～大昔の歴史～」と、各学年で特色ある活動を展開した。特に1・2・4年は保護者も一緒に活動する内容であり、普段できない体験を親子で共有できたことは大変好評であった。今後も保護者が共に活動できる内容を取り入れるなど、さらなる充実を図っていく方針である。

11月28日（金）には6年生の総合的な学習の時間において「6年生のハローワーク」を実施した。地域学校協働活動本部の仲介により、地域の保育士、薬剤師、看護師、保健師、自衛隊員、食品関係従事者といった7名の講師を招き、職業講話を行った。児童は多様な職業の生の話を聞くことができ、極めて有意義なキャリア教育の機会となった。

この他にも、登下校の見守りや茶道クラブ、参観日の預かり保育など、年間を通じて多くの学校支援ボランティアの協力を得ており、地域社会の支えによって充実した教育活動を遂行できている。

7月の祝吉地区3校の学校運営協議会委員との意見交換をする中で、今後の取組についても協議を深めることができ、来年度の活動に生かしていきたい。

働き方改革については来年度の教育課程の方向性を説明し、意見を頂いたことをもとに編成を進めている。

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

学校運営協議会委員の方から業務改善について「必要とされる地域人財も多種多様になっておりもっと依頼に協力したい。」「学校内だけでは解決が難しい部分もあるので関係各所と連携を通して改善へ向かってほしい。」等のご意見を頂き、来年度の教育課程の編成の参考にしていく。

(3) 地域貢献活動

11月28日（金）、4・5・6年生が各地区にて地域貢献活動を実践した。児童自らが計画を立て、公園や神社、公民館の清掃など、自分たちができる活動に取り組んだ。当日は、例年通り自治公民館の役員の方々にも参加していただき、地域と協力して作業を進めることができた。自分たちの住む場所を地域の方々と共に美しくする経験は児童が地域への誇りを持ち、郷土を愛する心を育む上で非常に大きな意義を持つものとなった。



【1年：昔の遊び】



【4年：ねったぼづくり】



【4・5・6年：地域貢献活動】

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 学校や児童の様子を直接参観していただくことで、学校運営への貴重な提言や支援を得ることができた。あわせて、地域における児童の生活状況についても情報共有が図られ、学校での指導に有効に活用することができた。
- 学校運営協議会および学校支援コーディネーターの尽力により、多くの地域ボランティアを招聘でき、多様で豊かな教育活動を展開することができた。
- 学校関係者として年間5回の学校運営協議会では学校の取組について評価するのは、十分な評価ができない点もある。今後の学校運営協議委員会の在り方について見直すことも検討する必要がある。

7 次年度の方向性

- 学校運営協議会を核として、家庭や地域との理想的な連携の在り方について協議を深め、双方が主体的に関わり合える場を積極的に構築していく。
- 学校教育の充実が地域の活性化へと還元される好循環を目指し、今後も地域社会とのパートナーシップを推進していく。

令和7年度 祝吉中学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立祝吉中学校		校長名	上徳 浩太郎	
学級数	21	児童生徒数	596名	職員数	51名
教育目標	豊かな心を持ち、確かな学力と体力を身に付け、社会の変化に主体的に対応し、自立できる生徒の育成				

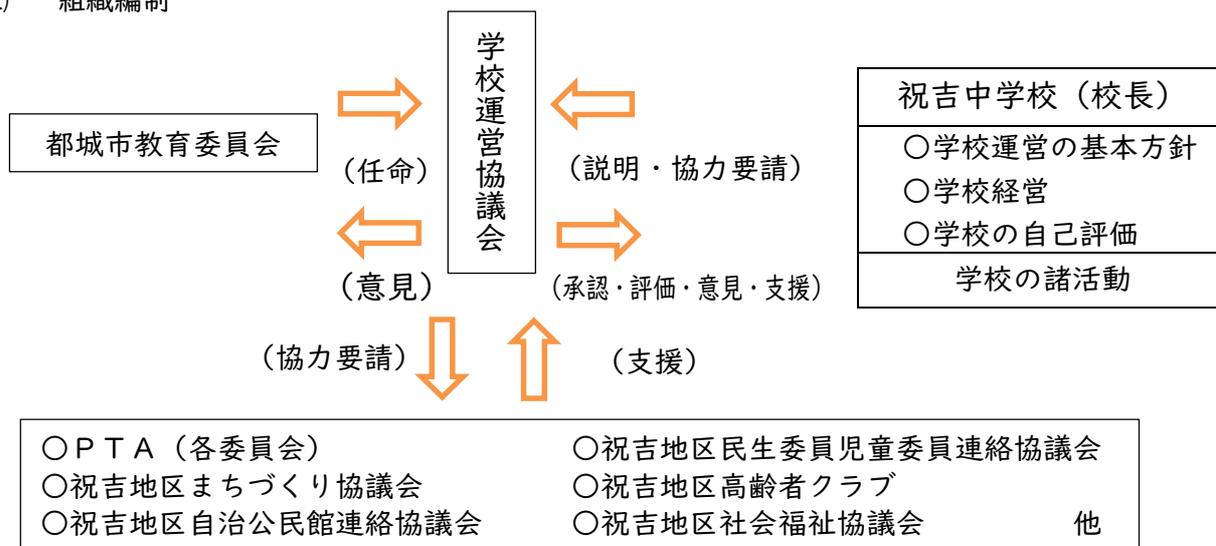
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員（計8名）・事務局（計4名）

学 校 運 営 協 議 会 委 員	No.	所属名（役職）	氏 名	備 考
	1	放課後こども教室コーディネーター	永田 優	会長
	2	スクールカウンセラー	笠牟田 保昌	副会長
	3	地区民生・児童委員長	外園 文廣	
	4	地区民生委員	今井 司	
	5	地区まち協副会長	茶藪 洋子	
	6	前PTA副会長	山口 剛司	
	7	PTA会長	永野 正和	
	8	PTA副会長	中元 友樹	

事 務 局	役 職	氏 名
	校 長	上徳 浩太郎
	教 頭	飯千 智晃
	教 務	湯浅 琢磨
	主 事	堀之内 尚志

(2) 組織編制



3 活動報告

月 日	主な活動及び内容
5月	・民生委員によるあいさつ運動①
6月20日	・第1回学校運営協議会（委嘱状交付、協議会の趣旨説明、学校経営説明、授業参観）
7月27日	・地域清掃活動
7月30日	・第2回学校運営協議会（祝吉地区小中学校合同学校運営協議会）
9月	・民生委員によるあいさつ運動②
10月9日	・第3回学校運営協議会（文化祭の参観、学校の現状説明、学校運営に関する協議）
11月30日	・第4回学校運営協議会（授業参観、学校の現状説明、学校運営に関する協議）
1月	・民生委員によるあいさつ運動③
2月6日	・第5回学校運営協議会（立志式、授業参観、学校評価に関する説明・協議、次年度の活動計画に関する協議、次年度への引き継ぎ）

4 今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会を含む）

7月：「ふるさとを好きになる子どもを育てるために」

祝吉地区三校（祝吉中・祝吉小・川東小）の運営委員で、標記テーマを柱に、ワークショップ形式で熟議し、これからの祝吉地区の発展と課題について話し合った。意見交換された内容は以下のとおりである。

- | | |
|------------------------------|---------------------|
| ・学校と地域の連携の在り方について | ・学校や地域行事の復活、関わりについて |
| ・学校と保護者、地域の関係が希薄化、協力を得るためには | ・交通安全、いのちの教育について |
| ・学校に登校することができていない児童生徒の対応について | ・学校施設、設備の老朽化について |
| ・教員不足、教員の働き方改革について | ・ボランティア活動への参加について 等 |

小中合同での開催は今年度で2回目であるが、引き続き、多角的な熟議を重ねていきたい。

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

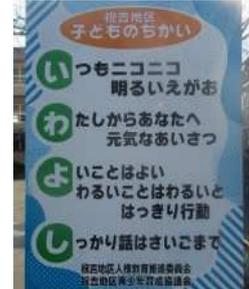
学校運営協議会委員の学校行事や参観日等の参加、民生委員による「あいさつ運動」のご協力をいただき、効果的な取組を行うことができている。地域とのふれあいを通して、生徒の健全育成を見守っていただいている。また、今年度は祝吉地区未来部会に「3年生の面接指導」の地域ボランティア協力を依頼し、6名の皆様が2回にわたってご指導くださった。加えて、老朽化した祝吉地区「子どものちかい」看板を一新していただいた。今後も、地域人材に学校の教育活動の支援を働きかけていきたい。



【民生委員によるあいさつ運動】



【地域人材による面接指導】



【看板のリニューアル】

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

- 学校運営協議会を通じて、学校の様子や運営、教育課程実施について説明を行って意見をいただいている。委員の皆様から地域への周知等についても協力をいただいている。
- 年度末に実施する学校評価では保護者をはじめ、学校運営協議会委員、地域の方々（公民館長・民生委員）にいただいた評価や意見を次年度の教育課程の改善に役立てている。
- 今年度の学校行事やフリー参観日等には、学校運営協議会委員に加え、地域の方々（公民館長・民生委員）を案内した。昨年度より来校者は増え、開かれた学校として息を吹き返し、昔話をいただける場面も多かった。地域からの視点と効果的な助言を参考に熟議を重ねながら、本校の教育目標達成を目指して引き続き連携を図っていきたい。

(3) 地域貢献活動

- 自主的に「子どもまちづくり協議会」や「放課後子ども教室ボランティア」に加入し、ジュニアリーダーとして積極的に地域貢献をする生徒が増えている。
- 地域で開催される催しに、ボランティアとして積極的に参加できている。流れとしては、各公民館長から地区長の保護者に生徒ボランティアの要請があり、学校の地区担当職員で広報や集約を行っている。毎回多くの生徒が参加し、地域の一員として地域の方々との交流を深めている。
- 6月の参観日と抱き合わせて各公民館長に来校いただき、職員と地区別ボランティア活動の打合せを行った。夏休み中の「都城市環境美化の日」「夏祭り」に合わせ、各公民館区で清掃活動や地区祭りのサポート等のボランティア活動を実施した。

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- | |
|--|
| ○ 地域からの学校教育への支援により、学校外の情報収集が図りやすい。 |
| ○ 学校運営協議会委員と共に学校行事等へ地域の方々に参加を促したことで、より開かれた学校として地域の声を耳にする機会が増え、助言や評価により学校経営の改善につながった。 |
| ○ 学校運営協議会委員の所属する団体から、様々な活動の情報が得られる。また、生徒が地域の一員としての自覚が高められる場として、地域の教育力の向上につながっている。 |
| ● 地域と学校の関係は回復してきているが、地域と家庭の関係はまだ希薄化している。年々、公民館加入率の低下を含め、学校PTAへの加入も懸念され始めている。 |
| ● 学校運営協議会を核として、地域や保護者、学校との関係性の構築をさらに図る必要がある。キャリア教育推進に向け、まちづくり協議会や社会福祉協議会等との連携を図っていきたい。 |

7 次年度の方向性

- | |
|--|
| ○ 引き続き、地域人材との協働による学校及び地域事業の活性化を推進していく。 |
| ○ 学校運営協議会の取組について、保護者や地域への発信をさらに強化し、学校と地域の双方に相乗効果が得られるような関係を構築する。 |

令和7年度 沖水小学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立沖水小学校	校長名	田爪 隆敏		
学級数	38	児童生徒数	888名	職員数	67名
教育目標	ふるさとを愛し、心豊かにたくましく生きる沖水っ子の育成				

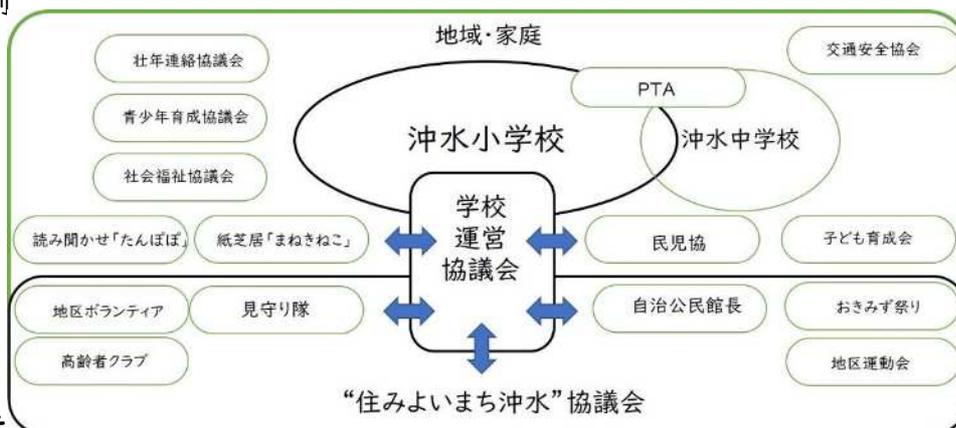
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員（計7名）・事務局（計5名）

学 校 運 営 協 議 会 委 員	No.	所属名（役職）	氏 名	備 考
	1	主任児童委員	鈴木 和義	会長
	2	主任児童委員	別府 愛子	
	3	“住みよいまち沖水”協議会副会長	清藤 和好	
	4	沖水中学校校長	加藤 正嗣	
	5	元主任児童委員	島村 芳幸	副会長
	6	沖水地区民生委員協議会会長	小田 裕子	地域コーディネーター
	7	PTA会長	今別府 雅史	
	8			

	役 職	氏 名
事務局	校 長	田爪 隆敏
	教 頭	鍋西 幸治
	教 頭	渡瀬 善和
	教務主任	溝邊 雅幸
	事務主査	衛藤 正俊

(2) 組織編制



3 活動報告

月 日	主な活動及び内容
4月	・学校運営協議会委員選出
6月 3日	・第1回学校運営協議会(委嘱状交付、授業参観、学校運営協議会概要説明、学校経営説明、質疑)
7月 7日	・民生委員児童委員、主任児童委員等との情報交換会(授業参観、情報交換「学校や地域での子ども達のよさや気になること」)
7月30日	・学校運営協議会拡大委員会(協議「地域・学校のよさや課題」「よさを生かして、または課題を解決するためにどんなことができそうか」、全体発表)
9月25日	・第2回学校運営協議会(授業参観、学校評価方針とアンケートの確認、学校運営協議会拡大委員会が出された内容の確認)
10月30日	・第3回学校運営協議会小中合同(授業参観、各校の現況説明、協議「学校や地域の課題に対する対応」)
12月	・学校運営協議会から自治公民館連絡協議会へ子ども110番の家確認の依頼
1月22日	・第4回学校運営協議会(授業参観、学校評価に関するアンケートの分析)
2月19日	・第5回学校運営協議会(授業参観、学校評価報告書の協議)

4 今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会を含む）

7月：「地域・学校のよさを生かして、または課題を解決するためにどんなことができそうか」

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

- 7月に教職員や学校運営協議会委員、沖水地区公民館館長、各自治公民館長、各地区民生委員児童委員・主任児童委員が一堂に会して学校運営協議会拡大委員会を開催し、「地域・学校のよさを生かして、または課題を解決するためにどんなことができそうか」というテーマで熟議を行った。その際「下校時の熱中症対策として、子ども達が一時涼む場所(子ども110番の家を含む)があったらよい」「土地勘のない教職員にとって、毎年行う子ども110番の家の確認は時間がかかる」という意見が出された。そこで、学校運営協議会で協議し、各自治公民館館長に依頼することになり、校長が12月の自治公民館連絡協議会に出席し依頼した。現在、各自治公民館で確認作業中である。

- 9月の学校運営協議会で、コロナ禍で一時中止していたベルマーク活動は再開されたのかという質問があった。回答として、今年度で活動が終了予定であるが、これまで収集したベルマークの整理が終わらない旨の話をしたところ、学校運営協議会委員の地域コーディネーター役の方が地区高齢者クラブや地区民生委員児童委員に整理を依頼してくれた。10月に3日間延べ19名が整理をしてくれ、終了の目途がたった。

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

- 5・6年生の家庭科の学習でミシンを使ってのエプロンやナップザックの制作があった。1学級30人以上の学級で教師1人だけではミシン指導は難しい。そこで、校長が学校運営協議会委員の地域コーディネーター役にミシン指導の学習支援を依頼した。地域コーディネーター役は地区高齢者クラブ等に依頼し、9月に9日間延べ29名、11月に2日間延べ6名の方が学習支援をしてくれ、当初の計画より早く制作が終わった。



【ミシン指導の学習支援】

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 新規で学校運営協議会拡大委員会を開催したことで、地域の方は学校職員のことを知ることができ、教職員は地域の方の学校に対する熱い想いを実感できた。
- 子ども110番の家の確認という学校の課題が、地域の理解と協力によって解決できた。
- 地域の教育資源(人、もの、こと)のさらなる活用を図る。

7 次年度の方向性

- 学校運営協議会拡大委員会の継続または中学校教職員を含めた会を開催する。
- 学校運営協議会で例えば「学校支援や地域貢献できること」というテーマで、毎回熟議をする。

令和7年度 沖水中学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

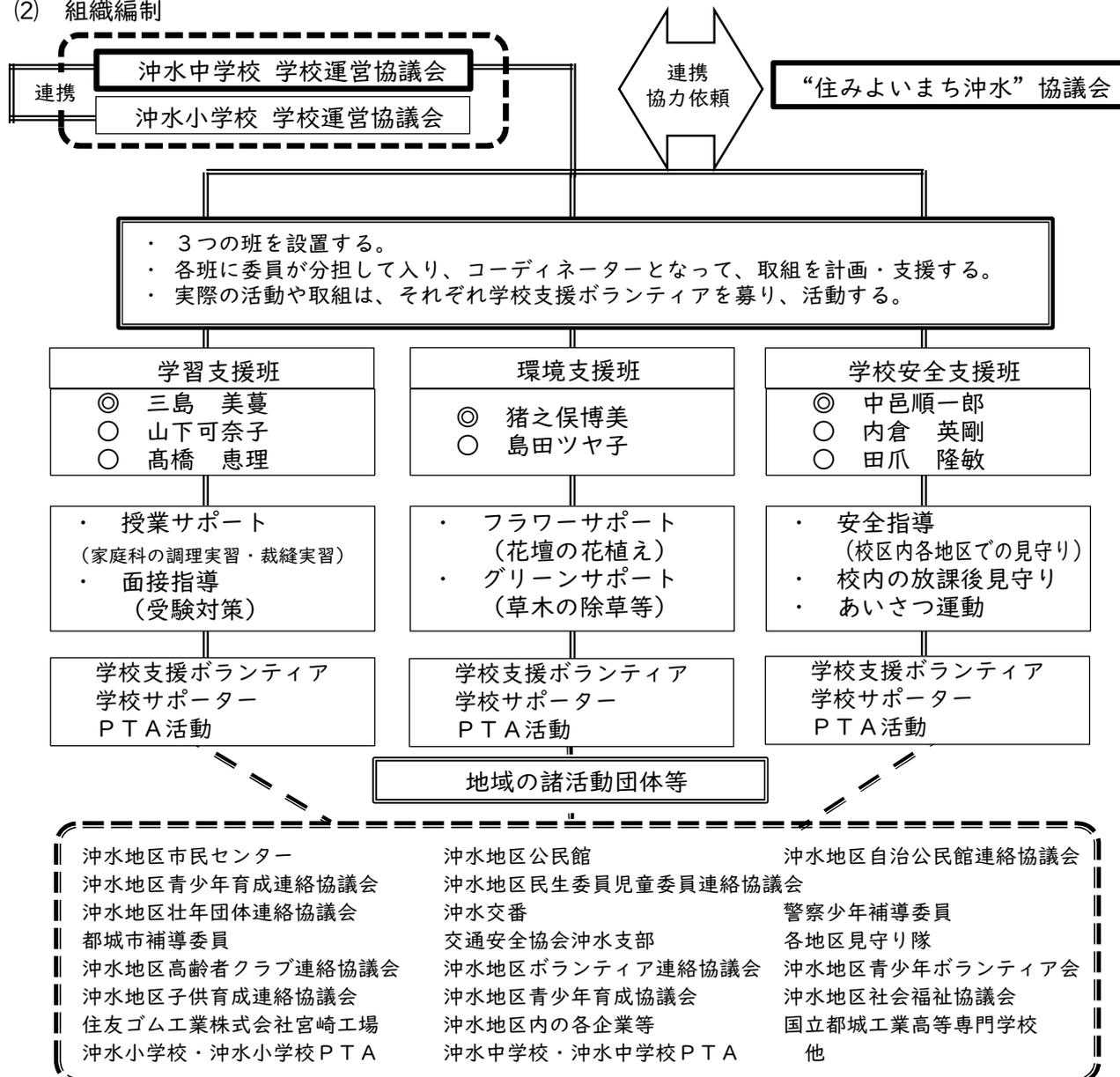
学校名	都城市立沖水中学校		校長名	加藤 正嗣	
学級数	14	児童生徒数	413名	職員数	29名
教育目標	『精励・敬愛・鍛錬』主体的に学び、心身ともに健やかで、人間力あふれる生徒の育成				

2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員（計8名）・事務局（計4名）

学校運営協議会委員	No.	所属名（役職）	氏名	備考	事務局	役職	氏名
	1	沖水地区青少年育成協議会会長	中邑 順一郎	会長		校長	加藤 正嗣
2	沖水地区壮年連絡協議会前会長	猪之俣 博美	副会長	教頭	牧之瀬 朗		
3	“住みよいまち沖水”協議会会長	三島 美蔓		教務主任	長谷川 純一		
4	太郎坊地区民生委員児童委員	島田 ツヤ子		事務主査	秋月 由香		
5	沖水中学校元PTA役員	山下 可奈子					
6	沖水地区ボランティア連絡協議会会長	内倉 英剛					
7	沖水小学校校長	田爪 隆敏					
8	沖水中学校PTA会長	高橋 恵理					

(2) 組織編制



3 活動報告

月 日	主な活動及び内容
5月17日	・ 体育大会参観
6月9日	・ 第1回学校運営協議会(委嘱状交付、委員紹介、協議会の趣旨説明、校長の学校運営ビジョンの説明、年間活動計画、授業参観)
9月16日	・ 第2回学校運営協議会(授業参観、学校の現状と課題説明、学校評価基本方針確認)
10月10日	・ 校内文化祭参観
10月30日	・ 第3回学校運営協議会〈小中合同〉(授業参観、小中学校経営と現況説明、学校や地域の課題に対する対応)
12月11日	・ 学校参観日フリー参観(中止)
1月26日	・ 第4回学校運営協議会(授業参観、学校支援及び地域支援の具体的取組について、学校評価アンケート調査結果報告と意見交換)
2月20日	・ 学校参観日フリー参観(立志式及び授業参観)
2月26日	・ 第5回学校運営協議会(学校関係者評価の報告、今年度のまとめ、次年度活動検討)

4 今年度実施した「熟議」のテーマ(小中合同学校運営協議会を含む)

6月:「学校だけでなく地域を含めたあいさつの推進」

9月:「授業等学習支援について」

10月:「学校や地域の課題に対する対応」

1月:「より詳しく学校の様子を知っていただくための方策」

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

① 学習支援

- ・ 授業サポート…家庭科の調理実習の時間の実習補助として、学校運営協議会委員の働きかけで、各公民館長を通じて地域の方々に依頼し、安全かつスムーズに実習を行うことができた。
- ・ 面接指導支援…3年生の受験対策として行われる面接指導に教職経験のある地域の方に協力を依頼し、面接練習を行った。緊張感のある中で充実した活動を行うことができた。



【調理実習授業サポート】

② 環境支援

- ・ フラワーサポート…環境支援担当のコーディネートにより、地域の高齢者クラブの方々による花壇の花植え(ひまわり・葉牡丹など)や手入れをしていただいた。昼休みの時間帯に活動していただくことでボランティアの生徒とともに活動することができた。



【フラワーサポートの様子】

③ 学校安全支援

- ・ 朝のあいさつ運動…生徒会の活動を後押しし、地域に挨拶の輪を広げようと、学校運営協議会並びに沖水地区青少年育成協議会に参加協力をいただきあいさつ運動を行うことができた。
- ・ 安全見守り…毎週水曜日、正門と東門で地域の見守りボランティアの方々に生徒の下校の様子を見守っていただくとともにあいさつの声掛けを行っていただいた。



【朝のあいさつ運動】

(2) 教育課程の改善(カリキュラム・マネジメント)

- ・ 本校は家庭科の免許を持った教員が不在の状況があり、各学年の家庭科を他教科の職員で分担して担当している。技能を伴う調理や縫の実技については生徒の安全管理及び技能面のアドバイスが必要となるため、食改善指導員等、地域の人材を活用するよう時間の設定を工夫した。

(3) 地域貢献活動

- ・ 地域から依頼があった行事等の運営協力要員として生徒がボランティアで参加した。毎年行われる「沖水地区大運動会」は天候不良で中止となったが、「大淀川こどもサミット」には19名、「大淀川流域一斉クリーンアップ」には76名、「沖水まつり」には15名、市の福祉協議会主催のボランティアフェスティバルにはプレゼン発表の4名の他に15名が参加した。

6 学校運営協議会の成果と課題 (○:成果 ●:課題)

- 学校の実態を見ていただきながら、実践につながるご意見をうかがうことができた。また、授業や環境整備の面を含め様々な支援をいただけた。
- 地域での生徒の様子等具体的な情報をいただき、学校での指導につなげることができた。
- 協議した内容が保護者とも共有できるように工夫して、PTA活動の充実につなげたい。

7 次年度の方向性

- 不登校生徒へのアプローチや別室登校生徒への対応について方策を協議する。
- 学校運営協議会において出された方策について、学校だより等の様々な方法で保護者や地域の方への周知ができるように工夫する。

令和7年度 志和池小学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立志和池小学校		校長名	瀬之口 忠二	
学級数	16	児童生徒数	313名	職員数	30名
教育目標	心身ともに健康で、よく学び、正しく判断できる児童の育成				

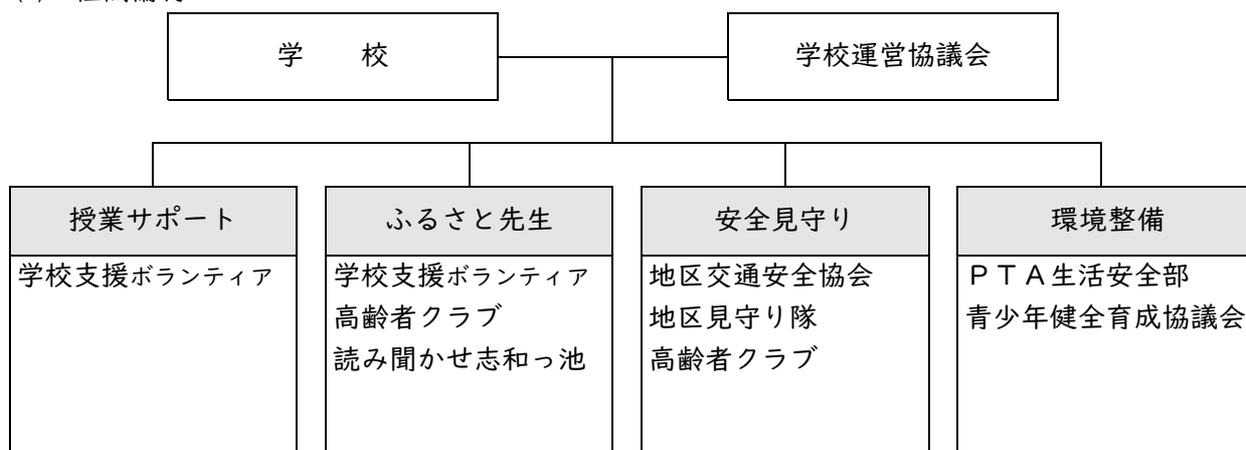
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員 (計7名)・事務局 (計3名)

学 校 運 営 協 議 会 委 員	No.	所属名 (役職)	氏 名	備 考
	1	元小学校校長	上原 正人	
	2	元主任児童委員	東 智恵子	
	3	志和池さくらんぼこども園園長	高田 昌彦	
	4	らいおんキッズクラブ施設長	佐土原 正次	
	5	志和池地区社会福祉協議会事務局長	黒木 政信	
	6	主任児童委員	楠牟礼和幸	
	7	志和池小PTA会長	平山 五記	会 長
	8			

事 務 局	役 職	氏 名
	校 長	瀬之口 忠二
	教 頭	山崎 克尚
	教務主任	井上 浩樹

(2) 組織編制



3 活動報告

月 日	主な活動及び内容
4月～5月	・学校運営協議会委員の推薦・選出
4月12日	・見守り活動開始
6月19日	・第1回学校運営協議会 (委任状交付・学校経営説明・年間行事の検討・協議)
7月30日	・第2回学校運営協議会 ※ 志和池中校区合同協議会 (志和池中校区の実態分析・共通理解事項確認)
11月12日	・第3回学校運営協議会 (2学期の行事実施状況及び今後の計画・学校評価)
1月28日	・第4回学校運営協議会 (学校評価に関するアンケートについて)
2月18日	・第5回学校運営協議会 (学校運営協議会委員評価書の検討・学校への助言と提言)

4 今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会を含む）

7月：「ふるさとを好きになる子どもを育てるため」

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

ア 学習指導支援

学習指導支援として、高学年では、運営協議会員を中心に、家庭科でのミシンの使い方の指導を依頼した。運営協議会委員及び地域の方々に来ていただき、担任とともに指導し、安全面の確保も十分図られた活動であった。また、高学年は「がね」作りを毎年行っており、今後も地域との連携活動の充実を図っていきたい。



【地域の方とのがねづくり】

イ 見守り活動

毎月第3水曜日を「見守りの日」とし、地域の方々による見守り活動を自主的に行っていた。登下校中の安全指導だけではなく、積極的なあいさつ運動の促進として、朝の校門で見守っていただいている。児童は、地域から大切にされていると実感し、元気なあいさつには委員の方からも評価を得ている。また、3月には見守り隊感謝集会を実施し、日頃お世話になっている方々へ感謝の気持ちを伝えるためにメッセージカードを作成し渡すことで、見守り隊の方々も喜ばれている。

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

ア 体験活動の充実

「体験活動の充実を図る必要がある」という意見を受けて、2年生において生活科と関連付けした「こまづくり」を実施した。毎年、学校運営協議会委員を講師として招き、指導をお願いしている。



【2年生のこまづくり体験活動】

イ 福祉体験の充実

福祉教育については、毎年3年生の総合的な学習の時間に実施している。

そして、都城市の福祉協議会と連携し、アイマスク体験や車椅子体験・盲導犬の学習を実施し、支援の方の話を聞き指導に生かしている。



【3年生の盲導犬体験活動】

(3) 地域貢献活動

ア 地域を誇りに思う気持ちを育てる取組として、5、6年生の児童が地域の伝承芸能である棒踊りの継承を行っている。地域の方に学び、友だち同士で教え合うことで、感謝や伝統を大切に思う気持ちが育っている。さらに、地域の棒踊り復活プロジェクトを行い、高学年児童数名が神社で演技を披露し、復活の一助をなすことができた。

イ 年賀状大作戦

まちづくり協議会と連携し、地域の高齢者の方へ年賀状を送る活動を行っている。地域の方からも児童への年賀状をいただくこともあり、心温まる活動として継承していく。

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

○ 第2回学校運営協議会において、志和池中校区4校合同（管理職及び各校の学校運営協議会委員）で実施したことで、志和池地区の現状と課題について共通理解を図ることができた。また、様々な体験活動を実施し、地域との交流を深めるとともに、本校の特色ある教育活動につなげることができた。

● 昨年度に引き続き、委員の方も社会の変化に関心があり、特に、ICT機器の活用には大きな期待を持っている。本校の特色の1つであるICT機器の活用を、さらに地域との協働に広げ、教育活動の活性化につなげていく必要がある。

7 次年度の方向性

- 今後もICT機器の活用を、地域との連携・協働に広げていく取組を積極的に推進する。
- 地域人材の高齢化が課題であることから、PTAを含めた新たな人材確保を図る必要がある。

令和7年度 丸野小学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立丸野小学校		校長名	関 裕章	
学級数	7	児童生徒数	121名	職員数	14名
教育目標	「丸野愛」(一人一人を大切に思い行動する心と体、丸野への郷土愛)を育む学校				

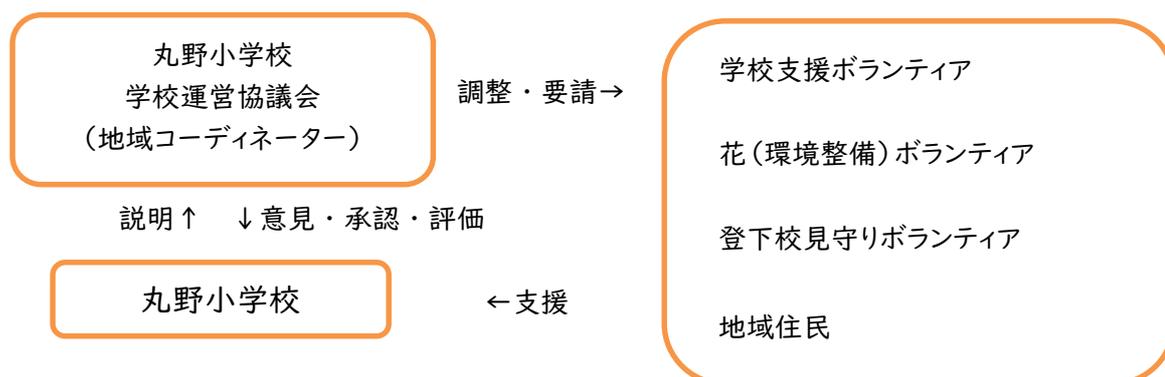
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員(計8名)・事務局(計3名)

学 校 運 営 協 議 会 委 員	No.	所属名(役職)	氏名	備考
	1	主任児童委員	竹之下 一美	会長
	2	元自治公民館長	上小牧 一郎	副会長
	3	地域コーディネーター	齊藤 絹代	地域コーディネーター
	4	学校支援ボランティア	橋口 八重子	
	5	まるのキンダーガーデン園長	清水 まゆみ	
	6	丸谷自治公民館長	園田 昭一	
	7	都北学園園長	済陽 嬢	
	8	丸野小PTA会長	永盛 福千	

事 務 局	役職	氏名
	校長	関 裕章
	教頭	安藤 孝治
	事務	村田 梢

(2) 組織編制



3 活動報告

月 日	主な活動及び内容
6月 2日	○ 低学年によるイモの苗植え活動の支援ボランティア
6月 6日	○ 第1回学校運営協議会 (委嘱状交付、役員選出、学校経営方針説明、年間計画説明)
10月 7日	○ 第2回学校運営協議会(令和7年度志和池地区合同学校運営協議会) ○ ふれあい活動(フリー参観)*千代紙制作、竹細工指導簿ボランティア (※第3回学校運営協議会を兼ねる:参観・支援)
10月 26日	○ 運動会参観(奴踊り披露)
11月 28日	○ 第4回学校運営協議会(これまでの取組、学校評価説明)
12月 11日	○ 門松づくり(3年)
2月 18日	○ 都北学園交流(6年)
2月 20日	○ 第5回学校運営協議会(授業参観、学校評価報告、次年度の方針説明)

4 今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会を含む）

7月：「学校と地域とのつながりを考えよう」

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

- 毎年開催している「ふれあい活動」は、今年も計画通り実施した。その際、7月実施の協議をふまえ、打合せ会では、内容やボランティア人員の割り振り等を含む見直しをした。
- 7月実施の熟議を受け、より地域とのつながりを強化するため、新しく学校運営協議会委員に支援ボランティアとして協力をいただき、この活動が持続可能になるよう調整した。



【竹細工の指導ボランティア】

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

○ 体験活動の拡充

地域とのつながりを更に深めるため、今年度は新規事業として近隣の幼稚園の協力をいただき、5年生が交流活動を行った。

初めての幼稚園生との交流に向け、5年生児童は読み聞かせや様々なゲーム等の準備をし、本番に臨んだ。

幼稚園の年少、年中、年長に分かれて活動を行い、幼稚園生に喜んでもらえる姿をみて、5年生児童が主体的に動く場面も見られ、充実した体験活動をすることができた。



【幼稚園生と交流活動】

(3) 地域貢献活動

○ 伝統芸能の継承

本校の伝統芸能である「奴踊り」については、昨年度より運動会で披露することになり、評価も高い。

運動会に向け、踊りの指導から法被の着用の仕方まで地域ボランティアの支援を受けた。本番では、5,6年生が法被を着用し、3,4年生も伝統を受け継ぐという意味で5,6年生と一緒に出演した。



【3年生以上で奴踊り】

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 今年度も地域コーディネーターとの連携・調整により、計画どおりに活動をすべて実施することができた。
- ふれあい活動や門松づくりにおいて、新しい地域人材を確保することができた。
- 学校運営協議委員の高齢化に伴い、今後、委員を委嘱できる人材の発掘が必要である。

7 次年度の方向性

- 学校運営協議委員や地域ボランティアの人材発掘と確保を継続して進める。
- 学校運営協議会の活動について、ホームページ等を活用して情報発信に努め、さらに理解と共感の輪を広げる。

令和7年度 志和池中学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立志和池中学校		校長名	松下 綾	
学級数	8	児童生徒数	207名	職員数	20名
教育目標	思いやりの心もち、知性に富み、たくましい体をそなえた、実践力のある生徒の育成 ～互いを認め合い、学びあい、未来を創造する学校づくり～				

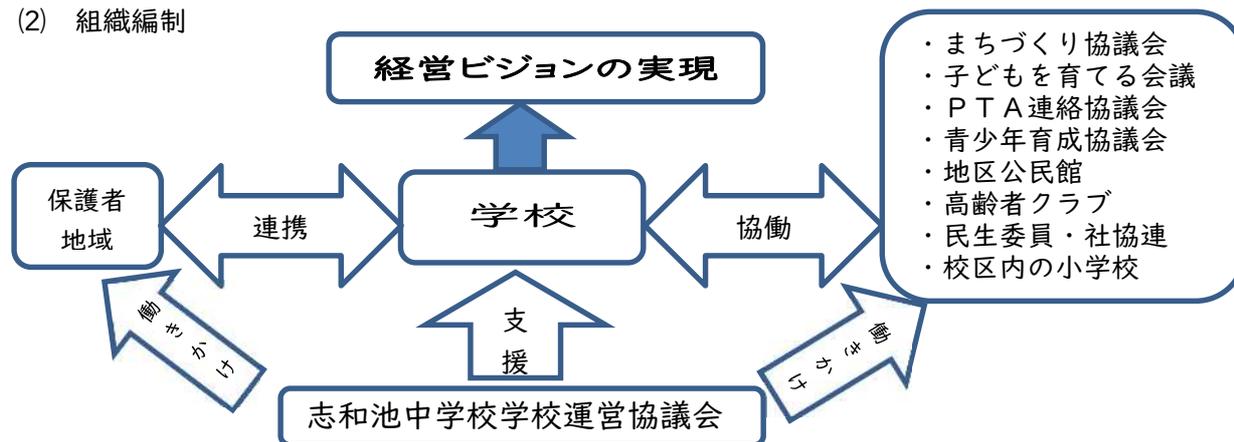
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員 (計7名)・事務局 (計2名)

学校運営協議会委員	No.	所属名 (役職)	氏名	備考
	1	志和池地区公民館	石川 清澄	
	2	民生児童委員	吉行 桃枝	
	3	志和池地区主任児童員	竹之下 一美	
	4	さくらんぼ子ども園園長	高田 昌彦	
	5	上水流中公民館長	飯田 淳一	
	6	元PTA副会長	内村 裕子	会長
	7	PTA副会長	佐藤 香織	
	8			

事務局	役職	氏名
	校長	松下 綾
	教頭	新町 幸子

(2) 組織編制



3 年間の活動計画

月日	主な活動及び内容
4月	・ 学校運営協議会委員選出
4月30日	・ 第1回学校運営協議会 (委嘱状、学校経営説明、学校評価の評価観点の確認、地域が学校と協力して行う活動の確認)
5月17日	・ 体育大会参観
6月20日	・ 第2回学校運営協議会 (意見交換、授業参観)
7月30日	・ 第3回学校運営協議会 (志和池地区合同学校運営協議会) (協議テーマ「ふるさとを好きになる子どもを育てるために」、小中一貫教育研修会報告)
10月10日	・ 学習発表会参観 (オープンスクール10月7～10日)
10月31日	・ 第4回学校運営協議会 (意見交換、学校評価の検討、次年度校時程の承認、授業参観)
2月6日	・ 第5回学校運営協議会 (学校評価、次年度教育課程説明、改善事項の協議、立志式参観)

4 今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会を含む）

7月：「ふるさとを好きになる子どもを育てるために」

「地域と学校の未来創造ミーティング」の内容をもとに小中合同学校運営協議会を行った。
地域と学校が連携・協働を進めることで目指す変化について話し合った。

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

【朝の読み聞かせ活動】

- ・ 読み聞かせグループ「志和っ池」による、1、2年生を対象とした月に一度の朝の読み聞かせ活動を行っている。1、2年生対象だが、生徒も真剣な態度で熱心に聞き入り、創造力を豊かにする良い機会となっている。



【読み聞かせ活動】

【総合的な学習の時間の外部講師】

- ・ 総合的な学習の時間において、外部講師として招聘したり、生徒が出向いて話を聞いたりするなど様々な場面で支援していただいた。1年生では、地域の高齢者クラブや地域企業に協力していただき、しめ縄づくりや地域調査を行った。3年生では、地域がどのような活動を求めているのかを話し合い、公民館や保育園などで活動させてもらった。



【公民館清掃活動】

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

【小中一貫教育について】

- ・ リーディング DX の取組を中心に小中合同で研修を行い、生徒が主となって学びを進める授業を行うようになった。昨年度は運営協議会で小学校との学習用端末の使用頻度の差について指摘されたが、今年度は良く取り組まれていると意見が出た。また、授業公開に向けての準備の段階で様々な助言をいただいた。



【LDX の取組】

【校時程の変更について】

- ・ 3学期より、働き方改革と部活動時間の確保を両立させる校時程について提案し承認を得た。遅くとも17時半までに下校することは、明るいうちに帰ることができて安心であると意見をいただいた。

(3) 地域貢献活動

【寺子屋サロンボランティア】

- ・ 社会福祉協議会とまちづくり協議会が主催の寺子屋サロンにボランティアとして参加した。150名程の生徒が参加し、小学生の工作活動の助手をしたり、学習支援を行ったりすることができた。



【寺子屋サロンボランティア】

【南九州駅伝前日清掃ボランティア】

- ・ 南九州駅伝前日清掃ボランティアとして、部活動生に加え、8名ボランティアの希望があった。寺子屋サロンや総合的な学習をきっかけに、地域との交流を望む生徒がでてきた。

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 地域の人材を活用した取組を行ったり、地域に出向いてボランティア活動を行ったりして充実した教育活動を行うことができた。
- 小中合同で運営協議会を開催し、意見交換をしたり、児童生徒や学校、地域の目指す方向性を確認したりすることができた。
- 下校指導を行っているものの、学校周辺の道路が狭いため、並列して下校する生徒が多い。
- 他の会議への学校運営協議委員の参加の負担や効率の良い会議の運営が課題である。

7 次年度の方向性

- 今年度と同様、学校行事や参観に合わせて運営協議会を行い、生徒の活動の様子を参観していただく。
- 地域との関わり方を再構築していく際、支援や意見をもらい教育課程に反映していく。

令和7年度 都城市立白雲小・中学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立白雲小・中学校		校長名	児玉 剛	
学級数	4	児童生徒数	9名(R8.2.1 現在)	職員数	11名
教育目標	自ら考え、適切な判断を行い、行動する児童生徒の育成				

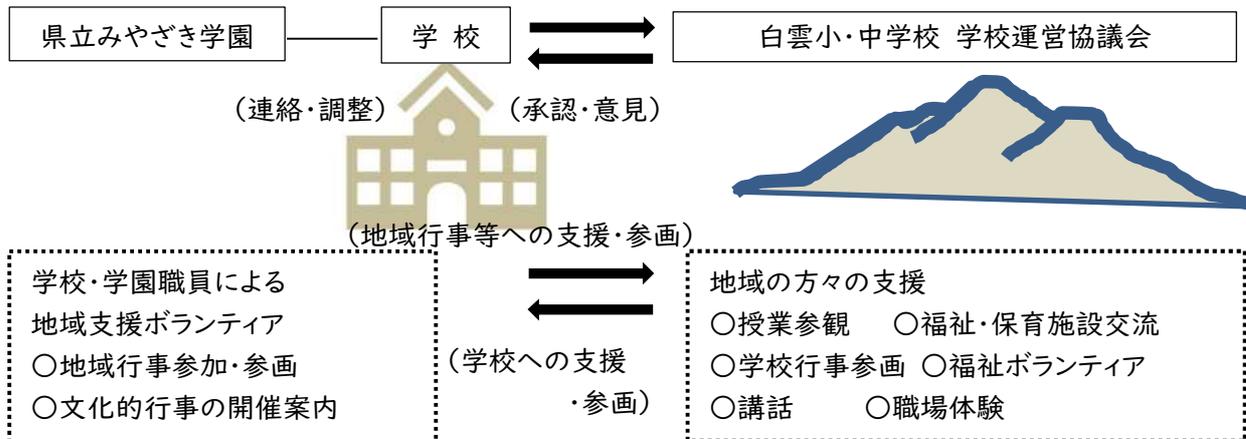
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員 (計7名)・事務局 (計2名)

No.	所属名(役職)	氏名	備考
1	人権擁護委員	山川 裕彦	会長
2	特別養護老人ホーム ほほえみの園 施設長	吉村 陽子	副会長
3	かなだ認定こども園園長	高光 孝博	
4	志和池地区生活支援 コーディネーター	瀬戸山 みよ	
5	都城市社会福祉協議会 山田サテライト	大牟田 智子	
6	山田地区民生委員	川崎 照子	
7	県立みやざき学園園長	大坪 克弘	

事務局	役職	氏名
	校長	児玉 剛
	教頭	中谷 義治

(2) 組織編制 (説明)



3 活動報告

月日	主な活動及び内容
4月	○ 学校運営協議会委員選出
5月29日	○ 第1回学校運営協議会(委嘱状交付、年間活動計画、学校経営方針説明、授業参観)
7月9日	○ 第2回学校運営協議会(学校の現状と課題説明、学校評価基本方針説明、授業参観)
7月30日	○ 志和池・白雲校区4校合同学校運営協議会(各校の1学期の取組、対話)
11月8日	○ 第3回学校運営協議会(学校の現状と課題説明、自己評価項目検討、ふれあい祭参観)
11月18日	○ 地域交流活動(まんがつか認定こども園との交流会)
12月11日	○ 第4回学校運営協議会(学校の現状と課題説明、自己評価結果報告)
1月16日	○ 第5回学校運営協議会(学校の現状と課題説明、学校の自己評価結果説明、学校関係者評価の実施)
2月	○ 本年度の成果と課題、次年度の方向性検討、学校評価報告書作成
3月	○ 次年度への引継ぎ

4 今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会を含む）

7月：「ふるさとを好きになる子どもを育てるために」

志和池中校区4校合同で学校運営協議会を開催し、上記のテーマで熟議を行った。本校は、志和池地区出身の児童生徒ではないが、志和池地区が「心のふるさと」になるような取組を行っていききたい。

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

委員より紹介していただいた方を講師に招いて、本校でキャリア講話を実施した。当日は、元海上自衛官の方を講師に招き、仕事で南極に赴いた自身の経験を、南極とテレビ電話をつなぎながら話してくださった。生徒たちは、自分自身のキャリアプランと重ね合わせながら興味深く話に聞き入っていた。

また、講話終了後には質問をするなど、とても有意義な時間を過ごすことができた。



【キャリア講話の様子】

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

例年実施している近隣の「まんがつか認定こども園」園児との交流会を今年度も実施した。当日は、児童生徒が徒歩で園児を迎えに行き、一緒に徒歩で本校まで帰ってきた。実際に弟や妹がいる児童生徒も多く、手をつないで車道側を歩くなど園児を気遣う場面が随所に見られた。

本校についてからは、児童生徒が考えたゲームで交流を深め、最後は、園内の畑で芋ほりを楽しんだ。



【園児との交流会】

(3) 地域貢献活動

本校に隣接する特別養護老人ホーム「ほほえみの園」で、毎月1回入所者や利用者を対象に施設内カフェを開業している。「このカフェの営業を手伝ってほしい。」と施設長である委員より声をかけていただき、今年度より毎月、ボランティアで手伝いに行っている。

本校の児童生徒がカフェの店員、施設利用者が客という想定で、注文をとったり商品を運んだり、カフェ店員の業務を行っている。客は高齢者が多いため、同じ目線になって会話をしたり、安全を確認しながらゆっくりと車いすを押したりするなど普段の学校生活では見ることのできない姿を見ることができ、有意義な時間となっている。



【施設内カフェでのボランティア】

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 様々な問題を抱えている本校の児童生徒のありのままの姿を、委員はもちろん多くの地域の方に見ていただくことで、地域にある学校として認知されてきている。
- 児童生徒の中にも「地域の人喜んでくれると嬉しい。」という感情が芽生えはじめている。
- 協議会の内容を更に充実させ、委員の意見を多く引き出す方策を検討していきたい。
- 地域との交流に関してさまざまな制限がある本校だが、更に地域と交流を深められるよう、行事を工夫していく必要がある。

7 次年度の方向性

- 更に地域に根ざした学校となるような取組を進めていきたい。
- 児童生徒の中にも「地域に貢献できる喜び」を実感させられるような行事等を計画していきたい。

令和7年度 庄内小学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立庄内小学校	校長名	日高 真美
学級数	9学級	児童生徒数	122名
		職員数	18名
教育目標	自主的で創造性に富み、心身ともに健康でたくましく、思いやりのある子どもを育成する。		

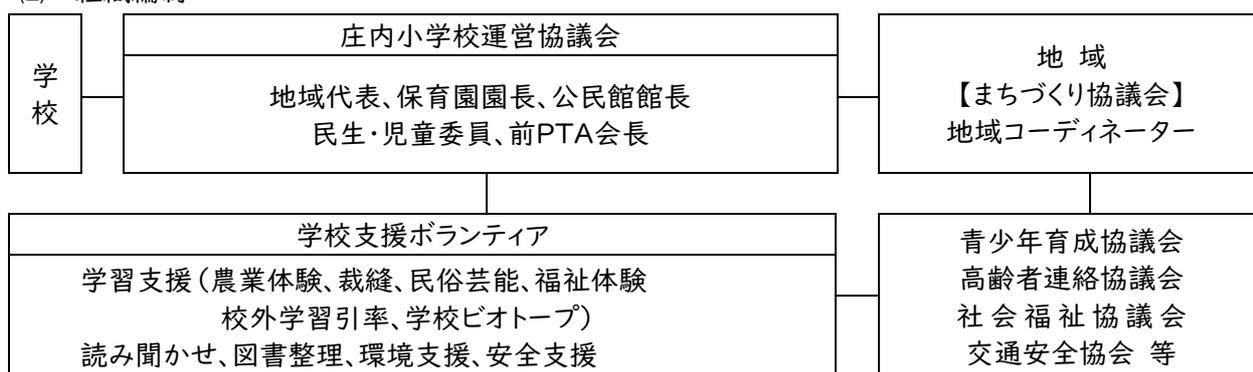
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員（計7名）・事務局（計4名）

学校運営協議会委員	No.	所属名（役職）	氏名	備考
	1	丸宮建設株式会社社長	河野 一治	会長
	2	手仕事舎そうあい理事長	蒲生 芳子	副会長
	3	前PTA会長	中野 諭	副会長
	4	ルンビニ保育園園長	大河内 千秋	
	5	西区自治公民館館長	中村 守	
	6	民生委員・児童委員	名谷 久美子	
	7	都城市人権擁護委員	内田 由紀美	

事務局	役職	氏名
	校長	日高 真美
	教頭	松元 秀樹
	教務主任	嶋名 稔
	事務主査	加覧 愛子

(2) 組織編制



3 活動報告

月 日	主な活動及び内容
4月	・学校運営協議会委員の推薦、都城市教育委員会より委嘱状交付
4月10日	・入学式参列
5月27日	・第1回学校運営協議会 (授業参観、委嘱状交付、学校経営ビジョン・協議会趣旨説明、年間活動計画説明)
7月17日	・庄内地区まちづくり協議会・庄内地区PTA協議会講演会 (「命の授業」～子供は地域の宝・地域の子供は地域の大人が育てる～ 腰塚 勇人氏)
7月29日	・第2回学校運営協議会(庄内地区4校合同「庄内地区学校運営協議会委員懇話会」) 「地域と学校の未来創造ミーティング」参加
10月26日	・運動会参観
10月31日	・第3回学校運営協議会 (授業参観、学校評価基本方針、アンケート項目、学校の現状と課題について、質疑)
1月20日	・第4回学校運営協議会 (授業参観、学校の現状、学校評価の結果について、質疑)
2月10日	・第5回学校運営協議会 (授業参観、実施報告、次年度の活動案検討)
3月25日	・卒業式参列
3月	・次年度へ引継、準備

4 今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会を含む）

7月：「地域と学校の未来創造ミーティング」

- ・ふるさとを好きになる子どもを育てるために

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

本校の特色である「学校ビオトープ」を整備し、充実した環境学習をしてほしいという意見を受け、学校運営協議会委員である河野さんや蒲生さんの協力のもと、排水と池の周りの工事を行っていただいた。今年度も、4年生の総合的な学習の時間に県環境アドバイザーでもある蒲生さんが講師となり、庄内小の3つのビオトープの観察や「生き物と私たちの暮らし」をテーマにワークショップを行い、充実した環境学習を行うことができた。



【「学校ビオトープ」の整備】

庄内地区では、庄内地区まちづくり協議会内に「庄内地区学校支援地域本部」の事務局が置かれ、地域をあげて学校を支援する体制が整っている。登校中の児童の安全確保のための見守り活動、いも畑の整地、もち米作り、もちつきの手伝い、読み聞かせ、庄内音頭の指導、お別れ遠足(校外ウォークラリー)での見守りなど、地域人材の中から最適なお方をご紹介いただき、学習活動の中で御協力をいただいた。

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

今年度から、4年生の校外学習として、関之尾滝を水源とする用水路(南前田用水路、北前田用水路、前田用水路)の見学や歴史を学習するにあたり、庄内地区まちづくり協議会(庄内地区学校支援地域本部)に依頼し、「関之尾むかえびとの会」に協力していただいた。また、夏季休業中に、庄内地区小・中学校に新しく着任した職員を対象に「地域巡見研修」(地区内の史跡、文化財などを巡る研修)も行われている。



【4年生校外学習】

(3) 地域貢献活動

本校区には4つの民俗芸能があるが、夫婦踊りと水道音頭においては指導者の高齢化や少子化により、伝承活動をどのように継続していくのかという課題がある。熊襲踊りや南洲太鼓は、地域での活動が継続していて、大人と一緒に参加している児童もいる。南洲太鼓と夫婦踊りについて、6年生の総合的な学習の時間で由来についての学習や体験活動を行った。また、今年度から、地域や運動会で踊られていた「庄内音頭」を、3・4年生が運動会と11月2日に開催された「庄内ふるさと祭り」で発表し、地域の方からも喜ばれた。



【庄内ふるさと祭りで庄内音頭を披露】

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 学校運営協議会を開催する際には、授業参観を設定したり、入学式や運動会に参列していただいたりして、学校の様子や児童の様子を見ていただき、「学校の応援団」として貴重な意見をいただいた。
- 学校評価を確認する中で、学校運営協議会、支援ボランティアの活動が保護者に十分伝わっていないのではないだろうか、という意見が出された。今後もPTA総会や学校だより・学級だより等を通して、今以上に積極的に発信していく。

7 次年度の方向性

- 学校運営協議会での情報交換や協議を通して、地域学校協働活動の推進・充実を図っていく。
- 地域とともにある学校として、学校と地域の連携の在り方について協議を継続していく。

令和7年度 菓子野小学校学校運営協議会 実践報告

1 学校の概要

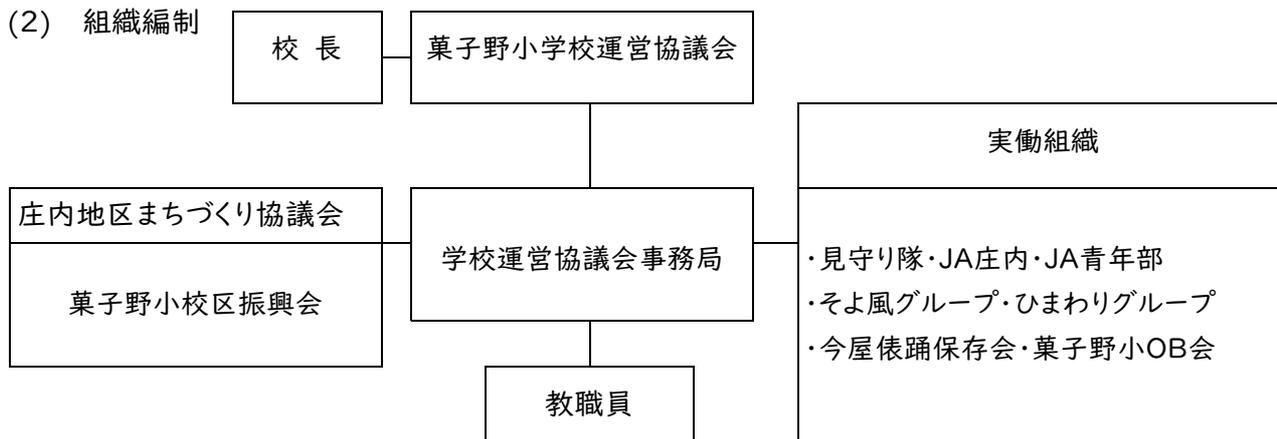
学校名	都城市立菓子野小学校		校長名	溝口 常彦	
学級数	7学級	児童生徒数	87名	職員数	13名
教育目標	「心も、体も元気よく、自ら学ぶ子どもの育成」				

2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員(8名)・事務局(3名)

学校運営協議会	No	所属名(役職)	氏名	備考	事務局	役職	氏名
	1	前PTA会長	岡元 健太	会長		校長	溝口 常彦
	2	PTA会長	田村 伸也			教頭	木幡 博史
	3	千草自治公民館長	鎌田 忠幸			教務主任	齊藤 紘希
	4	今屋自治公民館長	新地幸三郎				
	5	宮島自治公民館長	七牟禮 淳二				
	6	元本校校長	後藤 薫				
	7	保護司・そよかぜグループ	土屋 裕子				
	8	民生委員・児童委員	土屋美代子				

(2) 組織編制



3 年間の活動計画

月	主な活動及び内容
4月 8日	・朝の見守り活動開始
4月 24日	・3、4年生俵踊り練習(今屋俵踊り保存会による指導)以後練習を3回実施
5月 25日	・運動会で俵踊りの披露
6月 4日	・庄内地区史跡巡り(4年総合的な学習～庄内まちづくり協議会、関之尾むかえ人の会などの方々によるお話と史跡の見学)
6月 4日	・さつま芋の植え付け(菓子野小OB会の方による植え方の1・2年生に指導・支援)
6月 25日	・田植え(5年総合的な学習～JA庄内、JA青年部、そよかぜグループ)
6月 29日	・第1回学校運営協議会(委嘱状交付、学校経営方針説明、年間活動計画確認)
7月 29日	・第2回学校運営協議会(委員で「未来創造ミーティング」へ参加)
9月 17日	・オープンスクール授業参観、第3回学校運営協議会 (教育活動中間報告、学校保健委員会の参加、給食試食会の参加)
10月 7日	・稲刈り(5年総合的な学習～JA庄内、JA青年部、そよかぜグループ)
10月 20日	・脱穀(5年総合的な学習～JA庄内、JA青年部、そよかぜグループ)
11月 4日	・ふるさと祭り (今屋俵おどり保存会と児童による合同発表、JA青年部と5年生児童との米の販売)

12月 4日	・第4回学校運営協議会(教育活動報告、学校評価について)
1月23日	・米作りお礼の会(5年総合的な学習～JA庄内、JA青年部、そよかぜグループ)
2月 5日	・第5回学校運営協議会 (学校評価に関する協議、次年度学校運営協議会委員推薦)

4 今年度実施した「熟議」のテーマ

12月:タブレットPCの活用と書く活動

- 世代間交流の行事で児童より感想を書いてもらった。タブレットPCを活用しての発表や態度は、とても分かりやすいもので引き込まれる内容で素晴らしかった。しかし、活動の感想を書いてもらったが、漢字を使っていないのが大変気になった。タブレットPCを活用して調べたり、プレゼンしたりする力等、情報活用能力は求められている資質や能力である。書くことは、学習の基礎・基本であり、学力向上の土台になるものである。バランス良く指導していき児童生徒に力をつけていく必要がある。児童・生徒の実態や発達段階を踏まえ、バランスについても考えていく必要がある。

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

総合的な学習の時間における支援で農業体験活動では、5年生米作りの支援を頂いた。JA青年部やそよかぜグループの方々の協力をいただき、田植え、稲刈り、脱穀、米の販売の準備、米の販売に取り組んだ。収穫後には、庄内地区のふるさと祭りでお米を販売した。



【プレゼンでの発表の様子】

(2) 教育課程の改善(カリキュラムマネジメント)

学校支援活動して頂いている米作りで協力して頂いている方々を招待して「感謝の会」を行った。「感謝の会」では、収穫した米をおにぎりにして食べ収穫に感謝した。また、5年生がプレゼンコンテストでまとめた米作りに関して調べたこと(農家の担い手や地球温暖化について等)を発表した。JAやグループの方々も子ども達の発表に対して感心されながら感想を述べてくださり大変有意義な会となった。



【ふるさと祭りでの合同発表】

(3) 地域貢献活動

3・4年生が俵踊り保存会の方から指導してもらった踊りを保存会の方と共にふるさと祭りでも披露した。

6 学校運営協議会の成果と課題(○:成果 ●:課題)

- ふるさと祭りでのお米の販売は、JA青年部やそよかぜグループの協力のもと、販売する米の袋詰めや販売活動など子ども達の主体性につながる活動ができた。
- 委員の方全員が実働組織に入っている。地域行事での児童の様子や態度について、見守り隊から忌憚のない意見をいただいている。
- 総合的な学習の時間の取組において、各学年ごとにSDG'sの視点を取り入れた活動に協力できる新たな地域人材の発掘の必要性が出された。

7 次年度の方向性

- 学校運営協議会で話し合った学校評価等について周知、実践していけるようにする。

令和7年度 乙房小学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立乙房小学校		校長名	若松 宏一	
学級数	10学級	児童生徒数	204名	職員数	20名
教育目標	自ら学び、心豊かに力強く生き、ふるさとを愛する児童の育成				

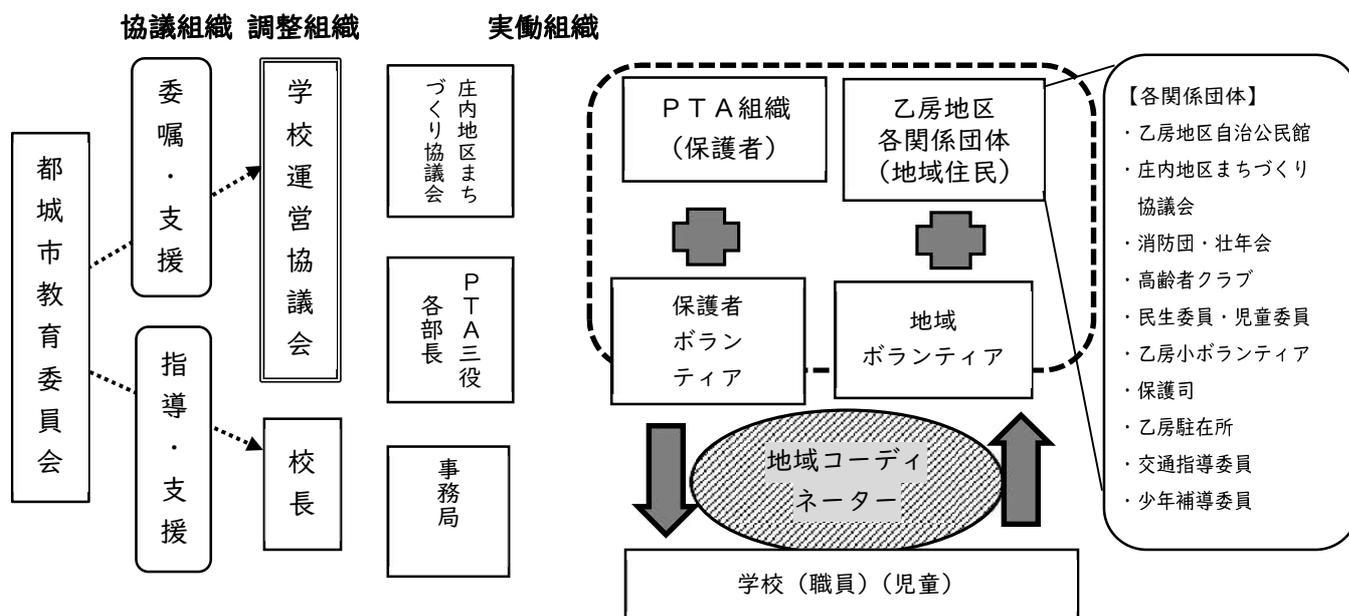
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員（8名）・事務局（3名）

No.	所属名（役職）	氏名	備考
1	乙房地区自治公民館長	武田 一夫	
2	乙房地区自治公民館 副館長	秋永 幸一	
3	乙房地区民生児童委員	岩橋 文子	
4	乙房地区民生児童委員	松崎 幸子	
5	都城市教育委員会文化財課	武田 浩明	
6	元PTA会長	床次 武善	副会長
7	乙房こども園長	刀坂 弘毅	会長
8	PTA会長	永山 敏郎	

役職	氏名
校長	若松 宏一
教頭	宮田 清仁
教務主任	音山 福太郎

(2) 組織編制



3 年間の活動計画

月 日	主な活動及び内容
4月	学校運営協議会委員選出
5月 16日	第1回学校運営協議会（委嘱状の交付、協議会の趣旨説明、学校経営の説明）
25日	運動会参観
9月 9日	第2回学校運営協議会（学校評価の年間計画・方法及び内容等の説明、授業参観）
11月 10日	乙房ふれ愛祭り支援及び参観
12月 11日	第3回学校運営協議会（学校関係者評価の依頼、授業参観）
1月 20日	第4回学校運営協議会（学校関係者評価の説明と今後の取組、授業参観）
2月 25日	第5回学校運営協議会（学校評価報告書と今後の取組についての説明、本年度の振り返り）
3月	学校評価結果の公表・次年度に向けての準備

4 今年度実施した「熟議」のテーマ

1月：教育課程の編成

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

本校では、伝承芸能である「乙房奴踊り」に取り組み、クラブ活動や放課後に活動する「乙房小学校民俗芸能伝承研究会」で、地域の方に三味線や太鼓の指導をしていただいている。丁寧な指導により、子どもたちの演奏が上達しており、地域の祭り等での披露の際は、三味線や太鼓、唄を全て子どもだけで行っている。指導者の高齢化が進んでいるため、学校運営協議会委員にも指導者の現状を伝え、指導者の人材確保について協力をお願いしている。



【三味線指導の様子】

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

○ 次年度、通知表の配付を年3回から2回（10月と3月）にすることを検討していると報告した。その際、2学期末を学習のまとめの時間として活用し学力向上につなげたいと説明したところ、その成果を示す必要があるという御意見をいただいた。それを職員に伝え、学力向上を目指した取組について協議したことで、今後、具体的に取り組む内容について共通理解をすることにつながった。

○ 地域素材や地域人材の活用等を積極的に推進した教育活動である「乙房ふれ愛祭り」を実施した。回数を重ねるごとに講師の方が指導内容を工夫してくださり、児童の熱心な取組につながっている。その中で、学校運営協議会委員をはじめとする乙房在住の地域人材を活用した「キャリア教育座談会」を実施している。地域の方や保護者、学校職員との交流を通して、支えてくださる方々に感謝し、乙房地域の一員としての自覚をもたせ、思いやりの心を育てるよい機会となっている。地域の方との交流活動は、本校の教育目標を達成する上で意義深く、次年度の教育課程にも位置付け、地域の方にさらに声かけしながら活動の輪を広げる予定である。



【乙房ふれ愛祭りの様子】

(3) 地域貢献活動

地域行事の「乙房神社夏まつり」「庄内ふるさと祭り」「乙房地区敬老会」など、様々な場面で、地域の方が楽しみにしている伝承芸能「乙房奴踊り」を披露することで、地域に貢献できた。

2月末には、日頃お世話になっているスクールガードの方や読み聞かせボランティアの方、三味線の指導者をお招きして感謝集会を行い、一人一鉢の取組で児童が育ててきた鉢植えをプレゼントすることになっている。



【乙房奴踊りを披露】

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 本校の教育活動について、学校運営協議会委員に客観的に評価していただき、本校のよさや改善すべき点が明確になった。特に、児童の安全面など学校だけでは解決できない課題について共通理解し、地域の方と協力しながら課題解決を図る方策を確認することができた。
- 学校と地域がどのような活動において、どのように協力していくのかしっかりと協議することができ、次年度の教育活動を計画する上で参考になった。
- 「あいさつ」や「学力向上」等の本校の教育的課題を解決するために、学校・家庭・地域の連携・協働について、更に協議を進めていく。学校が進めているICTを活用した家庭学習等については、委員から意見が出され、地域や保護者との共通理解が十分でないことが分かった。

7 次年度の方向性

- 昨年度、再開されたり新たに実施されたりした地域のいろいろな行事の反省を基に、本年度は計画的に準備ができ、これまでとは違った内容を取り入れたりするなどの工夫が見られた。学校も積極的に協議に参加し、地域への貢献とふるさとを愛する心の育成に努めたい。また、本年度、地域の方が中心となり、「乙房を語る会」が3回行われたが、学校からは管理職のみの参加であった。数年前までは、年度初めに職員と保護者、各自治公民館長、民生委員・児童委員の顔合わせ及び意見交換のために実施していた会なので、学校職員の参加を検討し、さらに相互の関係づくりに努めたい。
- 「炊き出し訓練」の実施に向けて、学校と自治公民館、地区壮年部で話し合いを重ねてきた。本年度は、管理職だけでなく担当職員も参加し、充実した意見交換ができた。地域の災害対応への意識付け及び地域と学校の協働活動の推進のために非常に有意義な取組なので、学校運営協議会における協議内容に取り入れたい。そして、学校運営協議会が今以上に学校と地域をつなぐ役目を果たし、学校と地域が協力していける体制づくりの要となるよう熟議を重ねたい。

令和7年度 都城市立庄内中学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立庄内中学校		校長名	木宮 崇子	
学級数	8	児童生徒数	212名	職員数	22名
教育目標	「よく学び、たくましい体と豊かな心をもつ生徒の育成」				

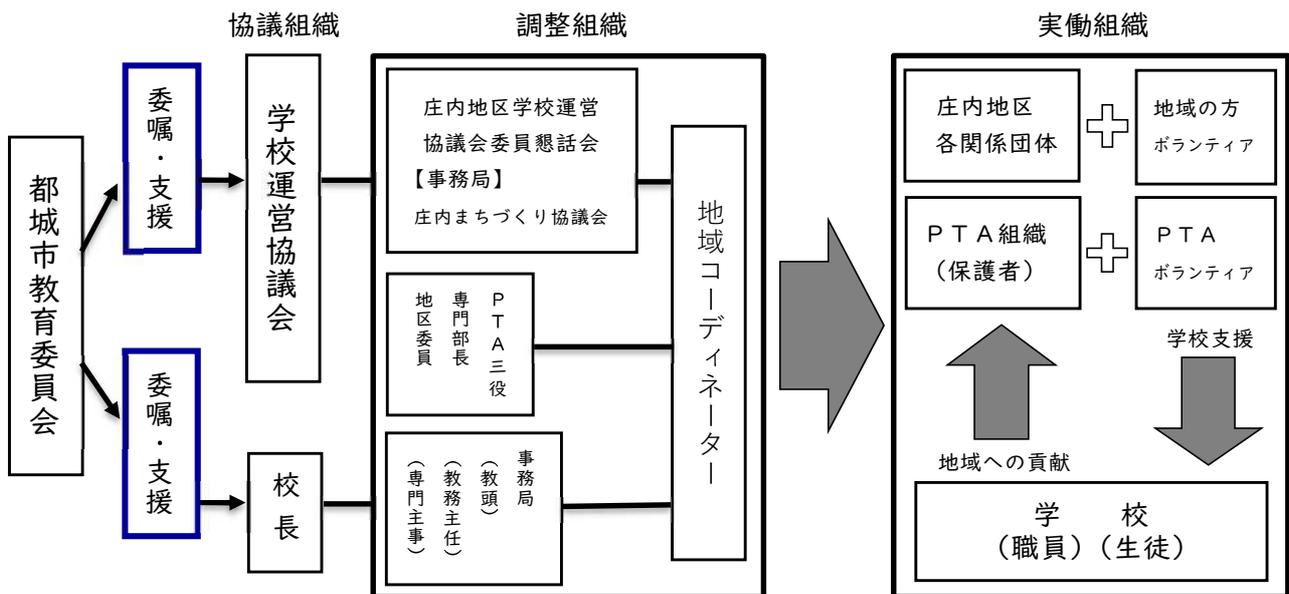
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員（計8名）・事務局（計4名）

学 校 運 営 協 議 会 委 員	No.	所属名（役職）	氏 名	備 考
	1	都城市市議会議員（くまそ会代表）	黒木 優一	
	2	庄内地区まちづくり協議会事務局長	朝倉 脩二	地域コーディネーター
	3	前関之尾地区自治公民館館長	石塚 悟	副会長
	4	主任児童委員	花原 利廣	
	5	元PTA副会長	大村 美香	
	6	元PTA会長	宮島 大介	会長
	7	元PTA副会長	馬籠 友理	副会長
	8	現PTA会長	岡元 健太	

事 務 局	役 職	氏 名
	校 長	木宮 崇子
	教 頭	長友 克憲
	教務主任	磯田 徹也
	専門主事	加藤 道信

(2) 組織編制



3 活動報告

月 日	主な活動及び内容
4月	・ 学校運営協議会委員選出
5月26日	・ 第1回学校運営協議会「委嘱状の交付、協議会の趣旨説明、学校経営ビジョンの説明、役員選出、年間活動計画の決定、学校運営・支援に関する協議」
7月29日	・ 「地域と学校の未来創造ミーティング」（兼 庄内地区学校運営協議会懇話会）
	・ 第2回学校運営協議会「学校教育活動に関する中間報告、情報交換」
10月23日	・ 第3回学校運営協議会「学校教育活動に関する中間報告、情報交換、学校評価アンケート項目」
12月11日	・ 第4回学校運営協議会「学校教育活動に関する中間報告、学校評価アンケート集計結果・分析、学校評価報告書の作成、学校運営に関する協議」
2月 5日	・ 第5回学校運営協議会「学校関係者評価の結果説明、学校運営協議会実施報告書作成と確認、次年度の活動についての協議」
3月	・ 次年度に向けての準備

4 今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会を含む）

- 10月：「学校評価アンケートの評価項目について」
- 12月：「新たな地域人材の活用について」

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

庄内地区4校の学校運営協議会委員及び庄内地区まちづくり協議会の提案を受け、庄内地区地域学校協働本部が設置されて10年目を迎えた。事務局は庄内地区まちづくり協議会に置かれ、各学校からの要望に応えるため、学校支援ボランティアも「学習支援・安全支援・環境支援・心の支援」の4つに分けられ、地域の方々による登録を進めている。



【庄内の未来を考える会の様子】

【学校支援ボランティア活用状況】

月	支援を要請する行事等	依頼方法や内容等
7月	夏のボランティア活動	・ ボランティア体験ができる施設の紹介を依頼している。コロナ禍で減少した受け入れ先の数が元に戻ってきている。
8月	庄内地区教職員地域巡見	・ 新しく赴任した職員を対象に、教職員研修の一環で地域学習として講師を依頼している。
11月	1年生地域巡見	・ 1学年職員がコーディネーターを通して依頼し、庄内地区の歴史的史跡を巡回しながら講義を受けている。
12～2月	受験に向けての面接指導	・ 3学年職員がコーディネーターを通して依頼し、元教師・企業の人事担当経験者などから面接指導を受けている。
2月	家庭教育学級・食育指導	・ 家庭教育学級長と教頭がコーディネーターを通して食育指導の講師を依頼している。家庭科の授業でも活用できる。

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

学校運営協議会で出された意見を参考にして、教育課程の工夫・改善に取り組んだ。

① 地域巡見学習の事前・事後指導の充実

1年生の「地域巡見学習」を地域に学ぶ学習の柱として位置付けるために、事前・事後指導の充実を図った。特に、地域巡見のための事前調査をしっかりと行うことによって、当日、講師の話に集中させることができた。また、見聞したものをまとめ、SET(総合的な学習)の時間に生徒が新聞づくりを行った。お礼の手紙を送るなどして交流を図ることができた。

② 生徒会等によるボランティア活動の充実

本校では、毎年、各種ボランティア活動に多くの生徒が参加している。修学旅行前の平和学習や庄内の未来を考える会を通して生徒が自主的にボランティア活動を企画するとともに、まちづくり協議会からの依頼ボランティアにも積極的に取り組んだ。今年も島津発祥まつり「明道館パレード」に21名、ボランティアフェスティバルに11名が参加し、地域の方々からも喜ばれている。また、校内では毎日の朝のあいさつ運動や清掃活動に積極的に取り組んだ。

(3) 地域貢献活動

庄内地区で企画される「ふるさと祭り」「スポ・レク大会」に運営スタッフや協力ボランティアとして多くの生徒が参加した。生徒自身が地域のためにできることを考え、防災訓練にも参加し、独居高齢世帯の確認活動や危険箇所の調査、学校や公民館の門松づくりのボランティアに参加する姿も見られた。

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 今年度の学校運営協議会では、学校評価アンケートの項目を検討していただき見直しを行うことができた。地域で賞賛された取組を生徒に伝えることで、達成感や自尊感情を高めることにもつながった。今後も「地域とともにある学校づくり」を推進していく。
- 庄内地区で長年取り組んでいる「心のプレゼント運動」をさらに継続していくために、高まってきた生徒の行動力を活かしていきたい。

7 次年度の方向性

- 学校支援コーディネーターの尽力により、学校支援事業に多くの地域ボランティアから協力を得ることができた。次年度も教育課程の工夫や各小学校との連携を図りたい。また、学校支援コーディネーターは、地域貢献活動のアイデアをいくつか構想されている。学校と地域が協力して地域づくりを推進し、地域を支える一人であるという生徒の意識をさらに高められるようにしていきたい。

令和7年度 西岳地区（西岳小・吉之元小・西岳中）学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立西岳中学校 都城市立西岳小学校 都城市立吉之元小学校		校長名	松下 将大 山下 博史 川手 めぐみ	
学級数	西岳中（3） 西岳小（3） 吉之元小（2）	児童生徒数	西岳中（16）名 西岳小（17）名 吉之元小（8）名	職員数	西岳中（12）名 西岳小（7）名 吉之元小（6）名
教育目標	西岳中：「確かな学力と豊かな人間性を備え、力強く生き抜く生徒の育成」 西岳小：「確かな学力と、豊かな心を備えた、たくましい西岳っ子の育成」 吉之元小：「学び合い・認め合い・高め合う児童の育成」				

2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員（計22名）・事務局（計6名）

No.	所属名（役職）	氏名	備考
1	大塚地区自治公民館長	岩満 良樹	副会長
2	上川内地区自治公民館長	岩元 政治	
3	学校ボランティア代表	中村 正文	
4	長遊園施設長	森本 日良雄	
5	西岳中学校前PTA会長	今里 善嗣	
6	西岳中学校PTA会長	村山 博文	会長
7	西岳地区公民館長	和田 幸雄	
8	荒川内地区自治公民館長	野間 登志子	
9	西岳小ボランティア代表	吉盛 ノリ子	
10	下川内地区民生児童委員	白鳥 ふき子	
11	上川内地区民生児童委員	假屋 弘子	
12	こども育成会代表	吉川 正智	
13	西岳小学校前PTA会長	門松 俊哉	
14	西岳小学校PTA会長	重信 洋	
15	折田代地区公民館長	田畑 利紀	
16	田野地区公民館長	古江 健一	
17	西岳地区民生・児童委員	竹松 治男	
18	折田代地区高齢者クラブ会長	篠田 健一	
19	西岳地区主任児童委員	山下 輝義	
20	放課後子ども教室指導員	安木 初美	
21	吉之元小PTA会長	村山 美佳	
22	吉之元小PTA	又木 里美	

役職	氏名
西岳中校長	松下 将大
西岳小校長	山下 博史
吉之元小校長	川手 めぐみ
西岳中教頭	永野 一美
西岳小教頭	有川 貴礼
吉之元小教頭	鈴木 弘一

(2) 組織編制



3 年間の活動計画

月 日	主な活動及び内容
4 月	・学校運営協議会委員選出
5 月 15 日	・吉之元・地区スポーツフェスタ(吉之元小)
5 月 16 日	・わたげふれあいグラウンドゴルフ大会(西岳中)
5 月 19 日	・長遊園交流・いもの苗植え(西岳小)
5 月 22 日	・第1回学校運営協議会(委嘱状交付、学校運営協議会概要説明、学校経営方針説明他)
6 月 5 日	・田植え(吉之元小)
6 月 6 日	・田植え(西岳小)
6 月 16 日	・フラワーボランティアによる花の苗植え支援(西岳小)
7 月 1 日	・第2回学校運営協議会(吉之元小授業参観等)
9 月 20 日	・西岳小中合同スポーツフェスタ(西岳小・西岳中)
9 月 24 日	・小中合同あいさつ運動(西岳小・西岳中)
10 月 7 日	・稲刈り(西岳小)
10 月 24 日	・第3回学校運営協議会(西岳小授業参観、各校の行事及び学力向上の取組等説明・協議)
10 月 24 日	・秋のフェスタ・給食交流会(吉之元小)【児童、保護者・家族、学校運営協議会委員の参加】
10 月 25 日	・中学校カルチャーフェスタ(西岳中)
11 月 3 日	・西岳地区ふれあい文化祭への参加(西岳小・西岳中・吉之元小)
11 月 14 日	・稲刈り(吉之元小)
12 月 1 日	・フラワーボランティアによる花植え支援(西岳小)
12 月 5 日	・第4回学校運営協議会(西岳中授業参観、各校の行事及び学力向上の取組等説明・協議)
12 月 18 日	・地域ボランティア参加によるもちつき(西岳小)
12 月 22 日	・しめ縄作り(西岳小)
1 月 16 日	・スケート学習、もちつき(吉之元小)
1 月 23 日	・西岳中・夏尾中合同立志式(西岳地区公民館クラブハウス)
2 月 5 日	・第5回学校運営協議会(学校評価書の承認、改善事項の協議)
3 月 4 日	・高齢者とのふれあい活動(吉之元小)

4 今年度実施した「熟議」のテーマ(小中合同学校運営協議会を含む)

- ① 西岳中学校(5・7・10)月
 (テーマ)「高校等へ進学した際の、人間関係等の不適応を改善するために」
 (具体策) 夏季休業中を利用して、高校1日体験入学へ中学校1・2学年の時期から参加するように促す。

- ② 西岳小学校(5・7・10)月
 (テーマ)「不登校やフリースクールに通う児童について」
 (具体策) 学校だけではなく、地域からも声掛け等を行い、家庭の状況など情報を共有していく。

- ③ 吉之元小学校(5・7・10・12)月
 (テーマ)「学校存続に向けた魅力ある教育活動の推進」
 (具体策) カリキュラム・マネジメントにより学習内容の精選・統合を進め、自由進度学習やプロジェクト学習を推進した。マルシェ出店や「トモダチふやそうフェスティバル」開催で吉之元小の魅力を発信し、特認校・校区外通学も含め学校存続の方策を熟議した。

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

○ わたげふれあいグランドゴルフ大会（西岳中）

「わたげ」とは、「わいわい、たのしく、げんきよく」の頭文字である。西岳地区元気高齢者クラブの方々の参加と協力のお陰で、中学生と地域の高齢者が混合でチームを組み、グランドゴルフを通して交流を行うことができた。また、地域の高齢者の方々に、生徒手作りの年賀状を送付する交流活動も行い、数名から感謝の返事をいただいている。



【わたげグランドゴルフ大会の様子】

○ 学校ボランティア（西岳小）

高齢者施設「長遊園」では、芋植えと芋ほりを施設の方々と一緒に行った。車いすを押したり会話をしたりしながら交流することができた。

6月と12月には、フラワーボランティアの方々と一緒に学校花壇と地区公民館の花壇に花を植栽した。12月のもちつき会では、保護者と地域の方々に協力していただき、臼と杵を使ったもちつきを体験できた。また、しめ縄づくりにおいても地域の方々に指導していただき児童一人一人が立派なしめ縄を作ることができた。今年度も多くの地域ボランティアの協力を得て、たくさんの体験活を行うことができた。



【芋ほりの様子】

○ 学校ボランティア（吉之元小学校）

秋のフェスタの日に、保護者や地域の方々を招いて「給食交流会」を行った。配膳は児童と保護者、職員が協力して行い、42名のお客様と会話をしたり、吉之元小の記念動画を見たりして、和気あいあいとした時間を過ごすことができた。

3月に行う高齢者宅訪問へ向けての事前活動として、年賀状作成を行った。95通の年賀状に手書きのメッセージを添えて投函し、春に花を持って高齢者宅を訪問することへの意欲付けを行うことができた。



【給食交流会の様子】

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

- キャリア教育や職業観の育成のために、総合的な学習の時間を中心に、地域人材や関連事業者の活用について支援をいただいている。（西岳中）
- 田植え・稲刈り、もちつき、しめ縄づくり等、多くの体験活動を継続して計画し、ふるさと教育を充実させていく。（西岳小）
- マルシェへの出店や、田植え・稲刈り・餅つき等の生産活動を継続して計画し、キャリア教育の視点から教育課程の見直しを進めることができた。（吉之元小）

(3) 地域貢献活動

- 地域の高齢者との交流として、手書きの年賀状を送付し生徒と高齢者との繋がりがもてた。
(西岳中)
- 西岳地区ふれあい文化祭や千足神社祭りなどに児童全員で参加できた。地域の方やボランティアでお世話になった方への年賀状を送付し、交流の輪を深めることができた。(西岳小)
- 地域の高齢者の方へ年賀状を送付し、3月には高齢者宅を訪問することで、児童との交流の貴重な機会となっている。(吉之元小)

6 学校運営協議会の成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 授業参観を取り入れることで、児童・生徒の普段の学校生活を見てもらうことができた。また教員にとっては、参観授業のコメントをいただくことで、授業力向上や意欲の向上につながった。
- ボランティア活動の充実、PTA との連携強化による学校行事の活性化、地域と連携した教育活動の充実が成果としてあげられる。
- 例年通りの時間設定であると、「熟議」の時間を十分にとることができなかつたので、開催時間を検討していく必要がある。
- 仕事をされている委員は、日中の会に参加することが難しい。
- 委員を引き受けてくださる方が少なくなっており、人員確保が難しい。

7 次年度の方向性

西岳地区全体の活性化と学校教育の充実を図るために、学校運営協議会を通して学校と地域がどのように協働していくかということについて具体的な案を検討していく。
また、熟義を通じて小・中の連携した取組を更に推進していく。

令和7年度 夏尾・御池地区 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立夏尾中学校 都城市立夏尾小学校		校長名	伊地知 憲文 川越 次代	
学級数	3 (中) 3 (小)	児童生徒数	24名 (中) 26名 (小)	職員数	10名(中) 7名(小)
教育目標	〈夏尾中〉学ぶ意欲をもち、心身ともにとにもたくましく、主体的に自分の未来を切り拓く生徒を育成する 〈夏尾小〉夢をもち、自ら学び続ける子どもの育成				

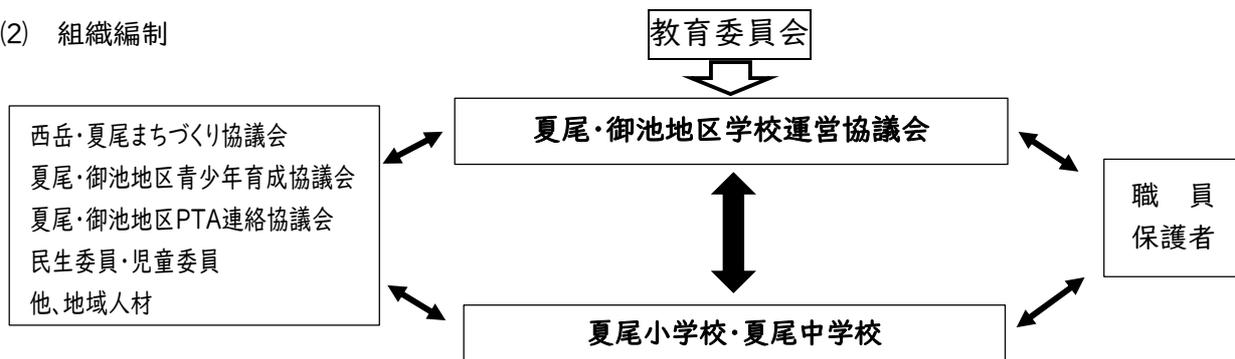
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員 (計8名)・事務局 (計6名)

No.	所属名 (役職)	氏名	備考
1	馬渡地区自治公民館長	出水 富雄	会長
2	牛ノ脛地区自治公民館長	大村 和男	副会長
3	元夏尾地区保護司	寺崎 量子	
4	主任児童委員	大村 由美子	
5	夏尾地区代表	瀬口 雅文	
6	御池地区代表	長井 義幸	
7	夏尾小PTA副会長	泊 千補	
8	夏尾中PTA副会長	白谷 篤	

役職	氏名
夏尾中校長	伊地知 憲文
夏尾小校長	川越 次代
夏尾中教頭	岩切 隆宏
夏尾小教頭	橋谷 敏治
夏尾中教務主任	桑畑 新也
夏尾小教務主任	楠原 翔太郎

(2) 組織編制



3 活動報告

月 日	主な活動及び内容
4月初旬	・学校運営協議会委員の人選・推薦
5月17日	・小中合同運動会参観・参加
6月5日	・第1回学校運営協議会 (委任状交付・趣旨説明・学校経営方針説明・年間計画)
6月15日	・クリーン作戦支援
7月8日	・第2回学校運営協議会 (小学校授業参観・学校評価・クリーン作戦報告・地域人材の活用)
7月14日	・交通安全啓発活動・あいさつ運動支援
9月22日	・交通安全啓発活動・あいさつ運動支援
10月9日	・第3回学校運営協議会 (小学校授業参観・夏尾小の教育活動)
10月12日	・第3回学校運営協議会 (学習発表会鑑賞・学習発表会の感想)
12月18日	・第4回学校運営協議会 (中学校授業参観・学校評価自己評価報告)
12月19日	・門松づくり支援 (小学校)
12月22日	・交通安全啓発活動・あいさつ運動支援
12月24日	・門松づくり支援 (中学校)
1月中旬	・グリーンティングカード配付支援
2月16日	・第5回学校運営協議会 (中学校授業参観・学校評価報告書・次年度へ向けて)
3月	・次年度への引継ぎ

4 今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会を含む）

7月：「地域人材の活用について」

小学校・中学校、それぞれ地域の方々の協力をいただいで様々な行事を行っている。しかし、高齢の方も多く、今後も継続していけるか心配な面もある。持続可能な取組となるよう幅広く地域人材を活用できるよう協議を行った。

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

学校運営協議会の中で、市内各地から通学する小規模特認校の特性を踏まえ、「児童生徒にこの地を『故郷』と感じてほしい」「児童生徒や保護者が地域と深く交流する機会を設けてほしい」等の意見が出された。学校運営協議会の委員である自治公民館長や民生委員の方を通して協力していただける方を募り、学校の教育活動への支援をしていただいている。



【小中合同クリーン作戦】



【グランドゴルフ大会】



【門松づくり体験】



【ひな人形展示】

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

【夏尾小学校】

子どもたちの熱中症対策について話題になった。夏尾小では、熱中症対策と児童の運動時間確保のために、7月～9月の期間『サマータイム』を導入した。昼休みを分割し、比較的過ごしやすい朝の時間（8：10～8：30）に運動ができるよう時間設定を行った。児童には大変好評で、活動する時間を確保することでストレス軽減につながり、熱中症対策も図ることができた。



【サマータイムの様子】

【夏尾中学校】

学校運営協議会の中で、学校全体の雰囲気明るくなったと話題になった。夏尾中では、「生徒が主役の授業」を展開するために、表現力育成に力を入れている。日々の授業改善はもとより、6時間目終了後、20分間の『STU（ステップアップタイム）』の時間を設定し、「SST（ソーシャルスキルトレーニング）」や「表現活動」を行っている。生徒のコミュニケーション能力の向上につながっている。



【SST】

(3) 地域貢献活動

- 夏尾・御池地区内の小規模特認校の看板と自治公民館の清掃
- 交通安全啓発活動やあいさつ運動
- 御池青少年自然の家『やまびこ祭』ボランティア（中学校）・奴踊り（小学校）
- 西岳地区ふれあい文化祭参加（小中合同：奴踊り・中学校：西岳中と合同合唱）
- 赤い羽根共同募金ボランティア活動（中学校）
- 地域の方宛のグリーティングカードの配付

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 学校運営協議会が「学校と地域との繋ぎ役」となり、地域の方々に声をかけていただくことで、子どもと地域の方々が交流することができた。
- 小学校・中学校、それぞれ地域の方々の協力をいただいで様々な行事を行っているが、高齢の方も多く、持続可能な取組となるよう検討する必要がある。

7 次年度の方向性

- 学校が地域に貢献できること、地域が学校に支援できることを学校運営協議会の中で熟議していく。
- 地域人材のさらなる活用を推進する。

令和7年度 中郷地区学校運営協議会 実施報告

(梅北小学校・安久小学校・中郷中学校)

1 学校の概要

学校名	都城市立梅北小学校	校長名	田中 敏雄		
学級数	9	児童生徒数	159	職員数	18
教育目標	「たくましい体、豊かな心、自ら考える力を備えた実践力のある児童の育成」				
学校名	都城市立安久小学校	校長名	伊藤 寿朗		
学級数	15	児童生徒数	281	職員数	27
教育目標	「ふるさとを愛し、自ら学び、心豊かに、たくましく生きる児童の育成」 ～やる気・気づき・根気・絆をはぐくむ安久ならではの教育～				
学校名	都城市立中郷中学校	校長名	濱川 千春		
学級数	9	児童生徒数	215	職員数	24
教育目標	「夢の実現に向けて常に学び続ける、心身ともに調和のとれた人間力あふれる生徒の育成」				

2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員(計18名)・事務局(計9名)

学校運営協議会委員	No	所属名	氏名	備考
	1	後久工業代表取締役	後久 静丸	副会長
	2	元都城市議会議員	三角 光洋	
	3	中郷地区市民センター所長	中山 隆	
	4	中郷地区公民館長	園田 浩司	
	5	自治公民館連絡協議会会長	山内 正一	
	6	中郷中 PTA 会長	堀之内良一	
	7	前都城市立小学校長	川崎 文雄	会長
	8	南九州大学准教授	渡邊 光浩	
	9	中郷地区民生委員会会長	時任 豊	
	10	中郷地区民生委員会副会長	村田 利森	
	11	生活支援コーディネーター	長友 京子	
	12	安久小 PTA 会長	藤田 雄也	
	13	梅北保育園長	青木 眞州男	
	14	大浦自治公民館長	川崎 道夫	
	15	麓自治公民館長	永田 勇作	
	16	中郷地区社福協会事務局	和田 和子	
	17	弘川民生児童委員	福元 喜代子	
18	梅北小 P T A 副会長	谷口 寿志		

事務局	役職	氏名
	梅北小学校校長	田中 敏雄
	梅北小学校教頭	外山 繁
	梅北小学校教務主任	西山 大地
	安久小学校校長	伊藤 寿朗
	安久小学校教頭	小牧 啓介
	安久小学校教務主任	山元 善貴
	中郷中学校校長	濱川 千春
	中郷中学校教頭	西村 清美
中郷中学校教務主任	三重野 修	

(2) 組織編制



3 活動計画

月 日	主な活動及び内容
4月	学校運営協議会委員の選出
4月～3月	児童生徒の見守り活動
5月～3月	学校支援活動（平和教育講話、郷土料理作り等）
6月～10月	伝統芸能継承活動（学校行事での披露）：各地区での継承活動、六月灯
6月13日	第1回中郷地区学校運営協議会：中郷中（委嘱状交付、年間計画・引継ぎ事項の確認、意見交換）
7月	第2回学校運営協議会（各学校にて開催、授業参観、学校運営に関する協議、地区目標の具現化について協議、学校支援ボランティアについての現状と課題）
9月25日	第3回中郷地区学校運営協議会（3校合同で開催。協議題「地域と共にある学校づくりを目指して」～学校が抱える課題の共有と私たちができる解決策とは何か～）中郷中
12月～1月	第4回学校運営協議会：各学校にて開催、授業参観、学校評価について
2月17日	第5回中郷地区学校運営協議会：中郷中
3月	資料配付（各校の学校評価結果の報告、年間活動実施報告）

4 今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会の含む）

9月：「地域と共にある学校づくりを目指して」

～学校が抱える課題の共有と私たちができる解決策とは何か～

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

本年度も学校支援ボランティアとして、多方面にわたり多大なご支援をいただいた。「学習支援」においては、農業体験や郷土料理作り、伝統芸能の継承活動など、児童生徒のキャリア教育に繋がる貴重な機会を提供していただいた。また「安全支援」としての見守り活動や、「環境支援」としての草刈り・行事設営など、教育環境の維持にも尽力いただいた。次年度の活動充実に向け、地域の方々の知見を生かした体験活動を見据えた協力体制の強化についてご提言を頂くなど、今後の支援体制の在り方についても大きな示唆を得ることができた。

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

「地域に誇りをもち、夢に向かって努力する中郷の子ども」の育成を目指し、学校運営協議会の意見を積極的にカリキュラムへ反映させた。具体的には、生活習慣の改善（ノーメディア等）や環境美化、新聞活用による読解力向上など、全校的な取組を推進した。小中合同のあいさつ運動では中学生が手本を示すなど、連携による好ましい成長の姿が確認できた。

(3) 地域貢献活動

地域文化の維持・振興のため、小学校では保存会のご協力のもと、各種祭りや学習発表会にて伝統芸能の披露を継続した。加えて、中学生が小学校のPTA奉仕作業や地域の祭りの準備・運営に加わるなど、世代を超えて地域の方々と手を取り合い、汗を流す活動を実践した。こうした活動を通じ、生徒たちは地域の一員として貢献する喜びを学ぶことができた。

6 学校運営協議会の成果と課題

- 第3回協議会では、会長の深い見識と主導により、3校合同での「熟議」が実現した。明確なテーマ設定のもと、学校の現状を委員間で深く共有できたことは大きな成果である。これにより、小中連携による支援体制の構築に向け、地域全体で子供たちを支える意識がより一層醸成された。
- 良好な支援体制が整いつつある一方で、自治公民館への未加入世帯の増加など、地域コミュニティの希薄化が懸念される。地域全体で子供を育む基盤をいかに維持・強化していくかが今後の課題である。

7 次年度の方向性

- 今年度の熟議を通して、「地域と家庭の連携の希薄化」「保護者対応の困難さ」「教職員の業務負担」という3つの課題が浮き彫りになった。今後は、これら共有された課題に対し、学校と地域が密に連携して取り組める解決策を深掘りし、具体的なアクションへと繋げていく必要がある。特に、地域住民の豊富な知見を生かした体験活動の充実や、支援体制のさらなる強化をすすめていく。

令和7年度 都城市立西小学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立西小学校		校長名	岩切 基伸	
学級数	31学級	児童生徒数	804名	職員数	62名
教育目標	豊かな心と自ら学ぶ意欲をもち、積極的にねばり強くがんばる児童の育成				

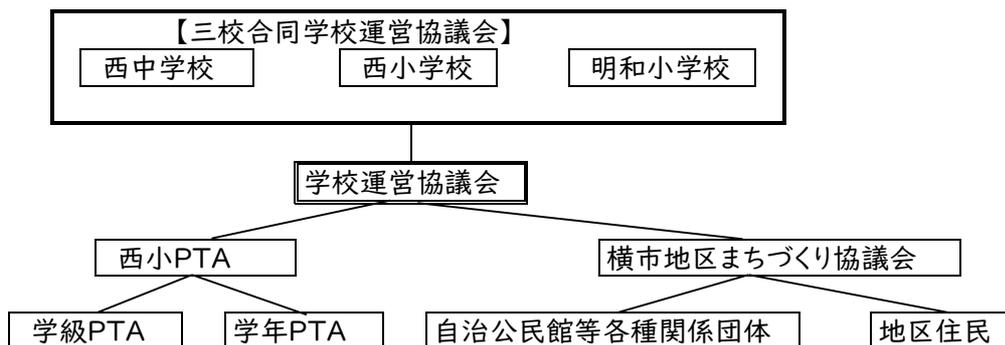
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員(計8名)・事務局(計5名)

学	No.	所属名(役職)	氏名	備考
校 運 営 協 議 会 委 員	1	生活支援コーディネーター	六部一 幸子	会長
	2	横市地区社会福祉協議会(会長)	小林 貴夫	副会長
	3	にし幼稚園(副園長)	久保 加代子	
	4	県立都城さくら聴覚支援学校(校長)	岩元 芳博	
	5	横市地区体育協会(事務局長)	荒巻 典子	
	6	西小学校PTA(会長)	榎田 行洋	
	7	横市地区まちづくり協議会(事務局長)	原田 修作	
	8	横市地区地域安全パトロール隊	別府 良美	

	役職	氏名
事務局	校長	岩切 基伸
	教頭	坂尾 知宏
	教頭	吉永 尊昭
	主幹教諭	松田 秀和
	事務副主幹	天神 美和

(2) 組織編制



3 活動報告

月日	主な活動及び内容
4月	・学校運営協議会委員選出
6月 3日	・第1回学校運営協議会 (委嘱状交付、学校運営協議会の説明、学校経営説明、他)
7月24日	・学校運営協議会委員、民生委員・児童委員と学校職員との懇話会
7月31日	・横市地区合同学校運営協議会(兼第2回西小学校運営協議会) (3校の昨年度の取組発表、各校の児童生徒の実態、本年度の3校合同実践についての協議(あいさつ運動)、質疑・協議・情報交換等)
10月14日	・5年:米作りの講話
10月18日	・運動会の観覧
11月	・1年:縄ない体験(6日) ・2年:横市地区民話・昔の遊び(14日) ・3年:軽スポーツ(ポッチャ)(18日) ・4年:ねったぼ作り(20日) ・6年:平和学習(21日)
11月21日	・第3回学校運営協議会 (地域学習の取組、開校150周年記念事業の説明、学校評価計画、等)
1月20日	・第4回学校運営協議会 (学校評価報告についての協議)
2月17日	・第5回学校運営協議会 (本年度反省、次年度の取組や引継ぎ、授業参観等)
2月21日	・都城教育の日記念講演会への参加

4 今年度実施した「熟議」のテーマ(小中合同学校運営協議会を含む)

7月:「あいさつについて」(横市地区合同学校運営協議会)

昨年度、西小・西中で合同のあいさつ運動を実施したことを契機に、地区全体のあいさつについての機運を高めることができないか、熟議を行った。



【小中合同あいさつ運動の様子】

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

学校運営協議会委員を含めた学校支援ボランティアに協力を依頼し、以下のような地域学習を全学年で行った。

1年生:縄ないの体験

2年生:横市地区民話の紙芝居、昔の遊び体験

3年生:軽スポーツ(ボッチャ)

4年生:郷土料理「ねったぼ作り」

5年生:田植え体験、米作りの講話

6年生:平和学習(戦時中の横市地区の様子等)



【3年生:軽スポーツ(ボッチャ)】

(2) 教育課程の改善(カリキュラム・マネジメント)

地域に根ざした学習活動を行うために、地域人材を活用した活動を各学年で実施することができた。そのため、郷土愛が深まったり、地域の方々との交流を深めたりして、本校ならではの学習を体験的に行うことができた。特に、第2学年の地域学習を参観日に実施したことで、親子で地域への理解を深めることができた。

(3) 地域貢献活動

横市地区まちづくり協議会主催の横市川ふれあい作戦、母智丘公園夏まつり、横市地区まつり、母智丘公園清掃活動等の参加の呼びかけや作品展示、西小学校吹奏楽部のまつりへの出演等に協力した結果、地区行事への児童の参加が年々増えている。

また、本年度の3校合同学校運営協議会であいさつ運動について熟議を行い、毎月第1週を横市地区あいさつ週間として、地域全体であいさつ運動に取り組むこととなった。横市地区 PTA 連絡協議会であいさつ運動に関連するのぼりやポスターを作成したり、横市地区まちづくり協議会の会報や各公民館の館報であいさつについての広報をしたりして、環境を整えた。毎月1日には横市地区民生委員児童委員協議会の皆様にあいさつ運動をしていただいている。さらに、西中生徒会と西小生活委員会が合同であいさつ運動を行うなど、あいさつ運動の機運が地区全体で高まってきている。



【あいさつ運動ののぼり】

6 学校運営協議会の成果と課題 (○:成果 ●:課題)

- 学校の課題やビジョン、家庭・地域の思いなど、情報交換ができ、児童がよりよく伸びるための方策等について共通理解をすることができた。
- 3校合同学校運営協議会での熟議により、横市地区あいさつ週間の取組がスタートした。あいさつ運動を契機に、地域と学校のつながりを生み出すことができた。
- 学校のために協力していただける方々が一部の人に限定されているため、できれば現役世代を含めた人材の育成、持続可能な協力体制づくりが求められている。

7 次年度の方向性

- 令和9年の新校舎の増改築工事の竣工後、創立150周年記念事業を実施予定である。これに向けて、地域と連携しながらさらに地域に開かれた学校づくりを目指していく。

令和7年度 明和小学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立明和小学校		校長名	細山田 修	
学級数	23学級	児童生徒数	471名	職員数	39名
教育目標	自ら考え、正しく判断し、思いやりの心とたくましい体をもつ児童を育成する。				

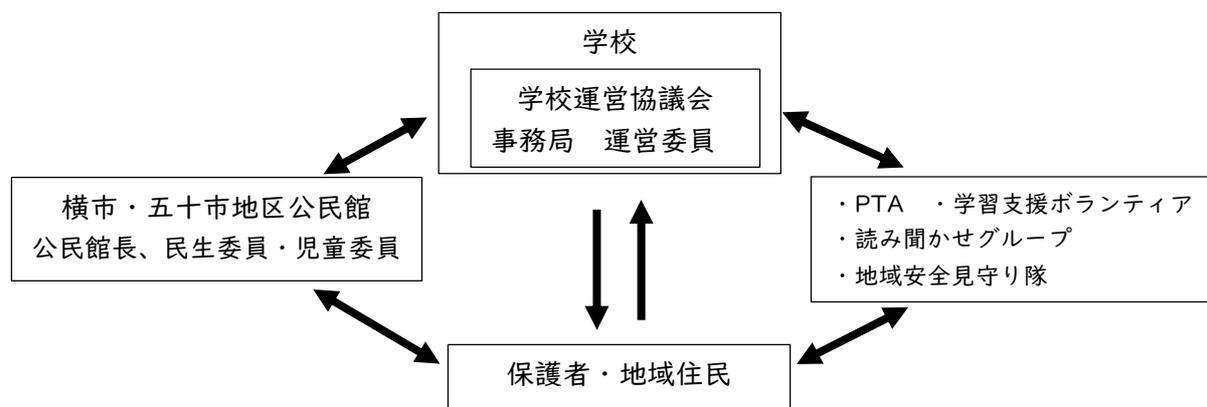
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員 (計8名)・事務局 (計4名)

学校運営協議会委員	No.	所属名 (役職)	氏名	備考
	1	元後蓑原公民館館長	寺田 正智	会長
	2	元PTA会長	恒吉 和昭	副会長
	3	横浜市地区社会福祉協議会役員	本村 正和	
	4	西中学校区学校支援コーディネーター	坂元 三郎	
	5	上蓑原公民館館長	松原 光洋	
	6	読み聞かせグループメルヘン	柿並 貴子	
	7	久保原西公民館長	飯干 和洋	
	8	PTA会長	河口 哲治	

事務局	役職	氏名
	校長	細山田 修
	教頭	弓削 光孝
	主幹教諭	福重 正史
	事務主査	益田 健太郎

(2) 組織編制



3 活動報告

月 日	主な活動及び内容
4月	学校運営協議会委員の人選
6月4日	第1回学校運営協議会 (委嘱状交付、役員選出、学校経営説明等)
7月31日	横浜市地区合同学校運営協議会・第2回学校運営協議会 (各学校の取組及び年間計画、中学校区における児童生徒のあいさつについての実態、課題と改善策の熟議、情報交換等)、学校運営協議会から横浜市地区まちづくり協議会、公民館長へあいさつ運動への協力依頼
9月	横浜市地区におけるあいさつの運動開始 (毎月第1週)
10月9日	第3回学校運営協議会 (横浜市あいさつ週間の取組について、明和ふれあい交流フェスタについて、学校評価アンケートについて、情報交換等)
12月19日	第4回学校運営協議会 (明和ふれあい交流フェスタ反省、学校評価の説明、学校関係者評価等について)
2月19日	第5回学校運営協議会 (次年度教育課程説明、学校評価、改善事項の協議)

4 今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会を含む）

7月：「西中学校区における児童生徒のあいさつの現状と今後の取組について」

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

○ 横市地区合同学校運営協議会（7月）において各学校から児童生徒のあいさつについて現状報告してもらった。西小、西中合同あいさつ運動の実践や本校の「あいさつ名人カード」の実践例から西中ブロック（横市地区）の児童生徒のあいさつについての意識が高まっていることが確認できた。また、本年度横市地区PTA連絡協議会であいさつ運動に関連するのぼりを作成して3校に配付し、活用することも決定していた。そこで、横市地区合同学校運営協議会で毎月第1週を「横市地区あいさつ週間」と位置づけ、横市地区まちづくり協議会や、各公民館報であいさつについての広報をしていくことや地域全体であいさつ運動に取り組んでいくことを確認することができた。



【横市地区あいさつ週間～民生児童委員によるあいさつ運動～】

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

○ 「公民館加入者も減り、学校・家庭・地域とのつながり、特に地域と児童、保護者のつながりが希薄になりつつある。」という意見を受けて、11月の日曜参観日に親子で一緒にのこぎりやカッターナイフを使って作業するなどの授業を行った。また同日に学校、家庭、地域との交流活動「明和ふれあいフェスタ」を開催することもできた。



【11月参観日 児童と保護者の活動の様子】

(3) 地域貢献活動

○ 本校は、「西中学校区」と「五十市中学校区」の2つの中学校区にまたがっている。「五十市地区まちづくり協議会の行事にも積極的に参加してほしい」という意見もあり、毎年、五十市まちづくり協議会主催のイベント「イルミ&アートフェスタ」に6年生の共同製作物を出品した。

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 学校運営協議会委員の方々が学校支援ボランティアとして活動していただいたり、窓口となり活動を支えていただいたりした。
- 横市地区合同学校運営協議会で「横市地区あいさつ週間」を提案し、地区全体で取り組むことができた。
- 今後も、学校や児童が地域に貢献できる教育活動を実践し、地域と学校の双方向的な補完関係を築くことのできる活動の在り方を探る必要がある。
- 公民館や家庭を巻き込んだ地域での活動や魅力あるPTA活動の在り方を探る必要がある。

7 次年度の方向性

- 教育課程内における地域人材の活用を今後も検討し、推進していく必要がある。
- 学校と地域が Win-Win の関係になれるような取組を模索する。

令和7年度 西中学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立西中学校		校長名	三浦 徹也	
学級数	22	児童生徒数	591名	職員数	45名
教育目標	「社会で自己実現を図るため、自分で考え行動できる生徒の育成」【ゴールイメージ】 『学校が好きな生徒の割合100%』をめざす ☆人間力あふれる生徒の育成 ～基本的な知識・技能、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力、自己肯定感 や思いやりの心などの育成～				

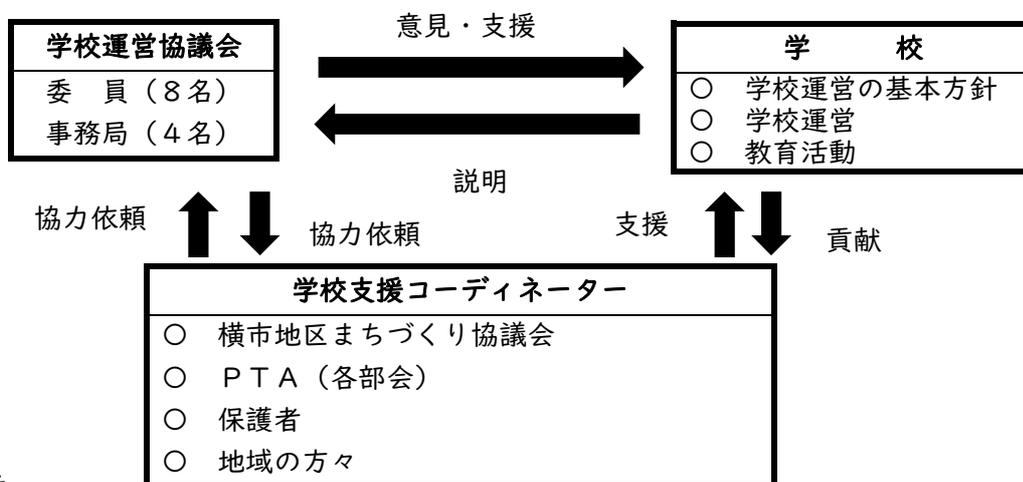
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員（計8名）・事務局（計4名）

学校運営協議会委員	No.	所属名（役職）	氏名	備考
	1	市議会議員	赤塚 隆志	会長
	2	主任児童委員	森山 和江	副会長
	3	横市まち協会会長	柏木 健一郎	委員
	4	下菟原公民館長	下原 政広	委員
	5	地区青少協会会長	川崎 和也	委員
	6	都原こども縁長	濱畑 愛	委員
	7	西中PTA会長	小山田 誠	委員
	8	地区青少協委員	森山 数也	委員

事務局	役職	氏名
	校長	三浦 徹也
	教頭	衛藤 卓哉
	教務	横山 健二
	事務主事	松永 萌名美

(2) 組織編制



3 活動報告

月日	主な活動及び内容
4月	・学校運営協議会委員の人選・依頼
4/18 (木)	・コミュニティ・スクール（都城市学校運営協議会制度）説明会 [オンライン]
6/3 (火)	・第1回学校運営協議会（委嘱状交付、学校運営協議会の説明、学校経営説明）
7/31 (木)	・第2回学校運営協議会（三校合同学校運営協議会、意見交換）
12/4 (木)	・第3回学校運営協議会（学校の現状と課題（働き方改革）、学校評価項目の確認）
1/15 (木)	・第4回学校運営協議会（学校の現状と課題、学校評価の分析と考察）
2/12 (木)	・第5回学校運営協議会（学校運営協議会委員の評価と考察）
3月	・次年度に向けての準備

※その他、月1回のオープンスクールデイを実施している。

4 今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会を含む）

7月：横市地区合同あいさつ運動強化週間（毎月第1週）を実施することが決定

・横市地区まちづくり協議会に協力をいただき、地区住民へのポスター（西中生徒制作）の配付、横市地区生徒指導連絡協議会の協力で、のぼり（西中生徒に図案・標語を募集）を制作し、9月から継続的に実施している。小中合同あいさつ運動にもつながっている。

12月：不登校対策

・学校の独自工夫のSSR（さくらサポートルーム）の見守りへの地域（民生委員等）の協力体制の構築、都原児童館の図書館の開放などの協議を行った。

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

○ スペシャルサポートルーム（本校では、SSR：さくらサポートルーム）への支援依頼
今年度は、教室には入れない生徒の支援のために、SSR（さくらサポートルーム）を開設している。しかしながら、職員も授業や事務もあり、常に生徒につけるわけではない状況である。そこで、学校運営協議会や民生委員の皆様と相談し、サポート体制を模索中である。校外ではあるが、次年度に向けて都原児童館の図書室とのコラボレーションも検討中である。

○ 花の苗の贈呈

今年度も、横市地区まちづくり協議会から花の苗をいただき、PTA役員が苗植えを行ったプランターを学校まで運んでもらい、卒業式に向けて花の世話を生徒が行っている。

○ 部活動改革の支援

職員の負担軽減のために、外部指導者増員に向け、人材推薦・紹介を相談してきた。

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

○ 今年度も、全職員での特別支援学級の教科指導（インクルーシブ教育）を実施している。学校運営協議会内でも話題にし、通常学級における支援のあり方も含め協議し、アドバイス等をいただいている。

○ 働き方改革をテーマに協議の場を持ち、様々な視点からの意見交換がなされた。

○ 学校評価の説明及び委員の評価を通して、次年度に向けての協議を行った。

○ 生徒の普段の様子を知っていただくため、ホームページ、Sigfy等での情報発信を行った。

○ 今年度も、月1回程度、オープンスクールディで参観してもらい、アンケートも含めた意見交換、アドバイスをいただいている。

(3) 地域貢献活動

本校はボランティアサークル「さくらの森」を中心に、ボランティア活動に積極的に取り組んでいる。横市地区まちづくり協議会主催の「夏祭り」や「横市地区まつり」等、ボランティア活動が昨年度以上に活発に行われた。横市地区まつりでは、生徒が企画・運営に参画する場もいただいた。また、ごみゼロ運動（登下校時の通学路のごみ拾い活動）も地域貢献の取組と継続して実施されている。さくらの森、生徒会を中心として、スポーツゴミ拾い大会を実施しているが、今年度は横市まつりとタイアップし、西中の生徒と保護者、西小の児童と保護者に輪を広げて実施した。次は、地域の方々とも協働できないかを視野に検討していく。また、本校の強みの「あいさつ」を前面に出し、3校合同の学校運営協議会において、毎月第1週を「横市地区あいさつ運動強化週間」として、のぼりやポスターを作成し、地域をあげたあいさつ運動を展開している。

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 例年以上にボランティア活動の校外での活動の場が増え、参画する機会を得られた。
- 学校の現状を踏まえ、働き方改革、不登校生対応の意見交換を行うことができた。
- 学校が把握しきれていない地域の情報を得ることができ、生かすことができた。
- 家庭教育に関して、保護者や地域への啓発活動の一役を担っていただいている。
- 地域の方に教育活動に継続的・持続的に参画してもらえようような企画・運営が必要であり、さらに地域に根ざした学校づくりを推進する必要がある。
- これまで以上に、双方向で地域と学校が課題を共有し、解決を図る組織づくりが必要である。
- 家庭教育や、学校の働き方改革に関する理解が十分でない。そのための保護者や地域への啓発活動のあり方、学校運営協議会の支援体制を整備していく必要がある。特に、学校に足を運んでももらえていない保護者へのアプローチをどうするかが鍵であると捉えている。

7 次年度の方向性

- 新校時程の施行に向け、モジュールの中身や、効果的な教育課程の編成に向け、PDCAサイクルでよいものにしていく必要があり、学校運営協議会のアドバイスも十分に取り入れていきたい。
- 働き方改革、不登校生対応についての協議を継続し、具体的な実施に結びつけていく。
- 西小及び明和小との連携を図り、横市地区の課題の共有を図り、提言ができるような会の運営を計画していく。また、オープンスクールディをさらに地域に浸透させ、保護者・近隣学校の職員、民生委員との連携以外にも、さらに地域に連携の輪を広げていく。

令和7年度 山之口小学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立山之口小学校		校長名	大野 聡彦	
学級数	11学級	児童生徒数	225名	職員数	24名
教育目標	心豊かで創造的な、心身ともにたくましい児童の育成				

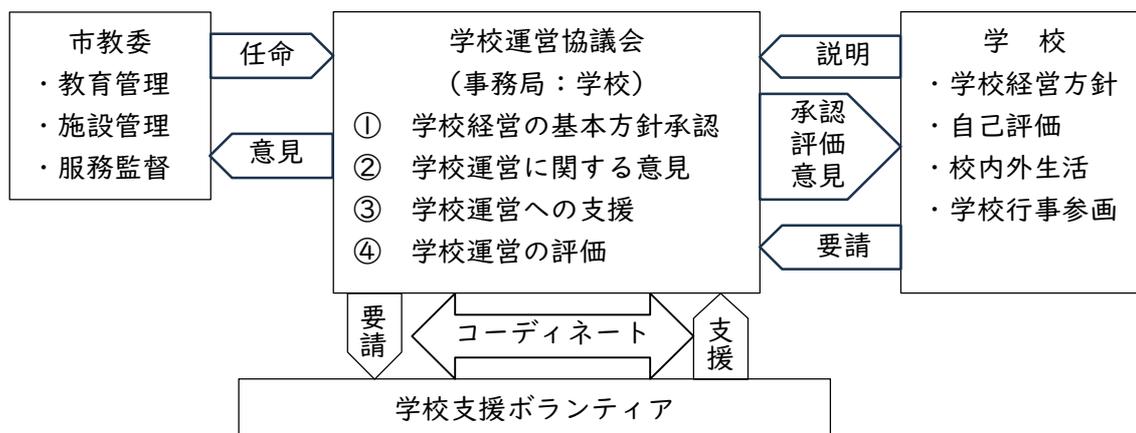
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員（計8名）・事務局（計3名）

学校運営協議会委員	No.	所属名（役職）	氏名	備考
		1	子育て応援あそび隊隊長	中園 愛樹
	2	山之口地区主任児童委員	下西 礼子	
	3	花木地域公民館長	有川 俊一郎	
	4	青井岳地域公民館長	三原 信一	
	5	下富吉地域公民館長	岡元 孝一	
	6	青井岳の森ふれあい交流会事務局長	川内 賢幸	
	7	すくすく第2児童クラブ代表	日高 みずえ	
	8	山之口小学校 PTA 会長	堀口 大輔	

事務局	役職	氏名
	校長	大野 聡彦
	教頭	原田 勝哉
	主任主事	黒田 美沙

(2) 組織編制



3 活動報告

月 日	主な活動及び内容
5月29日	○ 第1回学校運営協議会（委嘱状交付、役員選出、協議会趣旨確認、年間活動計画確認、学校経営方針説明、授業参観）
7月25日	○ 第2回学校運営協議会〔山之口地区小中学校4校合同で実施〕 ① 合同協議：各校危険箇所マップなどの改善点、追加・削除事項、感想について ② 学校別協議 ・学校分収林基金 ・地域と学校の未来創造ミーティング ・意見交換、情報交換
12月3日	○ 第3回学校運営協議会（授業参観、本年度の教育活動、学校評価について）
1月15日	○ 第4回学校運営協議会（授業参観、学校評価報告書案意見交換）
2月18日	○ 第5回学校運営協議会（授業参観、学校評価報告書の審議、今後の行事予定、令和8年度の委員について、意見交換）

4 今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会を含む）

（7）月：「安全マップを基にした、学校・家庭・地域の役割分担について」

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

- 登校時の児童の見守り、朝の読み聞かせボランティア、5年生の米作り、2年生のサツマイモ栽培活動、5・6年生の伝統芸能「奴踊り」、6年生の薩摩古道遠足等、様々な教育活動において、手厚い協力を得たり指導をしてもらったりした。



【5月：サツマイモ苗植え】



【6月：もち米苗植え】



【9月：向原奴踊りの練習】

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

- 地域の人材の支援を得る機会を生かし、地域のよさを学ぶだけでなく、地域のニーズを意識した活動に取り組むという観点から、本年度も青井岳の森ふれ合い交流実行委員会の方の支援をいただき、6年生の薩摩古道遠足を行った。

(3) 地域貢献活動

- 学校と地域との「Win-Win」の関係構築を目指し、「生きがいふれあいフェスタ『山之口』」主催の作品展示に代表児童の作品を出品したり、山之口駅七夕短冊飾り（地区厚生保護女性会主催）に全校児童が短冊を出品したりするなどの地域貢献活動を位置付けている。
- 学校運営協議会委員もメンバーに入っている山之口まちづくり協議会から依頼を受け、山之口ふれあいフェスタに6年児童12名が参加、「向原奴踊り」を披露した。また、山之口どんどんまつり2025（山之口町イベント実行委員会主催）にも、6年児童10名が参加、「向原奴踊り」を披露した。学校便りや学校のホームページで紹介することで、保護者や地域の方に活動の様子を知ってもらい、児童も住民の一人として地域に貢献できるという自己有用感が高まり、今後の地域貢献活動への意欲付けとなった。

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 年度初めに計画した5回の協議会や児童が参加する学校行事、地域での行事を全て実施することができた。
- 学校評価をしていく中で、児童の様子や教職員の取組について様々な視点から意見をいただき、より視野を広めることができた。
- この数年、内容によっては10年近く、学習支援を中心とした人材（ボランティア）がほぼ変わっていない。
- 計画・実践を図る上でのコーディネーター的な立場の方の確保が必要である。

7 次年度の方向性

- 学校運営協議会の目的・仕組み・具体的な活動等について、教職員や保護者、児童、地域への周知を図るため、学校HPや学校便りの充実を図っていく。
- 地域とのよりよい連携・協働の在り方について協議を深めていく。

令和7年度 都城市立麓小学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立麓小学校		校長名	竹森 文洋	
学級数	6学級	児童数	35名	職員数	12名
教育目標	確かな学力と豊かな心、たくましい体をもち、郷土を愛するとともに、 人のために社会のために貢献できる人間を育てる				

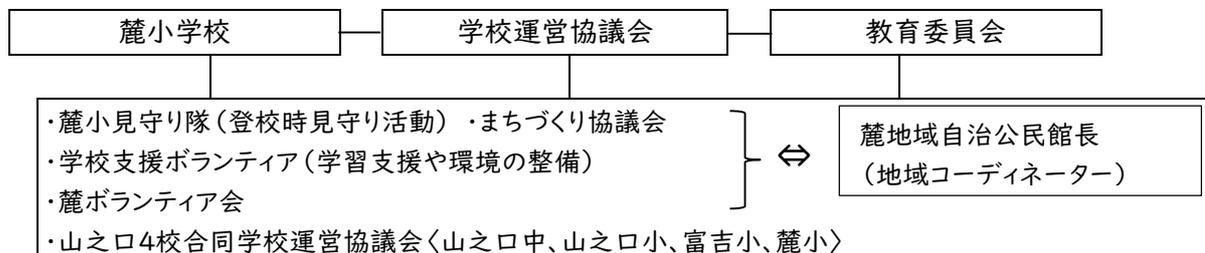
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員(計8名)・事務局(計3名)

学校運営協議会委員	No.	所属名(役職)	氏名	備考
	1	麓地域自治公民館長	良 憲栄	会長 地域コーディネーター
	2	PTA会長	岩見 理一郎	
	3	人形浄瑠璃保存会 会長	前田 公友	
	4	都城芸術文化協会 山之口支部長	山下 博明	
	5	元主任児童員	田邊 美喜子	
	6	主任児童員	松元 江美子	
	7	元PTA会長	尾上 秀樹	
	8	麓地域自治副公民館長	坂元 英興	

事務局	役職	氏名
	校長	竹森 文洋
	教頭	川野 典子
	事務 (臨時)	嘉藤 正純

(2) 組織編制



3 活動報告

月日	主な活動及び内容
通年	・登校時見守り隊活動
5月26日	・ボランティアの方との出会いの会 ・第1回学校運営協議会(委嘱状交付、学校経営説明、学校運営協議会年間計画について)
6月4日	・田植え(協力者:地域ボランティア)
6月26日	・救命救急講習(参加者:学校運営協議会、地域、保護者、職員)
7月25日	・山之口地区4校合同学校運営協議会・第2回学校運営協議会(「児童生徒に安全安心な地域づくりに関して」の協議、1学期の児童の様子、2学期の行事等)
10月5日	・麓小・麓地域合同運動会
10月9日	・第3回学校運営協議会(敬老会・合同運動会の感想意見、学校評価の手順確認)
10月15日	・稲刈り(協力者:地域ボランティア)
10月30日	・脱穀(協力者:地域ボランティア)
12月5日	・もちつき大会(協力者及び参加者:地域ボランティア・保護者)
12月11日	・持久走大会、ぜんざいのふるまい(協力者:麓ボランティア会)
12月14日	・麓地域大規模防災訓練(参加者:地域、保護者、職員 協力者:市消防局・市郡医師会)
12月18日	・第4回学校運営協議会(学校評価アンケート結果説明、山之口地区ふれあい運動会・麓地域防災訓練の感想意見)
2月19日 <予定>	・第5回学校運営協議会(授業参観、学校評価の考察、学校運営協議会の振り返り、次年度の組織・活動計画)

4 今年度実施した「熟議」のテーマ(小中合同学校運営協議会を含む)

7月:「児童生徒に安全安心な地域づくりについて」

5 学校運営協議会の意見を活かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

- 毎年恒例の米作りでは、地域ボランティアの協力のもと、田植えや稲刈り、脱穀、もちつきを行った。学校と地域コーディネーターが連携し、地元で長年農業を営む方に御指導と御協力をお願いして、すべて手作業の米作りを行った。特に、脱穀作業では、学校にある足踏み脱穀機や地域の方が所蔵されている唐箕を使って、時間と手間をかけて、昔ながらの農作業を体験することができた。
- 12月には「麓地域大規模防災訓練」が行われた。第2回学校運営協議会において、地域コーディネーターより、南海トラフ大地震などの大規模災害時を想定し、学校と地域の合同訓練を計画したい、という提案を受けて実現した。当日は、都城市消防局や地域の消防団、市郡医師会の方々の協力のもと、さまざまな体験活動や救助訓練見学等を行い、「児童生徒に安全安心な地域づくり」の発展につなげることができた。



【米作り活動】



【大規模防災訓練】

(2) 教育課程の改善

- 11月に、学校運営協議会委員の「フリー授業参観週間」を設けた。予め時間割を告知しておくことで、見てみたい学級や教科をゆっくりと時間をかけて参観できるようにした。日頃の登校見守りや行事で交流をしている児童が一生懸命に学習に取り組む姿を参観していただくことができた。また、「ぜひ、学習のまとめの発表も参観したい」というご意見を受け、最後の学校運営協議会を2月参観日に行い、保護者とともに児童の1年間の頑張りを参観していただく予定である。



【フリー授業参観】

(3) 地域貢献活動

- 本年も、5・6年を中心に、地域に伝わる2つの伝統芸能伝承活動に取り組んだ。「麓文弥節人形浄瑠璃」では、月2回の練習を行った。学校運営協議会委員の4名の方々も指導者として参加されており、人形の操り方や顔の表現、太夫の語りの節回しなど、熱のこもった練習が行われた。「六十田剣舞」では、保存会の方々から舞踊を学び、運動会で披露して地域住民に大好評であった。また、「山之口弥五郎どん祭り」では、代表の児童が保存会メンバーと一緒に踊ることができた。



【人形浄瑠璃伝承活動】

6 学校運営協議会の成果と課題 (○:成果 ●:課題)

- 学習支援・伝統芸能伝承活動・見守り活動等、多くのボランティアの支援をいただくことで、学校の教育活動がとても充実していた。また、ボランティアの方々の御指導のおかげで、高学年児童が率先して作業を行ったり下級生に優しく教えたりするなど、どの行事や活動においても、リーダーとしての自覚の高まりが見られた。
- 登校渋りのある児童の家庭状況や休業中の様子の情報共有、児童への声掛けの協力をしていただいた。
- 地域と家庭との連携をさらに深めるためにも、さまざまな行事や活動への保護者の積極的な協力の呼びかけを行いたい。
- 地域の高齢化もあり、米作りや見守り隊等、今後のボランティアの継承の在り方について話題に挙がっている。

7 次年度の方向性

- 麓小の課題の1つである「読書教育の推進」について、学校運営協議会において、具体的な取組の協議を行う。
- 「早寝早起き朝ごはん」「元気な挨拶」など、家庭の教育力を高めるために何かできることはないか、協議を行う。

令和7年度 富吉小学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立富吉小学校		校長名	渡邊 政彦	
学級数	6学級	児童生徒数	41名	職員数	12名
教育目標	自ら学び、豊かな心をもって、たくましく生きる児童の育成				

2 学校運営協議会に関わる組織

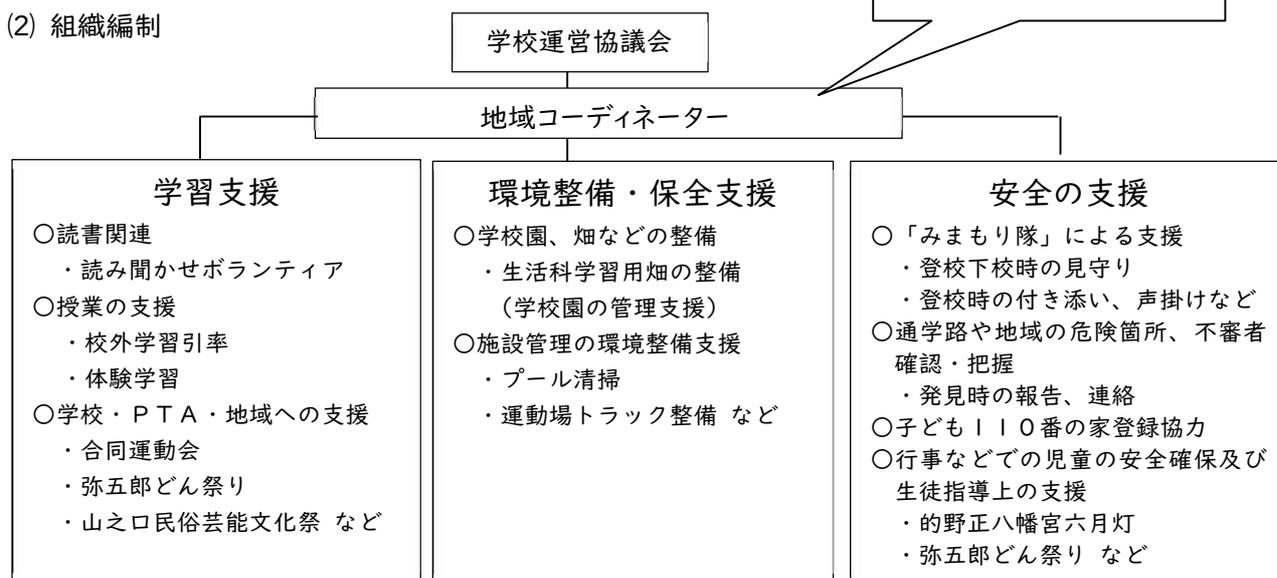
(1) 委員(計8名)・事務局(計3名)

学 校 運 営 協 議 会 委 員	No.	所属名(役職)	氏 名	備 考
	1	上富吉地域公民館長	西久保 五十六	委員 長
	2	弥五郎どん祭り保存会長	紺家 紀宏	副委員 長
	3	歴代PTA会長代表	南 茂博	
	4	民生児童委員	上徳 倫子	
	5	地域協力者	藤本 雪美	
	6	学校支援ボランティア	新美 潤子	
	7	元公民館長	日高 正嗣	
	8	PTA会長	日高 正太	

事 務 局	役 職	氏 名
	校 長	渡邊 政彦
	教 頭	角内 誠
	主 事	厚地 凌吾

※ 各委員がそれぞれ地域コーディネーターの役割を担っている。

(2) 組織編制



3 活動報告

月 日	主な活動及び内容
4 月	学校運営協議会委員の選出
5 月 20 日	第1回学校運営協議会(委嘱状交付、役員選出、学校経営ビジョン説明、質疑応答)
7 月 25 日	山之口地区小中学校4校合同学校運営協議会 第2回学校運営協議会(1学期取組説明)
10 月 5 日	富吉小・上富吉地域合同運動会
11 月 17 日	第3回学校運営協議会(学校評価計画説明)
1 月 20 日	第4回学校運営協議会(授業参観、学校評価結果説明)
2 月 17 日	第5回学校運営協議会(学校評価報告書確認・承認、次年度計画、次年度の委員継続依頼)

4 今年度実施した「熟議」のテーマ(小中合同学校運営協議会を含む)

7月:「校区内の危険箇所について」

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

- 読み聞かせグループ「やまばと」が、毎月第3月曜日の朝の時間に読み聞かせを行った。
- 学校運営協議会委員が、1、2年生の生活科においてきんかんちぎり体験の支援を行った。
- みまもり隊が、朝の登下校の付き添いなどを行うとともに、山之口中学校、山之口地区まちづくり協議会と連携してあいさつ運動に取り組んだ。
- 弥五郎どん祭り保存会を中心に棒踊り、俵踊りの指導、祭りの着付けの手伝い、当日の踊り手として支援をいただいた。



【中学校・地域と連携したあいさつ運動】

(2) 教育課程の改善(カリキュラム・マネジメント)

- スマホの使用方法などが心配であるという意見を受け、都市教育委員会生涯学習課から講師を招聘し、学校保健委員会で講座「メディア安全指導」を5、6年生児童、保護者を対象に実施した。また、児童のスマホ・タブレットの使用状況について保護者にアンケートを取り、その結果をもとに、メディアの適切な使用の仕方について指導した。
- 地域の伝統である棒踊りの運動会での披露についてご意見をいただき、今年は、5、6年生児童が運動会で棒踊りを披露した。
- 「校区内の危険箇所について」の熟議で出された危険箇所をもとに、危険箇所マップを見直すとともに、児童に日常生活における安全な行動の仕方について指導した。



【運動会での棒踊り】

(3) 地域貢献活動

- 富吉小・上富吉地域合同運動会で、今年度は学校と地域合同プログラム「合同玉入れ」を実施し、児童と地域の方とのよき交流の場となった。
- 弥五郎どん祭りをはじめ、地域の祭りや行事に積極的に参加し、地域に貢献するとともに富吉小の取組を地域に理解していただく機会となった。
- 3、4年生児童がクリーン大作戦として、上富吉地区体育館、的野神社公園・参道周辺の清掃活動を行った。



【弥五郎どん祭り】

6 学校運営協議会の成果と課題(○:成果 ●:課題)

- 協議会で地域の方々の要望を聞いたことで、看板の修繕など学校の環境改善に迅速に取り組むことができた。
- 校区内の危険箇所について協議したことで、地域の危険箇所についてより詳しく把握するとともに、児童の安全指導に生かすことができた。
- 教員の働き方改革について十分な協議をしていく必要がある。

7 次年度の方向性

- 伝統芸能活動への取り組み方、発表の場などについて引き続き協議していく。
- 教員の働き方改革についても協議し、業務量管理・健康確保措置に生かしていく。
- 学校運営協議会と児童・保護者・地域とが双方向性で情報共有をするようにし、相互の取組がより有意義なものになるようにしていく。

令和7年度 山之口中学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立山之口中学校		校長名	黒葛原 武	
学級数	8	児童生徒数	165名	職員数	23名
教育目標	子どもが育つ学校 ~Learning workframe2030~				

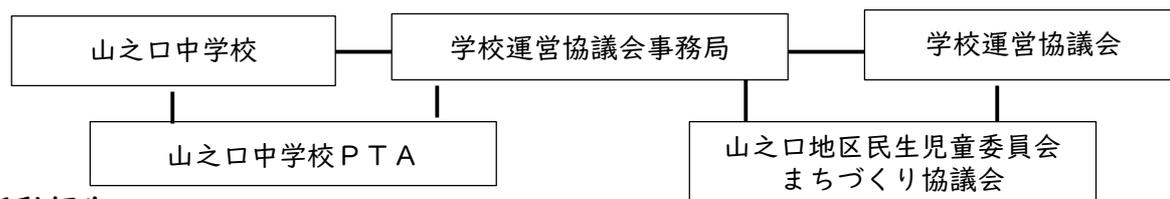
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員 (計7名)・事務局 (計4名)

学校運営協議会委員	No.	所属名(役職)	氏名	備考
	1	都城市議会議員	榎木 智幸	委員長
	2	花木地域公民館長	有川 俊一郎	
	3	上富吉地域公民館長	西久保 五十六	
	4	元主任児童委員	田邊 美喜子	
	5	主任児童委員	下西 礼子	
	6	(有)山之口造林経営者	尾上 秀樹	
	7	PTA 会長	小濱 真樹	

事務局	役職	氏名
	校長	黒葛原 武
	教頭	倉田 和也
	主幹教諭	古川 宏之
	事務副主幹	石黒 昇一郎

(2) 組織編制



3 活動報告

月 日	主な活動及び内容
4月	・学校運営協議会委員選出
4月 9日	・入学式
5月19日	・体育大会参観
5月30日	・第1回学校運営協議会(委嘱状交付、概要説明、役員選出、学校経営方針及び年間計画説明、本年度の取組について)
7月25日	・地区小中学校4校合同学校運営協議会並びに第2回学校運営協議会(キャリア教育集会、教育課程の変更、学校分収林基金)
7月29日	・地域と学校の未来創造ミーティング
10月 2日	・文化発表会参観
10月10日	・第3回学校運営協議会(学校評価、校内の樹木整備、「ひなた場」講師事前研修会)
11月 6日	・キャリア教育集会「ひなた場」
12月 4日	・第4回学校運営協議会(学校の現状と課題、キャリア教育集会反省、協議「今後の学校と地域の連携のあり方について」)
2月 5日	・立志式参観
2月13日	・第5回学校運営協議会(学校評価 評価コメント・外部評定、次年度に向けて)
3月16日	・卒業式

4 今年度実施した「熟議」のテーマ(小中合同学校運営協議会を含む)

12月:「今後の学校と地域の連携のあり方について」

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

11月6日(木)に、3年生を対象としたキャリア教育集会「ひなた場」を実施した。本年度第1回の学校運営協議会でキャリア教育集会の内容について検討したところ、「講演会より生徒が主体的に取り組める。」「参加した大人も、生徒の生の姿に接することができ、とても有意義だ。」といった意見が出され、全会一致で「ひなた場」の実施が決定した。実施にあたっては、学校が主体となり教頭がコーディネートし進めること、委員一人あたり2名、地域の方を講師として推薦すること、また、南九州大学の学生にも講師として参加を依頼することなどを決定した。

10月2日(木)の第3回学校運営協議会に、学校運営協議会委員の推薦する講師に対する事前研修会を実施した。委員及び講師からは、昨年度の反省を踏まえた改善点などが提案された。

当日は、3年生56名と講師22名でひなた場を実施した。生徒からは、「人生の先輩や地域の方々との交流を通じて学ぶことができた。」「将来や生き方への不安が軽減し、前向きな気持ちになった。」、講師の方々からは、「生徒の率直な声を聞くことができ地域の大人として将来が楽しみになった。」「自分の人生を振り返り、考えを深める良い経験になった。」といった感想が聞かれた。



【ひなた場の様子】

(2) 教育課程の改善(カリキュラム・マネジメント)

- 2学期以降の校時程の変更に関して、家庭での過ごし方の充実が重要であるという意見はあったが、生徒の下校時刻が配慮されているなどの理由から実施することとなった。
- 学校からの地域への情報発信に関して、コロナ禍以降、各地区への回覧板による学校だより回覧が停止しているという意見を受け、回覧を再開した。

(3) 地域貢献活動

○ 花配り活動(7月)

民生委員を務める学校運営協議会委員などの協力を得て、生徒の育てた鉢植えの花を地域の高齢者に届ける活動を行った。活動当日は、各地区担当の民生委員さんにもご同行いただきながら、高齢者宅を1軒1軒訪問し、花を渡すことができた。

○ 山之口ふれあい大運動会ボランティア(10月)

山之口まちづくり協議会が主催する地区運動会に50名以上の生徒が選手や役員ボランティアとして参加した。特に役員ボランティアは会場設営や場内アナウンス、選手の招集・誘導、景品配付など大会全般を支える中心的な役割を果たした。実行委員長を務めていた学校運営協議会委員からは、「中学生なしでは成功しなかった。」との言葉をいただいた。

6 学校運営協議会の成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 地域で中心的役割を果たす委員の意見を取り入れ、「地域の学校」の視点をもって学校経営を進めることができた。
- 学校運営協議会の協力により、キャリア教育集会の講師選定や花配り活動の安全な実施など、教育活動の充実につながった。
- 学校が地域にできることに加え、地域が学校にできることについても熟議し、地域と学校がよりWIN-WINな関係を築けるようにしていきたい。

7 次年度の方向性

- 学校運営協議会を通じて、学校と地域人材・組織が密接につながり、地域と学校がより連携した取組を推進する。
- 学校・地域それぞれの抱える課題についてさらに熟議を重ね、「地域の学校」の視点をもったカリキュラム・マネジメントにつなげる。

令和7年度 都城市立高城小学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立高城小学校		校長名	奈須 利博	
学級数	18	児童生徒数	415名	職員数	29名
教育目標	知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成				

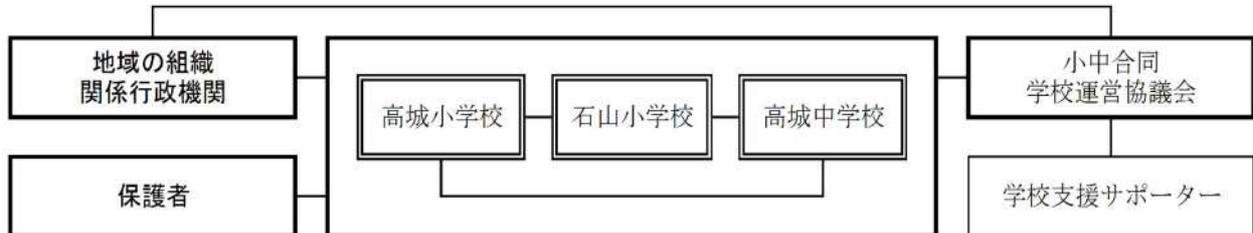
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員（計6名）・事務局（計4名）

学 校 運 営 協 議 会 委 員	No.	所属名（役職）	氏 名	備 考
	1	第7民生児童委員	川島 宏幸	会長
	2	第2自治公民館長	福島 清邦	
	3	学習サポートボランティア	外勢 徹男	
	4	学習サポートボランティア	外勢 浩子	
	5	高城小元PTA会長	徳丸 信一	副会長
	6	高城小PTA会長	上村 リエ	
	7			
	8			

事務局	役 職	氏 名
	校 長	奈須 利博
	教 頭	福岡 茂樹
	教務主任	高梨 望
	事務主幹	村橋 誠

(2) 組織編制



3 活動報告

月 日	主な活動及び内容
4 月	・学校運営協議会委員選出
5 月 29 日	・第1回学校運営協議会（高城小・石山小・高城中合同）：委嘱状交付、学校運営協議会の説明、学校経営説明、質疑
7 月 7 日	・第2回学校運営協議会：授業参観、学校の様子について説明、ふるさと学習（「昔の遊び」「日本の文化」「先輩に学ぶ」）についての熟議、学校評価について協議
11 月 13 日	・第3回学校運営協議会：授業参観、学校の様子についての説明、ふるさと学習（「昔の遊び」「日本の文化」「先輩に学ぶ」）の振り返り、学校評価についての協議
1 月 15 日	・第4回学校運営協議会：授業参観、学校の様子についての説明、学校評価アンケート結果の説明、学校評価についての協議
2 月 5 日	・第5回学校運営協議会：授業参観、学校評価、次年度に向けて協議
3 月	・次年度へ引き継ぎ

4 今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会を含む）

7月：「ふるさと学習（「昔の遊び」「日本の文化」「先輩に学ぶ」）について」

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

学校運営協議会委員が中心となり、地域と連携した講師の選定・調整を行った。「昔の遊び」「日本の文化」については、委員のネットワークを活用して外部講師を招聘した。また、「先輩に学ぶ」の学習においては、6年生の保護者を対象にアンケートを実施し、多様な職業や経験を持つ講師を募るなど、学校・家庭・地域が一体となった体制を構築した。この取組をさらに深化させるため、委員からは「子どもたちのキャリア観に寄り添うことが重要である」という意見が挙がった。事前に子どもたちが関心のある職業を調査し、そのニーズに基づいた講師選定を行うことで、より主体的な学びへとつなげていく方向性が示された。



【昔の遊び（1年生）】



【日本の文化（4年生）】



【先輩に学ぶ（6年生）】

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

「自分の地域に誇りをもってほしい」という願いがあり、6年生は10月18日に開催した運動会で「奴踊り」を披露した。今年度は4回練習の場を設定（9月22日、9月30日、10月7日、10月15日）に設定し、奴踊り保存会の方々に指導していただいた。

本番では、体を大きく動かして堂々と踊る姿が見られた。地域に伝わる「奴踊り」を楽しみながら披露することができ、地域の伝統芸能を大切にしたいという思いが高まった。



【奴踊りを披露する6年生】

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 「昔の遊び」「日本の文化」「先輩に学ぶ」といった地域資源を積極的に活用した体験活動を展開した。地域住民との直接的な交流を通じ、児童の地域に対する愛着や関心を深めることができた。また、活動を共にする中で「人の役に立ちたい」という自己有用感の向上が見られた。
- 授業参観での児童の主体的な姿や教員の熱心な指導に対し、委員から前向きな評価を得ることができた。これにより、学校の教育方針への理解が深まるとともに、学校と地域の強い信頼関係の基盤となった。
- 学校運営協議会の活動やふるさと学習の成果を、保護者や地域住民へ広く、かつタイムリーに周知するための手法を検討する必要がある。地域全体で子どもたちの育ちを共有・共感できる情報発信体制の構築を推進していく。

7 次年度の方向性

- 今年度実施した「昔の遊び」「日本の文化」「先輩に学ぶ」の活動を、単発の体験活動に留めず、各教科や総合的な学習の時間等との関連性を整理していきたい。

令和7年度 石山小学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立石山小学校		校長名	山元 秀樹	
学級数	8	児童生徒数	71名	職員数	14名
教育目標	ふるさと石山を愛し、かしこく、やさしく、たくましく生きぬく児童の育成				

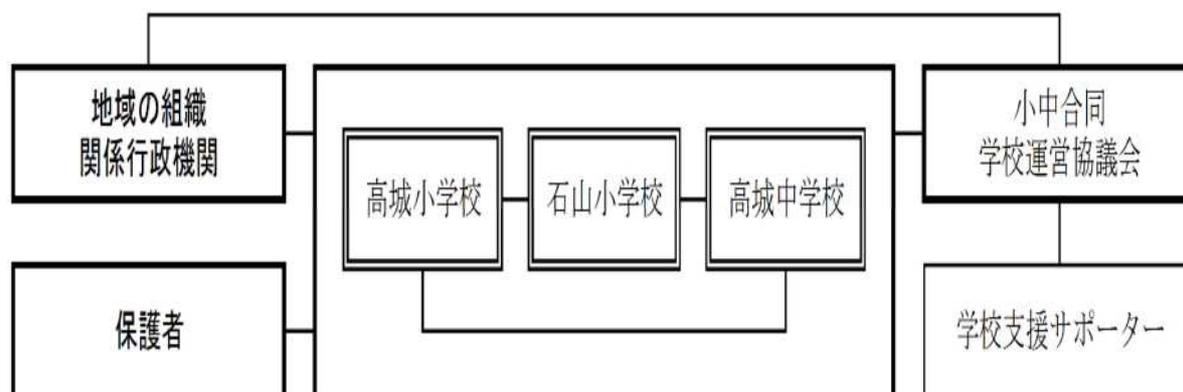
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員（計8名）・事務局（計3名）

学校運営協議会委員	No.	所属名（役職）	氏名	備考
	1	9区自治公民館長	山本 正行	会長
	2	10区自治公民館長	山本 啓二	
	3	11区自治公民館長	上村 明美	
	4	12区自治公民館長	諏訪 敬次	
	5	主任児童委員	永峯千恵子	
	6	民生児童委員	池脇 麗子	
	7	石山保育園 園長	軀川 明知	
	8	PTA 会長	定満 祐介	

事務局	役職	氏名
	校長	山元 秀樹
	教頭	中野 一幸
	教務主任	田川 博美

(2) 組織編制



3 年間の活動計画

月 日	主な活動及び内容
4月	・学校運営協議会委員選出
5月29日	・第1回学校運営協議会（委嘱状交付、学校運営協議会の説明、質疑）
6月17日	・第2回学校運営協議会（学校経営方針説明、学校の現状と協議）
10月2日	・第3回学校運営協議会（学校評価の確認、今後の児童数と教育課程上の課題）
12月18日	・第4回学校運営協議会（学校評価について、情報交換）
2月5日	・第5回学校運営協議会（学校評価の確認、情報交換）
3月	・次年度へ引き継ぎ

4 今年度実施した「熟議」のテーマ

10月：「学校と地域の連携の在り方」

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

ア 稲作体験活動

5・6年生が、総合で行っている稲作体験活動（田植え、稲刈り）に保護者や地域の方の協力を得て実施した。特に、地域の方に田の水の管理を定期的にしていただいた。



【 田植え 】



【 稲刈り 】

イ 見守り隊の方による登校安全見守り活動
各地区の公民館長さんや民生児童委員の方をはじめとする13名の方に登録していただき、登校の見守り活動をしていただいている。4月に対面式、3月に感謝集会を行い児童との交流を深めている。



【 登校の様子 】



【 対面式 】

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

○ 「リメンバー石山（石山観音寺清掃）を教育課程の中に位置付け、教職員が勤務時間内で指導できるようにした。

(3) 地域貢献活動

ア 6月に実施した「リメンバー石山」では学校運営協議会委員の方や保護者、地域の方の協力を得て、石山観音寺の住職さんの指導のもと、境内の清掃活動をした。



【 清掃活動1 】



【 清掃活動2 】

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- すべての公民館長が、学校運営協議会委員になってくださったことで、地域との連携をスムーズに進めることができた。
- 学校運営協議会で、「石山小学校をよくするためにどうすればよいか」という熟議をすることで参考になる意見をいただいた。
- 地域行事への児童参加は、保護者への啓発が必要である。
- 地域の人材を学校の授業で活用してほしい。

7 次年度の方向性

- 今後の児童数減を見据えて、教育活動や学校運営の在り方について熟議を重ねていく。
- 地域の人材を学校の授業等で活用していく。

令和7年度 高城中学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立高城中学校		校長名	松崎 和美	
学級数	10学級	児童生徒数	238名	職員数	26名
教育目標	豊かな人間性の育成 ～意欲・協調・創造～				

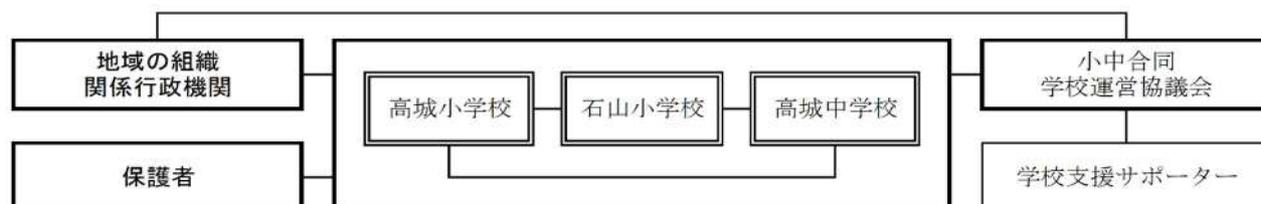
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員（計8名）・事務局（計4名）

No.	所属名（役職）	氏名	備考
1	みやこんじょボランティアネットワーク会長	新原 明義	会長 コーディネーター
2	高城神社宮司	安藤 武	
3	県防災士ネットワーク 都城支部副支部長	兒玉 和裕	
4	横原「水・土・里」 を守る会	宮田 一男	
5	高城地区自治公民館 連絡協議会会長	上久保 正巳	
6	南九州大学教授	早川 純子	
7	かのんクラブ	富永 千代子	
8	高城中 PTA 会長	塩満 寿人	

役職	氏名
校長	松崎 和美
教頭	加祥 耕之輔
教務主任	相原 和徳
専門主事	久保田 裕一朗

(2) 組織編制



3 活動報告

月 日	主な活動及び内容
4月	・学校運営協議会 委員選出
5月29日	・第1回高城中学校地区合同学校運営協議会（委嘱状交付、学校運営協議会の説明、学校経営説明、質疑）
7月29日	・地域と学校の未来創造ミーティングに学校運営協議会会長、校長、教頭が参加
9月16日	・第2回 学校運営協議会（中学校における実態、課題と改善案についての熟議）
12月4日	・第3回学校運営協議会 授業参観、諸アンケート回答、2月の参観日の講演会についての協議
1月15日	・第4回学校運営協議会 面接指導、学校評価についての協議、次年度教育課程説明
2月6日	・第5回学校運営協議会（参観日に保護者向け教育講演会を主催、学校評価、改善事項の協議）
3月	・次年度へ引き継ぎ

4 今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会を含む）

9～1月：「地域の特色を生かした生徒指導」

本校は全体的に素直で望ましい生活習慣を身に付けている生徒が多い。一方で時折、自分の感情をコントロールできず、周囲への配慮が不足してしまう生徒も見られる。また不登校の生徒も一定数おり、次年度に向けての重点課題である「望ましい生徒指導の在り方」について熟議を行い、本年度は最終的に保護者向けの教育講演会を実施するに至った。

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

○ 避難訓練(4月)

委員であり、県防災士ネットワーク副支部長の兒玉さんにご講話いただいた。

○ 戦争体験者講話(7月)

市の事業である「桜舞」への参加にあたり、事前学習として平和学習を企画したところ、地域の戦争体験者を学校運営協議会で紹介していただいた。

○ 敬老イベント交流会(9月)

地域との交流の一環として、ボッチャ等のニュースポーツを地域の高齢者に行った。



【敬老イベント交流会】

○ 国際理解・キャリア教育(10月)

現在デンマークで生活されている方(高城町出身)が一時帰国された際に、デンマークでのくらしや文化の講話をいただいた。

○ 面接指導(1月)

3学年の入試対策の一環として、学校運営協議会の委員に面接官の役割で協力をいただいた。



【面接指導】

○ 教育講演会(2月)

高城町出身で、小林市在中の福留健一さんを講師として保護者、地域の方に教育講演会を実施した。

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

- 2月の参観日に特別教育講演会を設定するなど、新しく企画した行事について柔軟に対応した。



【まちづくり協議会防災研修会】

(3) 地域貢献活動

- 高城地区まちづくり協議会防災研修会参加(6月)
- 地区公民館清掃(8月)
- 観音池まつりへの参画(8月)
- 高城児童館ハロウィンイベントボランティア(10月)
- 高城地区ボランティア福祉祭り(11月)
- 高城地区総合防災訓練ボランティア(11月)
- 防災対策体験教室ボランティア(1月)



【観音池まつり】

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 学校運営協議会会長が、地域学校協働活動のコーディネーター的な役割を担われ、熟議が実践へとつながり、重点目標の「自立・貢献」を具現化することができた。
- 保護者とのつながりを模索し、学校・地域・保護者がより一体となった活動を展開したい。

7 次年度の方向性

○次年度の本校の重点目標は「生徒指導と特別支援教育の充実」である。この目標に準じ次年度の熟議のテーマを設定し、本年度同様、委員の皆様のお力添えをいただきたい。

令和7年度 都城市立有水小学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立有水小学校	校長名	横山 武志		
学級数	6	児童生徒数	38名	職員数	13名
教育目標	自ら考え 進んで行動する 心豊かな児童の育成(自律・自立)				

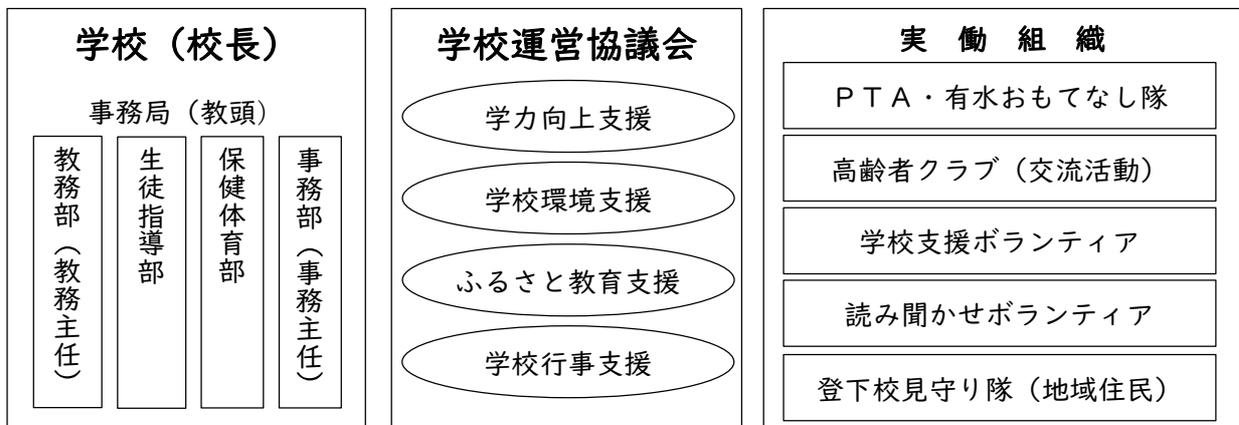
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員 (計8名)・事務局 (計2名)

No.	所属名 (役職)	氏名	備考
1	15区自治公民館長 (委員長)	石田 操	会長・地域コーディネーター
2	元PTA会長(委員)	小林 清明	
3	13区民生委員児童委員 (委員)	平野 正行	
4	16区民生委員児童委員 (委員)	坂元 京子	
5	14区民生委員児童委員 (委員)	笹葉 照明	
6	前有水幼稚園保護者会会長 (委員)	阿多 克郎	
7	前PTA会長(委員)	久保 武樹	
8	PTA会長(委員)	有水 絵美	

	役職	氏名
事務局	校長	横山 武志
	教頭	比江嶋 哲

(2) 組織編制



3 年間の活動計画

月 日	主な活動及び内容
4月23日	・学校運営協議会委員選出
4月23日	・第1回学校運営協議会 (委嘱状交付、学校経営説明、協議) 有水中学校と合同開催
5月17日	・有水スポーツフェスタへの参席
6月27日	・第2回学校運営協議会 (学校運営の状況について、学校評価の年間計画と評価方針・内容等について、地域と連携・協働した活動の在り方、ふれあい給食、授業参観)
9月 5日	・第3回学校運営協議会 (前期学校評価の説明・協議、地域懇談会の説明・協議等)
1月22日	・第4回学校運営協議会 (後期学校評価結果報告・協議、授業参観)
2月27日	・第5回学校運営協議会 (授業参観、次年度のビジョンについて協議・意見交換)
(予定)	
3月	・学校評価・報告書の公開

4 今年度実施した「熟議」のテーマ

4月：「子どものために何ができるか」（保護者・学校運営協議会委員・職員の熟議）

9月：「地域懇談会で出た内容を具体化していこう」（学校運営協議会委員の熟議）

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

学校運営協議会では、地域の人とのふれあい活動、見守り活動、グリーン（緑化）活動、クリーン（清掃）活動、あいさつ運動を充実させていきたいという意見が出された。

そこで、学校運営協議会で学校の職員が必要としている人などについて、地域コーディネーターを中心にミシン操作補助や昔の有水地区の講話（写真1）など10以上の活動の支援をしていただいた。活動のねらいを十分に把握された補助となり非常に充実した活動となった。



【写真1：「昔の有水地区」の講話】

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

前期の学校評価で、児童の歯磨きや立腰に課題があるという意見を受けて、学級活動の時間の中で、養護教諭や外部講師を招いて、歯や目などの保健指導を重点的に行うようにした。（写真2）学年を分けて行うことで、指導の充実を図ることができた。

また、地域とのふれあいを充実するという意見を取り入れて、地域の方を招いて、クラブ活動で「ポッチャ・スカットボール」などの交流活動を行った。



【写真2：養護教諭の保健指導】

(3) 地域貢献活動

学校運営協議会の方々と一緒に毎年行う、「クリーン活動」の他、今年創立150周年に伴うPTAと一緒にを行う清掃活動や「道守活動」で地域の工事関係者と一緒に行う国道10号線の清掃活動（写真3）などを実施した。

また、有水地区の伝統芸能として存続が危惧されている「有水鉦踊り」についても、授業や150周年記念式典に取り入れ、例年以上に児童が参加し、多くの方に周知することができた。



【写真3：国道10号線沿いの清掃活動】

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 地域素材・人材の活用については8割、情報提供については9割以上の保護者が肯定的評価をしている。地域学習の充実が見られた。
- 9割以上の児童が主体的な学習について肯定的評価をしており、10ポイント以上の改善がみられた。教職員の意識の変容も大きく向上している。
- 家庭や地域の教育力の変容については、職員・地域住民などと熟議を重ねることで学校への関心を高め、課題や伸ばしていく部分を共有することができた。
- 家庭の教育力の向上など、委員と保護者でより課題を共有して取り組めるよう工夫したい。
- これまでの地域との連携の実績を教育課程に反映させて実施していきたい。

7 次年度の方向性

- 本年度の熟議のよって、課題となる項目が出てきたので、次年度以降さらに学校運営協議会などで具体的な方策を検討して、課題解決に向けた取り組みをしていく。
- 学校運営協議会委員と職員の連携を図り、地域人材による学校支援をさらに推進していく。

令和7年度 有水中学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立有水中学校		校長名	和田 健	
学級数	5学級	児童生徒数	20名	職員数	15名
教育目標	生き抜く力をもった笑顔あふれる生徒の育成 【校訓】 強く雄々しく 清く豊かく 若く凛々しく				

2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員 (計7名)・事務局 (計3名)

学 校 運 営 協 議 会 委 員	No.	所属名 (役職)	氏 名	備 考
	1	前16地区公民館長	原口 好清	会 長
	2	前13地区公民館長	二見 法雄	副会長
	3	13地区公民館長	新地 利光	
	4	元高城支所地域振興課職員	福島 優子	
	5	17地区公民館長	山田 浩一	
	6	元PTA会長	末永 真人	
	7	PTA会長	溝添 友貴	
	8			

事 務 局	役 職	氏 名
	校 長	和田 健
	教 頭	西峯 稔
	教務主任	中村 利隆

(2) 組織編制



3 活動報告

月 日	主な活動及び内容
1学期	
4月	・学校運営協議会委員選出
4月23日	・第1回学校運営協議会【小中合同】(委嘱状交付、学校運営協議会説明、学校経営説明、質疑)
5月17日	・小中合同スポーツフェスタ参観
7月3日	・第2回学校運営協議会(フリー参観、)
2学期	
10月25日	・第3回学校運営協議会(学習発表会参観、学校評価の項目検討)
12月	・フリー参観【12月1日~5日】(オープンスクール機関に授業参観)
12月12日	・第1回面接指導への協力(3年)
12月16日	・第4回学校運営協議会(フリー参観、学校評価の結果・考察についての協議)
3学期	
1月9日	・第2回面接指導への協力(3年)
2月12日	・第5回学校運営協議会(フリー参観、次年度教育課程説明、学校評価、改善事項検討、生徒会役員との意見交換)

4 今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会を含む）

10月：「公民館活動と学校行事の兼ね合いについて」

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

- キャリア教育の一環として、「職業人の話を聞く会」や総合的な学習の時間の中での講話について、講師の依頼等への協力をいただいた。
- 地域学習の一環として、本年度は、調理実習を行う際に講師として、生徒と一緒に調理実習を行う機会（写真①）を設定した。また、年1回地域の食材を使って自分たちで調理する機会を設定しているが、本年度も数名の地域の方と一緒に活動する場を設定した。（写真②）
- 3年生の高校入試における面接指導の一環として、今年度も、運営協議会委員に面接官として協力していただいた。（写真③）子どもたちは、地域に見守られ、安心感を得ることができている。また、運営協議会委員の方々にとっては、子どもたちの成長を実感することができる取組となっている。



【写真① ガネづくり】



【写真② 地産地消自炊の日】



【写真③ 3年面接指導】

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

- 昨年度実施した学校評価で、読書活動についての項目について、落ち込みが見られ、図書室の在り方について改善を図った。特に、本年度は、生徒会活動を再編するとともに、図書館サポーターと連携を図り図書館の様態替えやイベントを企画した。また、週2回朝自習の時間を読書の時間として設定した。

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 学校運営協議会の始まる前に、フリー参観を実施し、生徒や教職員の姿を実際に見ていただいたうえで、中学校の今後の在り方等について、協力や助言をいただくことができた。
- 3年生の面接指導に面接官として協力いただき、面接指導の後にフィードバックを行ったことで、面接指導のポイントについての助言をいただくことができた。
- 公民館活動や高齢者クラブ等の活動と学校行事の兼ね合いについて、助言をいただき、活動の在り方について見直すきっかけとなった。
- 熟議を行う際、生徒や保護者などの意見を交えることができなかつたため、授業参観日などを利用して熟議を行う場を設定する必要がある。
- 少子化の進展により、生徒数の減少が著しい中、学校をはじめ地域の活性化をどのように図っていくべきか、具体的な取組内容を検討していく必要がある。

7 次年度の方向性

- 第1回学校運営協議会（小中合同）において、全職員が参加し、お互い理解を深めたうえで、協議会を運営しながら学校の課題解決に取り組んでいきたい。

令和7年度 都城市立山田小学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立山田小学校		校長名	岡田 新一	
学級数	8	児童生徒数	94名	職員数	15名
教育目標	心豊で、知性に富み、たくましく生きる子どもの育成				

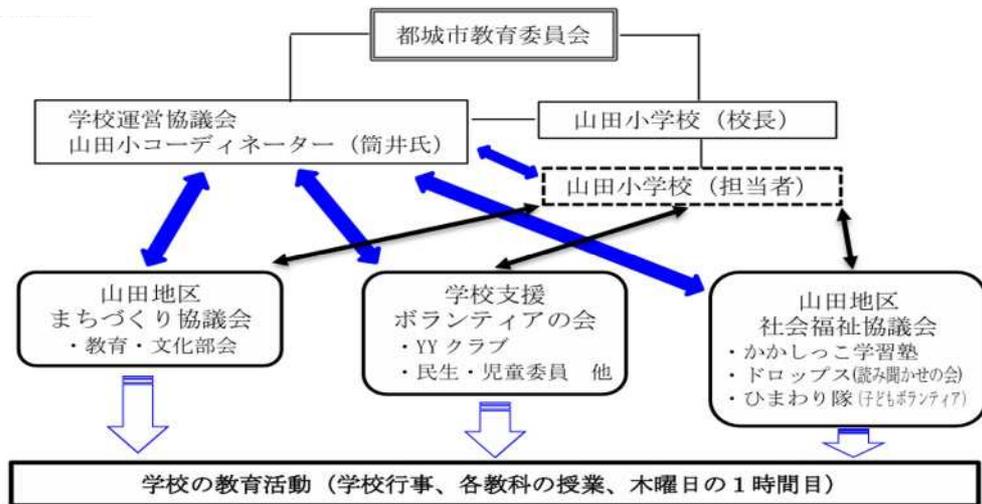
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員 (計7名)・事務局 (計2名)

学 校 運 営 協 議 会 委 員	No.	所属名 (役職)	氏 名	備 考
	1	山田小コーディネーター	筒井 由佳里	コーディネーター
	2	西柗郵便局長	西山 祐司	
	3	山田地区主任児童委員	椎屋 真知子	
	4	山田中央保育所所長	柿木 玲子	
	5	木之川内小学校校長	田口 真澄	
	6	元 PTA 会長	川野 雅人	本校学校運営協議会委員長
	7	令和7年度 PTA 会長	福重 猛	

事 務 局	役 職	氏 名
	校 長	岡田 新一
	教 頭	藤元 聡枝

(2) 組織編制



3 活動報告

月 日	主な活動及び内容
5月27日	第1回 山田小 学校運営協議会 ○委嘱状交付 ○協議会の主旨等説明 ○年間活動計画・学校経営等の説明
7月28日	令和7年度 山田ブロック学校運営協議会及び第2回山田小学校運営協議会 ○第1回学校運営協議会報告 ○山田地区共通の課題及び改善策について ○各学校での協議等 (共通理解事項・共通実践事項・学校独自の目標 など)
10月24日	第3回 山田小 学校運営協議会 ○2学期の児童の様子について ○本年度の学校評価について ○授業参観
10月7日	家庭科学習支援 (第5学年 家庭科 ミシン操作の補助) ※10/7~全5回の支援
12月10日	第4回 山田小 学校運営協議会 ○学校評価項目最終確認及び評価要領の説明 ○山田ブロック及び本校の「育てたい山田っ子像」について
1月7日	三学期始業日の朝の「あいさつ運動」 ※1月7日~13日 ○山田小校区在住の民生児童委員のみなさんによるあいさつ運動及び登校見守り
1月28日	第5回 山田小 学校運営協議会 ○3学期の児童の様子 ○本年度の学校評価項目の結果報告等 (成果と課題・課題に関する協議)

4 今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会を含む）

7月：「山田ブロック 『育てたい子ども像』」→ 自分から（自ら）動く 山田っ子
「山田小 『育てたい山田っ子像』」 → 自分で、じっくり考える子ども

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

- ① 児童の家庭学習習慣を育むための放課後学習支援
山田小コーディネーター 筒井氏所属のかかしっこ学習塾。毎週火曜日の放課後に全学年の希望者を集め、家庭学習の支援を実施。

学校運営協議会で話題になった「学力向上」のための支援の在り方について、有志の方々と研鑽中。

母体は、山田地区社会福祉協議会。



【かかしっこ学習塾の様子】

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

- 昨年度末の学校運営協議会において、委員の方から「地域の方が学校に気軽に行ける機会が欲しい」とのご意見をいただいた。そこで、本年度は委員の方を対象に参観日の授業参観を設定。

↓

【成果】：現段階で可能な学校の地域への開放の足掛かりは準備できた。（職員への周知も行った）

【課題】：案内のタイミングや方法については改善が必要。

(3) 地域貢献活動

- 「自分から動く山田っ子」を育てるためのあいさつ運動
まちづくり協議会の提案で始まった「あいさつ運動」だが、本年度は、民生委員・児童委員の皆さんのあたたかな熱意ある想いも加わり、三学期開始の1月7日から約1週間の実施。

初日は各学校区に在住の民生・児童委員の皆さんが学校に集まり、正門等で児童を迎えてくださった。加えて、朝の登校見守りも実施してくださった。



【正門前でのあいさつ運動】

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 会の開催のたびに忌憚のないご意見をいただき、協議を行うことができた。また、委員の方々が、それぞれの立場で学校支援に関するアイデアのご提供や活動の支援を行っていただけただけは大変ありがたかった。
- 本年度も、会の開催は5回にとどまってしまった。毎回、意見交換や協議の際には貴重なご意見や地域で取り組むべき課題の提案等もあったが、会の開催に対して柔軟に対応できなかったため、学校運営協議会としての具体的な活動まで高めることができなかった。

7 次年度の方向性

- ① 「自分でじっくり考える山田っ子」の育成のために、地域に学校を開放する機会や、学校が地域のためにできることを具体的に挙げて実践していく次年度にする。
- ② 校内環境整備（主に屋外）について、PTA組織とともに支援や協力の輪を広げる。
- ③ ①・②ともに広報や周知の工夫をする。

令和7年度 中霧島小学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立中霧島小学校		校長名	蓑毛 隆洋	
学級数	8学級	児童生徒数	171名	職員数	16名
教育目標	ふるさとを愛し、人間力あふれる児童の育成				

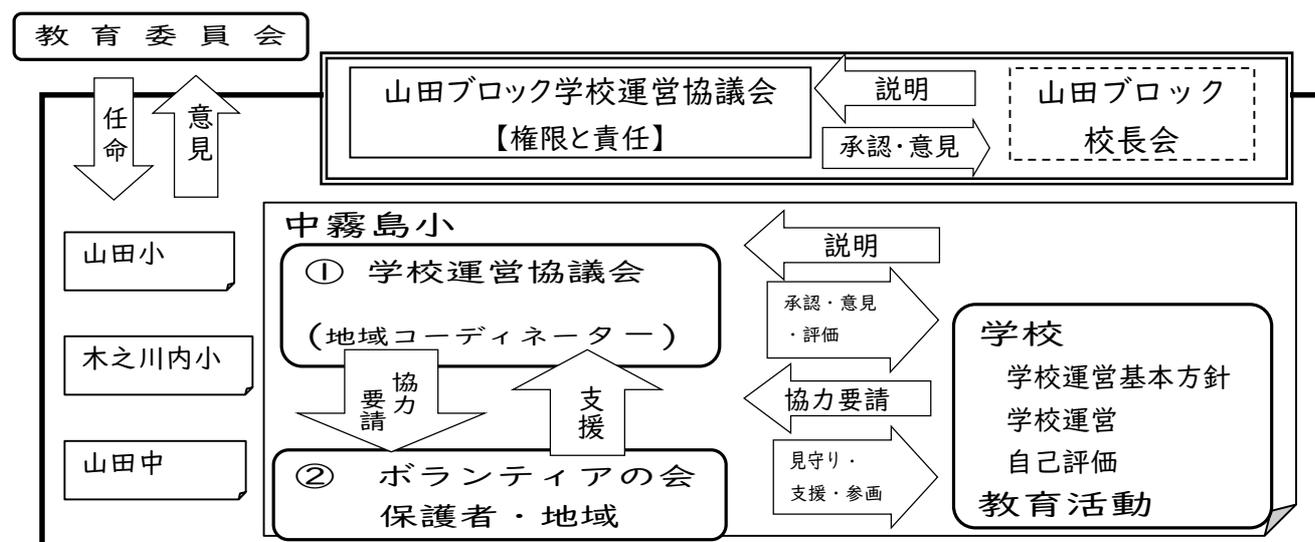
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員(計7名)・事務局(計2名)

学校運営協議会委員	No.	所属名(役職)	氏名	備考
	1	主任児童委員	前田 恵美子	会長 地域コーディネーター
	2	民生委員児童委員	寺崎 徹	
	3	谷頭こども園長	金丸 恵美子	
	4	谷5地区公民館長	花岡 富夫	
	5	谷8地区公民館長	加覧 健三	
	6	PTA会長	馬場 孝宏	
	7	山田中校長	加治屋 輝昭	

事務局	役職	氏名
	校長	蓑毛 隆洋
	教頭	片平 陽子

(2) 組織編制



3 活動報告

月 日	主な活動及び内容
4月	・学校運営協議会委員選出 ・PTA登校見守り活動開始
6月5日	・第1回学校運営協議会(委嘱状交付、学校経営説明、承認及び意見交換、年間計画等)
6月	・校外学習の引率・教育活動の補助等の活動開始
7月28日	・山田ブロック学校運営協議会(第2回)【木之川内小】
8月	・新山田音頭の踊り方講習会(運動会に向けた職員向け研修)
10月11日	・山田かかり村祭りに相撲甚句で発表
11月3日	・山之口弥五郎どん祭りに相撲甚句で発表
11月16日	・参観日・きりっ子ふれあい祭り(親子調理・相撲甚句)実施
12月3日	・持久走大会における誘導ボランティア
12月16日	・第3回学校運営協議会(自由参観、学校評価に向けて等)
1月30日	・第4回学校運営協議会(学校評価結果の報告・考察・対策)
2月25日	・参観日・第5回学校運営協議会(1年間の教育活動の成果と課題・次年度の方向性)
2月27日	・感謝集会の実施
3月	・次年度へ引き継ぎ

4 今年度実施した「熟議」のテーマ(小中合同学校運営協議会を含む)

7月:「感謝の心を持ち、あいさつや『ありがとう』が言える子ども」

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

- 学校運営協議会の中で、秋にある『きりっ子ふれあい祭り』で子供たちから「親子でお菓子づくりをしたい」という要望があがり、地域の方で講師を探していることを話題にしたところ地域コーディネーターにより、学校支援ボランティア(きりっ子隊)に声をかけていただき、学校で採れたサツマイモを使った蒸しパンを作ることが実現した。



【きりっ子祭りでの支援】

(2) 教育課程の改善(カリキュラム・マネジメント)

- 昨年度、山田相撲甚句を3・4年の教育課程に大まかに組み込んだ。今年度は、目標をしっかりと立て、計画的に児童に伝統芸能について学んで欲しいという意見を受けて保存会の皆さんと練習計画を立て練習を行った。ただ踊るだけでなく歴史を学んだり、楽器に触れたりすることで児童は相撲甚句をより身近なものと感じることができた。

きりっ子祭りでは4年生がメインで披露を行った。



【きりっ子祭りにて披露】

(3) 地域貢献活動

- 学校運営協議会の中で、『相撲甚句』を地域の祭りや外部のお祭りなどで一緒に披露してほしいという意見が出され、今年度は『山田かかし祭り』や『山之口弥五郎どん祭り』に児童の希望を募って参加した。子供たちの踊りに、地域の方も喜んでくださった。



【山田かかし祭り出演】

6 学校運営協議会の成果と課題(○:成果 ●:課題)

- 学校が相談したことに対して、すぐに地域コーディネーターの方が動いてくださり、充実した体験活動を行うことで、児童の学習意欲の向上が見られた。
- 感謝の気持ちを伝えたいという声子供たちと教職員からあがり、感謝集会を計画することができた。
- 家庭教育力を高めるためにPTAと連携をした取組

7 次年度の方向性

- 持続可能な学校支援体制の継続
- PTAとの連携推進

令和7年度 都城市立木之川内小学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立木之川内小学校		校長名	田口 麻澄	
学級数	6学級	児童生徒数	43名	職員数	13名
教育目標	自ら考え、正しく判断できる力をもった人間性豊かな児童の育成				

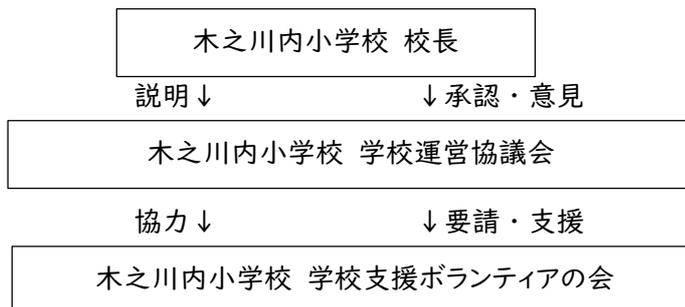
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員（計7名）・事務局（計2名）

学校運営協議会委員	No.	所属名（役職）	氏名	備考	事務局	役職	氏名
	1	民生委員・児童委員	米吉 春美	会長		校長	田口 麻澄
	2	地域コーディネーター	牛谷 勝郎	地域コーディネーター		教頭	中村 雄三
	3	内村勝博行政書士事務所	内村 勝博				
	4	まんがつか認定こども園	坂口 育代				
	5	宮崎医療管理専門学校	玉利 勇二				
	6	木之川内小学校 PTA 会長	福田 竜二				
	7	山田小学校校長	岡田 新一				
	8						

(2) 組織編制

【コミュニティースクール】



3 活動報告

月 日	主な活動及び内容
5月14日	・ 第1回木小教育座談会（学校の概要及び経営の方針、地域学校協働本部の進め方について、地域学校協働本部（木小応援団）の本年度の取組）
5月20日	・ じゃがいも掘り支援
5月30日	・ 第1回学校運営協議会（委嘱状交付、学校運営協議会の趣旨、学校の概要及び経営の方針、学校運営協議会年間計画）
7月 2日	・ 町探検支援
7月 4日	・ 学校参観日（授業参観）
7月30日	・ 第1回山田ブロック学校運営協議会（各学校の1学期の取組報告、学校運営協議会報告及び協議、共通実践事項）（※ 第2回学校運営協議会と兼ねる。）
8月 4日	・ 第2回木小座談会（PTA 奉仕作業、運動会競技種目、学校分収林）
9月18日	・ 学校参観日（オープンスクール授業参観）
9月26日	・ PTA奉仕作業（地域の方も参加）
10月26日	・ 運動会参加（地域の方も参加）
11月12日	・ 第3回学校運営協議会（1・2学期の教育活動についての報告、学校評価の評価項目、

	学校分収林)
12月4日	・ 持久走大会における交通安全支援
12月18日	・ 第4回学校運営協議会(3学期の教育活動、学校評価結果、意見交換)
1月21日	・ 第5回学校運営協議会(学校評価結果、意見交換)
2月24日	・ 学校分収林及び木之川内ダム見学
3月25日	・ 卒業式参加(地域の方も参加)

4 今年度実施した「熟議」のテーマ(小中合同学校運営協議会を含む)

8月:「運動会の競技種目及びPTA奉仕作業への協力」

- 運動会の競技種目に、地域の方も参加する団技を実施する。(玉入れ・借り物競争)
- PTA奉仕作業に、各地区の公民館から3名程度参加する。

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

地域コーディネーターによる学校支援ボランティアが根付いている。5月には、1・2年生が生活科の授業として、地域コーディネーターの方の支援を受け、学校菜園でじゃがいも掘りを行った。

また、7月には、1・2年生が生活科の授業として、地域コーディネーターの方の案内による町探検を行い、校区内にある牛舎や駅等について教えていただいた。



【じゃがいも掘り】

(2) 教育課程の改善(カリキュラム・マネジメント)

「今後も地域と一緒に子どもたちが地域の一員として取りでほしい」という意見を受け、10月に、5・6年生が総合的な学習の時間に、「みんなで「夢」を語りましょう!」という木之川内の未来について考える学習を行った。木之川内地区がどのような状況にあり、今後どうあればよいかを考える学びの機会となった。



【グループでの話し合い】

(3) 地域貢献活動

「学校運営協議会から地域の方々の意見や思いを吸い上げる仕組みが不足している」という意見を受け、5月と8月に座談会を行った。その結果、本年度の運動会では、地域の方が参加する団技が新たに加わり、運動会が盛り上がった。



【木小座談会】

6 学校運営協議会の成果と課題(○:成果 ●:課題)

- 本年度の学校経営に対する評価結果に対して委員から適切な意見をいただき、本校の課題と改善策が明らかとなり、次年度の学校経営の方向性が見えてきた。
- 地域の人たちの学校に対する願いや思いを教えていただき、地域との連携の在り方等に対する理解が深まった。
- 学校での取組が実生活や具体的な活動変容につながっているか検証していく必要がある。
- 学校運営協議会の結果を具体的な改善につなげ、協議会の機能を実感できる運営を追求していく必要がある。

7 次年度の方向性

- 本年度と次年度の学校評価結果を比較・分析し、学校経営に生かしていく。
- 読書冊数を増やし、読書意欲を高める。

令和7年度 山田中学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立山田中学校	校長名	加治屋 輝昭		
学級数	8学級	児童生徒数	174名	職員数	23名
教育目標	バランス感覚に優れ、自ら考え行動し、ふるさとを愛し、未来を切り拓く生徒の育成				

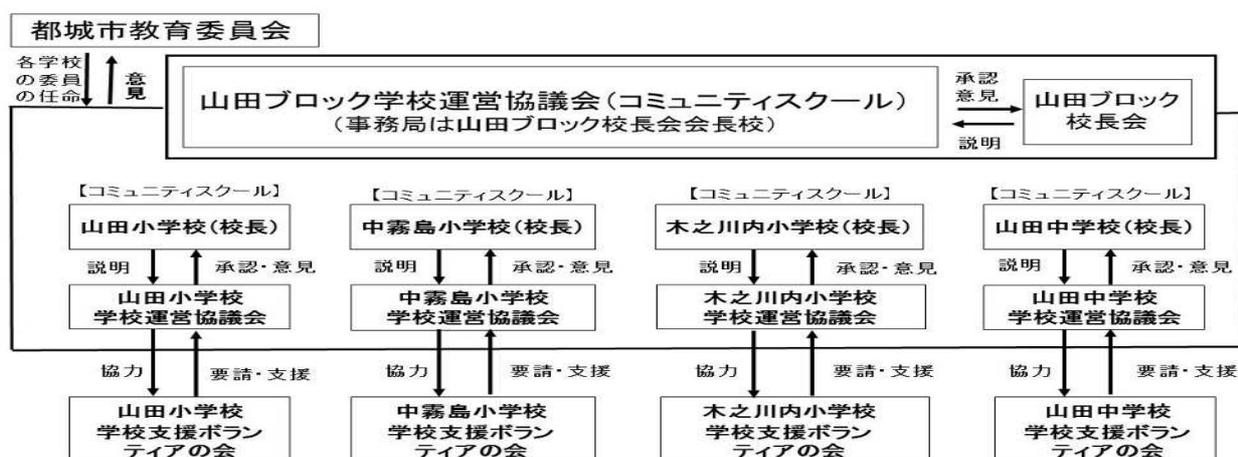
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員 (計9名)・事務局 (計3名)

No.	所属名 (役職)	氏名	備考
1	元山田中PTA会長	藤森 勝美	会長
2	山田地区民児協会長	米吉 春美	地域コーディネーター
3	山田民生児童委員協議会会長	及川 達郎	
4	山田地区自治公民館連絡協議会会長	平山 良照	
5	山田地区社会福祉協議会事務局長	新穂美代子	
6	都城市中霧島小学校長	蓑毛 隆洋	
7	元山田中PTA会長	椎屋 圭介	
8	山田中PTA会長	川元 勝史	
9	山田まちづくり協議会会長	福重 昭弘	

事務局	役職	氏名
	校長	加治屋 輝昭
	教頭	高岡 伸吾
	事務副主幹	中村真由美

(2) 組織編制



3 活動報告

月 日	主な活動及び内容
4月	・学校運営協議会委員選出
5月11日	・第1回愛校作業 (学校支援ボランティアの会) *親子奉仕活動
5月26日	・第1回山田中学校学校運営協議会
6月27日	・福祉体験学習に伴う支援 (都城市社会福祉協議会、山田地区社会福祉協議会)
7月1~3日	・秋田県潟上市学校間交流事業 (まちづくり協議会)
7月28日	・第2回山田中学校学校運営協議会 (兼 第1回山田ブロック学校運営協議会)
10月10日	・第3回山田中学校学校運営協議会
12月18日	・地域貢献活動 (まちづくり協議会) *1, 2学年
12月9日	・第4回山田中学校学校運営協議会
2月16日	・第5回山田中学校学校運営協議会
3月10日	・地域貢献活動 (まちづくり協議会) *3学年

4 今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会を含む）

10月：「地域貢献ボランティア活動」

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

① 学校行事等への支援活動

秋田県潟上市の中学校間交流事業において、事前指導や記念石碑と夜学跡の清掃、石川理紀之助や用水路造りに携わった方々の勉強会に、かかし笑劇団やまちづくり協議会の方々の協力をいただいた。



【石川理紀之助勉強会】

② PTA活動への支援活動

年2回計画している愛校作業（親子奉仕作業）に、学校支援ボランティアの会にも支援を要請し実施した。

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

① キャリア教育として、地元の魅力ある仕事の事業所が関わってほしいという意見を受けて、山田町内外の4事業所に来校していただき、職業講話を行った。



【1年福祉体験学習】

② 総合的な学習の時間に、1年生は福祉体験学習、2年生は職場体験学習を実施した。福祉体験学習では社会福祉協議会の方の協力をいただいて、講話や体験活動を行った。職場体験学習では山田町内外19事業所の協力をいただいて、2日間の体験活動を行った。

(3) 地域貢献活動

① 山田かかし村祭りの清掃ボランティア、当日の活動、吹奏楽部のステージ演奏等、生徒や教職員が参加した。

② 山田地区まちづくり協議会主催の朝の一斉ラジオ体操（夏休み）の体操サポートボランティアや地域の様々なイベント活動など、積極的な地域貢献活動を行った。



【地域貢献ボランティア清掃】

③ 学校運営協議会委員や地域の方々の意見を取り入れながら協議、計画を進め、生徒会企画による地域貢献ボランティアを実施した。自分の住んでいる地域ごとに分かれて、各地域の施設（駅や公園など）の清掃作業等を行った。3年生については、県立高校入試後（3月10日）に実施予定。

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 地域の方が授業に協力することで、教員だけでは難しかった体験学習やキャリア教育の充実が図られ、学校運営に意見が反映されることで、パートナーとしての自覚を持つようになった。
- 人材不足や時間の制限等を持続可能な活動にすることや、地域や保護者が「自分たちの楽しみや利益」として参画できる仕組みにすることが課題である。

7 次年度の方向性

- 今後も学校運営協議会を通して地域の意見を聞きながら、学校行事やカリキュラムを改善し、地域の広報誌やホームページ等に学校の様子を発信したり、地域に貢献する活動を増やしたりすることで、地域への理解を深め、連携を強化していく。

令和7年度 高崎小学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立高崎小学校		校長名	花房 英晴	
学級数	11学級	児童生徒数	214名	職員数	23名
教育目標	五気にあふれる たか・ザ・キッズの育成 ～校訓 「元気、勇気、やる気、根気、気配り」				

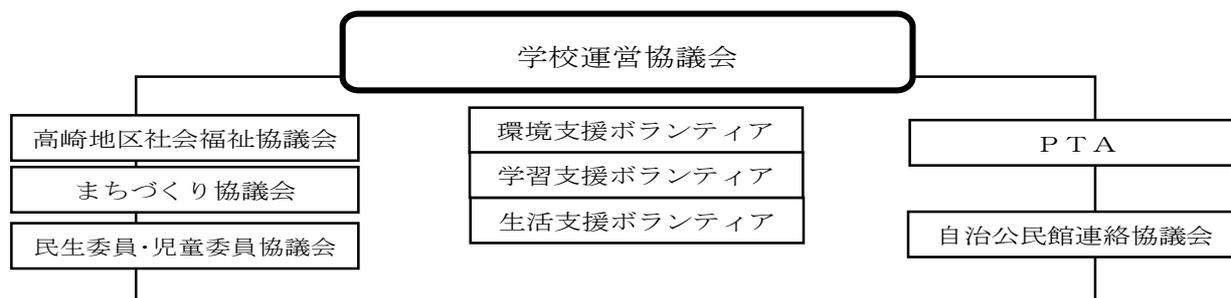
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員（計8名）・事務局（計5名）

学 校 運 営 協 議 会 委 員	No.	所属名（役職）	氏 名	備 考
	1	元中学校校長	佐藤 英二	会長
	2	元高崎学校給食センター	中村 哲朗	副会長
	3	登校見守り隊	萬徳 雄一郎	
	4	民生・児童委員	永友 幸哉	
	5	元PTA会長	高坂 元志	
	6	大牟田公民館館長	岩崎 善典	
	7	前おおむたこども園長	山元 紀代美	
	8	社会福祉協議会主事	牧 遥菜	地域コーディネーター

事 務 局	役 職	氏 名
	校 長	花房 英晴
	教 頭	小川 賢治
	教 務	坂下 逸朗
	専門主事	通山 清一
	主 事	大王 笑菜

(2) 組織編制



3 活動報告

月 日	主な活動及び内容
4 月	・学校運営協議会委員選出
4 月 10 日	・入学式（来賓として出席）
5 月 25 日	・五気っ子運動会（来賓として出席）
6 月 11 日	・第1回学校運営協議会（委嘱状交付、概要説明、学校経営方針説明、年間計画）
7 月 2 日	・都城市学校運営協議会委員研修会（会長参加）
8 月 4 日	・高崎地区合同学校運営協議会（第2回学校運営協議会）
8 月 26 日	・高崎地区総ぐるみあいさつ運動
9 月 28 日	・オープンスクール参観 ・第3回学校運営協議会（2学期の行事、分収林、150周年事業）
10 月 15 日	・3年総合「高崎の方言劇」学習支援
11 月 30 日	・創立150周年記念式典（来賓として出席）
12 月 16 日	・第4回学校運営協議会（TZミーティング）
2 月 12 日	・感謝の集い（民生・児童委員、登校見守り隊）
2 月 26 日	・第5回学校運営協議会（学校評価の意見集約、次年度の計画）
3 月 25 日	・卒業式（来賓代表として出席）
3 月	・次年度へ引き継ぎ

4 今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会を含む）

8月：「人間力あふれる児童生徒の育成について学校運営協議会としてできること」

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

9月のオープンスクールでは、学校運営協議会と高崎地区社会福祉協議会の全面的な協力を得て地域の方や外部講師の方を招き、特色ある学習活動を行うことができた。3年生の総合「高崎今昔物語」では、地域の方々10名を講師に迎え、昔の暮らしや遊び等を教えてもらった。参観日と兼ねて実施し、学校運営協議会や民生委員・児童委員の方々にも自由に参観していただいた。

学校運営協議会の中で「学校と地域の方とのふれあいの場（サロン）をつくる」との方向性が出された。高崎地区社会福祉協議会の協力を得ながら、これまでに「地域の方との折り紙作り」「地域の方のお手玉づくり」「地域の方と一緒に花植え」「地域の方によるクリスマスコンサート」「地域の方とのわらべ歌交流」などの活動を行うことができた。

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

学習支援ボランティア活動として、昔の遊び・方言学習（3年生）、郷土料理「ほくと鍋」作り（5年生）、バケツ稲作り・もちつき（5年生）、ミシンボランティア（6年生）を実施した。5年生の福祉体験学習では、障がいのある方の話を聞いたり、ブラインド卓球やアイマスクの体験活動を行ったりして、福祉について学ぶことができた。

(3) 地域貢献活動

第6学年の総合的な学習の時間において、「ふるさとをきれいにする奉仕活動」という内容を学習した。その一環として、地域にある商業施設の清掃活動を行った。日常生活で利用するスーパーマーケットをきれいにすることで、ふるさと『高崎』を大切にしたいという思いを育てることをねらいとした。駐車場清掃を、隅々に至るまで頑張ることができた。



【昔の遊び】



【クリスマスコンサート】



【もちつき】



【奉仕活動】

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 今年度は、学校運営協議会の方々に、入学式、運動会、オープンスクール、創立150周年記念式典に参加していただき学校の様子を見ていただいた。保護者にも「学校の応援団」として周知されてきた。
- 委員の方々から、学校運営全般にわたって建設的な意見をいただいた。
- まちづくり協議会や社会福祉協議会の協力で、地域とともに学ぶ学習が展開できている。
- 参観日の授業参観やオープンスクール、運動会への参加など、学校をみていただく機会を設定しているが、学校評価の難しさが聞かれた。

7 次年度の方向性

- 地域や学校運営協議会と連携しながら、より一層「地域とともに」「笑顔のあふれる学校」づくりを推進する。

令和7年度 高崎麓小学校 学校運営協議会 実践報告書

1 学校の概要

学校名	都城市立高崎麓小学校	校長名	玉井 教広		
学級数	4	児童生徒数	16名	職員数	10名
教育目標	健康で、心豊かで、自ら考えて行動する子どもの育成				

2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員(計5名)・事務局(計2名)

学校運営協議会委員	No.	所属名(役職)	氏名	備考
	1	前田地域公民館副館長	平山 浩一	会長
	2	おおむたこども園園長	竹之下良子	副会長
	3	ふもとっ子を伸ばす会会長	木下 照芳	
	4	民生委員児童委員	眞方 初美	
	5	PTA会長	山崎 信次	

事務局	役職	氏名
	校長	玉井 教広
	教頭	梶田 ゆり子

学校運営協議会 委員 5名	
実働組織	<ul style="list-style-type: none"> ・ふもとっ子を伸ばす会 14名 ・地域見守り隊 4名 ・あおばずくキッズクラブ 3名 ・俵踊り保存会 2名
協力組織	<ul style="list-style-type: none"> ・各地区高齢者クラブ ・前田地域公民館

(2) 組織編制

本会は、公民館、こども園、PTA等の代表5名の委員と、校長・教頭による事務局で構成されている。組織体制は、主に稲作体験を担う「ふもとっ子を伸ばす会」や朝の登校見守り活動、伝統芸能を継承する保存会などの実働組織、更には高齢者クラブ等の協力組織が連携し、学校と地域が一体となって、多角的な視点から本校の教育活動を支援し、子どもたちの健やかに豊かな成長を地域全体で支えていくための充実した体制を整えている。

3 年間の活動計画

月日	主な活動及び内容
4月	・学校運営協議会委員選出
6月27日	・第1回学校運営協議会 (授業参観、委嘱状交付、学校経営ビジョン説明、年間計画、情報交換)
8月4日	・第2回学校運営協議会 (高崎地区合同開催、6小中学校が合同で情報交換・熟議)
12月16日	・第3回学校運営協議会(高崎地区合同TZミーティング開催の参観・講評)
1月30日	・第4回学校運営協議会(授業参観、学校評価報告書検討、3学期の活動の予定)
2月27日	・第5回学校運営協議会(授業参観、評価報告書、校長へ助言・提言)
3月	・次年度への引継ぎ

4 今年度実施した「熟議」のテーマ

8月:地域と連携して「人間力」を育てるには

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

○ 稲作体験活動

本年度も児童の人間力の育成に向けて、「ふもとっ子を伸ばす会」が中心となり保護者の協力のもと稲作体験活動を実施した。内容は、田植え、もちつきや伝統的なめのもち飾りと多岐にわたる。

これらの活動を通じて、本年度の高崎地区の人間力育成に関わる食への感謝の気持ちを育むとともに、前田地域への郷土愛を育む機会となった。収穫したもち米で作った「めのもち」は、近隣の「田の神様(たのかんさあ)」や放課後児童クラブ、郵便局の地域施設へ持参し、学校と地域の密接な連携を具現化し、自己肯定感やコミュニケーション能力を高めた。



【稲作体験活動 田植え】

○ 常時支援活動

登校見守りボランティアとして4名の方に支援していただいている。都城地区地域安全協会よりスクールガード防犯品の贈呈式が行われ、防犯マグネットや帽子などを寄贈していただき、登下校時の安全教育に繋がっている。また、年に1回、主任児童委員さん等をお招きして「地区懇談会」を開き、児童の登下校や地区での生活の様子など意見交換することができた。本活動は地域協働の要となり、児童の安心・安全な登下校環境づくりが構築されている。



【防犯の物品贈呈式】

○ 読み聞かせ

月に1回、朝の活動時間に「あおばずくキッズクラブ」3名の方々が交代で、読み聞かせに来校して下さる。本に親しむきっかけを作るだけでなく、語彙力の向上や豊かな想像力を育むことにも繋がったり、静かに物語を聞いたりすることで、集中力が養われ、ボランティアとの交流を通じて多様な価値観に触れる等、豊かな感性を育まれるきっかけともなっている。



【あおばずくキッズクラブによる読み聞かせ】

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

○ 「地域とともにある学校」に向けて、学校運営協議会（コミュニティスクール）を可能な限り参観日に位置づけ、授業参観していただいたり、学校行事に参加してもらったりして、学校と地域の連携を密にできる教育課程を組んだ。

○ 「ふれあい学習」では、JA北支部婦人会高崎・山田地区の方々、高崎町学校給食センターの学校栄養職員を講師としてお招きし、高崎町の郷土料理「北斗鍋」の調理を親子で行った。会食には、地域の方々も御招待し、下学年の児童と昔の遊びで遊んだり、会食したりする活動を通して、世代を超えた信頼関係を築き、郷土愛や思いやりの心を育む機会となった。



【ふれあい学習の様子】

○ 地域美化作業（日向前田駅、宇賀神社）

総合的な学習の時間やTZミーティングの一環で、日向前田駅や宇賀神社の清掃を実施した。3月には全校児童による清掃に加え、JR九州や地域団体と協力した看板設置や花植えも予定している。本活動は、児童の公共心や社会性を養い、自ら行動することで公共物を大切にする当事者意識を育む機会となった。こうした一連の取り組みが、郷土愛に繋がり、健やかな自己肯定感の育成へと繋がっている。



【日向前田駅清掃の様子】

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 地域と学校の交流を通じ、豊かな社会性と郷土愛を育み、地域の活性化等に繋がる活動、学校も地域の専門性を教育に生かせる等、三者が互いに助け合い、高め合う持続可能な教育コミュニティを形成することができた。
- 地区懇談会や登校見守りを通じて、情報共有ができ、開かれた学校づくりが推進された。
- 地域一体となった支援体制が確立される一方、支援組織の固定化や高齢化が進行しており、若年層や保護者の参画を促すことで地域全体で見守る持続可能な仕組み作りが必要である。
- 少人数での固定的な関係に留まらぬよう、前田地域の人材の再発掘をするとともに、外部団体との協働や高崎地区内の交流を視野に入れ、地域に根差しながらも多様な感性や広い視野を育む教育課程の充実が必要である。

7 次年度の方向性

- 高齢化が進む中、前田地域の教育資源を再発掘し、外部団体との交流を具現化するとともに、持続可能な教育コミュニティを維持・発展させる。多世代交流を目指し、児童が地域に誇りをもち、主体的に行動できる資質・能力の育成を推進していく。

令和7年度 江平小学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立江平小学校		校長名	甲斐 かおり	
学級数	4	児童生徒数	37名	職員数	9名
教育目標	心豊かで たくましく生きる江平っ子の育成 ○ よく考える子 ○ 心豊かな子 ○ たくましい子				

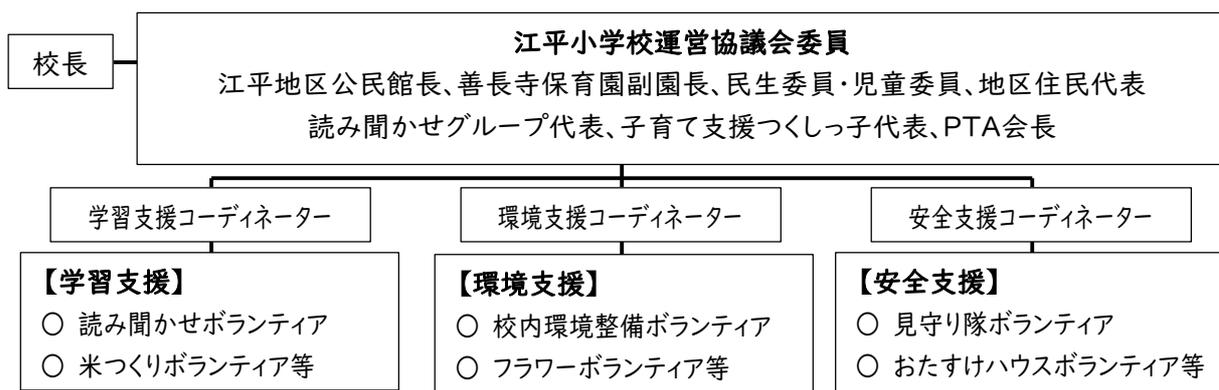
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員 (計8名)・事務局 (計2名)

学 校 運 営 協 議 会 委 員	No.	所属名 (役職)	氏 名	備 考
	1	江平地区公民館長	東 純孝	会長・環境支援コーディネーター
	2	善長寺保育園副園長	教山 尚子	
	3	民生委員・児童委員	吉山 鉄也	安全支援コーディネーター
	4	江平地区住民代表	大迫 栄一	
	5	読み聞かせ代表	立山 美穂	学習支援コーディネーター
	6	社会福祉協議会	大牟田智子	副会長
	7	子育て支援つくしっ子代表	萩原 悦子	
	8	PTA 会長	村橋 裕樹	

事 務 局	役 職	氏 名
	校 長	甲斐かおり
	教 頭	石井 仁

(2) 組織編制



3 活動報告

月 日	主な活動及び内容
4 月	・学校運営協議会委員選出 ・見守り隊(通年) ・読み聞かせ(通年)
5 月 23 日	・第1回学校運営協議会、授業参観 (趣旨説明、委嘱状交付、学校経営ビジョン説明、年間活動計画)
6・9 月	・環境整備
6~12 月	・総合的な学習の時間(3~6 年 米づくり体験)
7 月 4 日	・第2回学校運営協議会(学校の課題等に関する状況、学校評価の確認等)、授業参観
8 月 4 日	・高崎地区合同学校運営協議会(各学校の実践報告等)
9 月 12 日	・第3回学校運営協議会(学校の課題等に関する状況、アンケート内容の検討等)、授業参観
12 月 1 日	・総合的な学習の時間(3・4 年 ふれあいグラウンドゴルフ)
12 月 16 日	・TZミーティング(オンラインの様子を参観)
1 月 27 日	・第4回学校運営協議会(アンケート結果と自己評価書報告検討)、授業参観
2 月 20 日	・第5回学校運営協議会(評価報告書確認、助言・提言事項検討)
3 月 3 日	・ボランティア感謝集会
3 月	・次年度へ引き継ぎ、準備

4 今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会を含む）

8月：「地域と学校が連携して「人間力」を育てるには」

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

本年度は、8名の委員で学校運営協議会を構成した。組織は、学習支援・環境支援・安全支援の3つの組織を構成し、教育活動から環境面まで支援を行っていただいた。

○ 環境整備（環境支援）

6月、9月の奉仕作業時に環境支援コーディネーターを中心として公民館長や地域の方々による環境整備活動が行われた。

校内の学習林「江楽園」の整備を行い、彼岸花が育ちやすく、鑑賞しやすい環境を整えていただいた。



【江楽園の様子（秋）】

○ 米作り体験（学習支援）

6月に田植え、9月に稲刈り、12月に餅つきの体験学習を行った。この体験学習においては、田や稲の管理から、餅つきのサポートまで、学校運営協議会会長を中心に地域の方々に行っていただいた。



【餅つきの様子】

○ 登下校の見守り（安全支援）

本校の通学路には、信号機のない交差点や交通量の多い道路などが多数見られる。そこで、児童の安全な登校のための見守り活動を安全支援コーディネーターが中心となって行っている。

登校時の児童の様子についても、随時お知らせいただいている。

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

○ 「午前中の時間設定について再検討してほしい」との意見を受けて、午前中5時間授業の設定を見直し、1週間をとおして午前中4時間授業で校時程を再編成した。

その結果、児童の疲労感の減少だけでなく、時間の見直しをもって行動しやすくなったり、余剰時数が多い低学年の時数の適正化を図ったりすることができた。

(3) 地域貢献活動

○ 学校運営協議会の中で、地域の方々と児童が気軽に交流できる場面があるとよとの意見が挙げられたので、地域の方々と児童が、それぞれ話をしたり遊んだりできる「ふれあいタイム」を第2・第4水曜日の昼休みの時間に設定し、運営を学校運営協議会が行うこととした。地域を明るくする活動の一つとして、また、社会性を育む活動の一つとして、学校と地域に共にメリットのある活動となった。



【ふれあいタイムの様子】

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 児童と地域の方々が、活動を共にすることで、相互に理解を深めることができた。
- 活動をサポートしていただける人材を集めていただき、円滑に活動を行うことができた。
- 活動の内容の見直しや充実させていくことを通して、キャリア教育を一層推進していくことが必要である。
- 活動を円滑に進めるために、今年度同等程度の人材を確保することが必要である。

7 次年度の方向性

- 児童の「地域を明るくする活動」の充実を図る。
- 協力者の確保に努め、活動の円滑な実施を図る。

令和7年度 縄瀬小学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立縄瀬小学校		校長名	宮元 俊行	
学級数	7学級	児童生徒数	33名	職員数	10名
教育目標	自ら学び、豊かな心とたくましく生き抜く力をもち、ふるさとを愛する児童の育成				

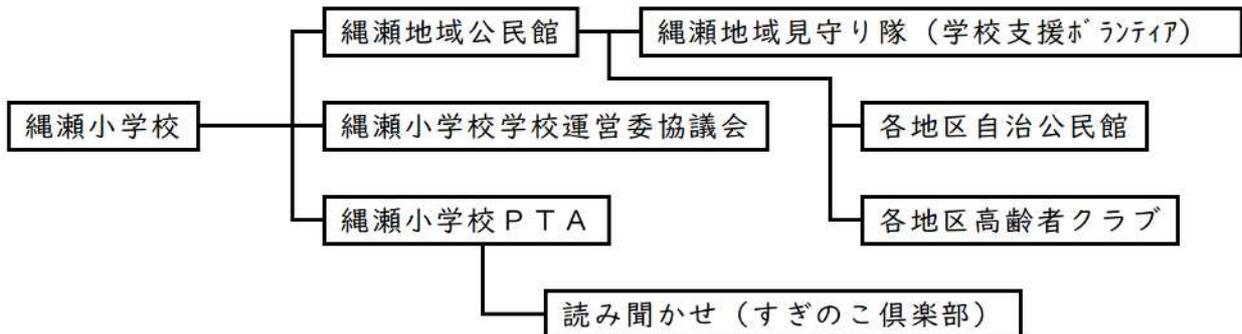
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員（計8名）・事務局（計2名）

学校運営協議会委員	No.	所属名（役職）	氏名	備考
	1	縄瀬地域公民館館長	古川 辰昭	委員長
2	都城市議会議員	迫間 輝昭		
3	縄瀬保育園園長	富永 俊江		
4	民生委員・児童委員	古川 照子		
5	民生委員・児童委員	大田 育子		
6	共和地区環境保全対策協議会会長	中島 学		
7	PTA 会長	北野 倫美		
8	PTA 副会長	石黒 麻衣子		

事務局	役職	氏名
	校長	宮元 俊行
	教頭	桑迫 明

(2) 組織編制



3 活動報告

月 日	主な活動及び内容
5月14日	・第1回学校運営協議会(学校経営説明、自己紹介、委嘱状交付、授業参観、学校運営協議会の説明、その他・連絡事項)
6月16日	・学校運営協議会拡大委員会(熟議、民生委員・児童委員、主任児童委員、教職員、保護者等との情報交換会)
8月4日	・第2回学校運営協議会(高崎地区合同小中一貫教育共通実践の取組について、令和6年度の各校実践報告、グループ協議)
9月9日	・第3回学校運営協議会(オープンスクールの授業参観、学校運営の近況等、学校評価、その他・連絡事項)
12月10日	・第4回学校運営協議会(学校運営の近況報告等、学校評価、その他・連絡事項)
2月24日	・第5回学校運営協議会(学校運営の近況報告等、学校評価、次年度に向けて、その他・連絡事項)

4 今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会を含む）

6月：「どんな縄瀬っ子に育ってほしいと思いますか。」

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

○ ミシンを使ったトートバッグ作り

学校運営協議会委員の方から紹介していただいた地域の方に、ミシンを使ったトートバッグ作りの支援を、5・6年生の家庭科の時間にさせていただいた。授業には4回来校していただいた。延べ17名に学習支援をしていただいた。

教科書だけでは分かりにくいことを実際に学ぶことができ、また、地域の方も子どもたちと楽しく交流することができたことで、互いにとって有意義な時間となった。



【ミシンの学習支援】

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

○ 学校運営協議会拡大委員会

地域・保護者・学校の三者が同じ方向を向き、目の前の子どもたちと向き合っていくため、昨年度から「学校運営協議会拡大委員会」を開催している。

三者それぞれが「自分たちにできることは何か」という視点で熟議を行っており、今年度は、「あいさつ」に重点を置いて、子どもたちの健全育成のために話し合いを深めることができた。



【熟議での話し合い】

(3) 地域貢献活動

○ 館山(校区内の山)及び学校周辺(縄瀬保育園前)のごみ拾い

5・6年生が10月と11月に、館山(校区内の山)及び学校周辺(縄瀬保育園前)のごみ拾いを行った。「ごみがたくさん落ちている」という子どもたちの気付きから、この活動が始まった。

館山では、不法投棄されたと思われる粗大ごみ(テレビや冷蔵庫、看板等)から小さなごみまで、多くのごみが見られ、分別するとごみ袋5つ分となった。

学校周辺では、多くの落ち葉や枯れ草を集めることができ、地域のために少しでも貢献できたことに、子どもたちは達成感を感じている様子であった。

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 今年度は、入学式、運動会、オープンスクール、卒業式に参加していただき、学校の教育活動や子どもたちの様子を多様な視点から理解していただくことができた。
- 学校運営協議会を通して、地域の人材や資源を教育活動に生かす取組が進み、子どもたちが実体験を通して学ぶ機会が広がった。
- 誰かが対応してくれるのを待つのではなく、一人一人が「当事者」としての意識を高め、主体的に協議や熟議を行っていく必要がある。

7 次年度の方向性

- 家庭・地域・学校がよりいっそう連携を深めながら、一人一人が当事者としての意識をもって、「自分たちにできることは何か」という視点で協議や熟議を行い、子どもたちの健全な成長につなげていく必要がある。

令和7年度 高崎中学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立高崎中学校	校長名	上村 剛史		
学級数	7学級	児童生徒数	165名	職員数	19名
教育目標	豊かな心と確かな学力をもち、健康でたくましい生徒の育成				

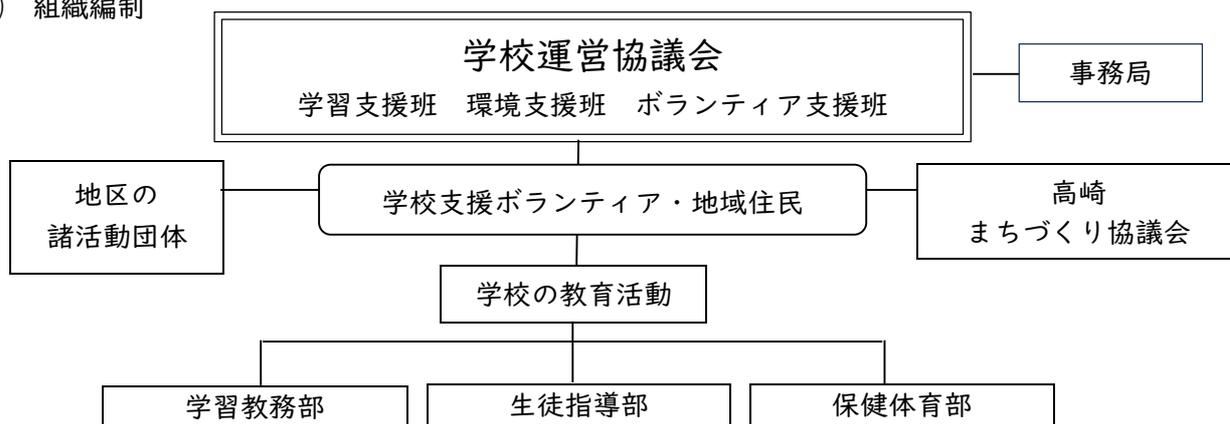
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員（計7名）・事務局（計3名）

学 校 運 営 協 議 会 委 員	No.	所属名（役職）	氏 名	備 考
	1	元御池青少年自然の家副所長	谷口 俊一	委員長
	2	主任児童委員	坂元 文子	
	3	元PTA副会長	金丸 正広	
	4	PTA会長	古川 宏志	
	5	都城市高崎学校給食センター所長	柿木 賢一	
	6	都城市社会福祉協議会統括マネジャー	星村 太一	
	7	高崎養護老人ホームたちばな荘施設長	山田 真一	

	役 職	氏 名
事務局	校 長	上村 剛史
	教 頭	蓮井 伸二
	事務主事	中西 礼子

(2) 組織編制



3 活動報告

月 日	主な活動及び内容
4月	○ 学校運営協議会委員選出
5月17日(土)	○ 体育大会参観
5月30日(金)	○ 第1回学校運営協議会 委嘱状交付、協議会の趣旨説明、年間活動計画学校経営ビジョンの説明
7月 1日(火)	○ 第2回学校運営協議会 授業参観、学校の現状説明、学校評価項目検討協議「今後の活動について」
8月 4日(月)	○ 第3回学校運営協議会（高崎地区合同学校運営協議会） 各校の実践報告 協議「地域と学校が連携して『人間力』と育てるにはどうあればよいか」
10月12日(日)	○ 文化祭「紅葉祭」参観
12月 9日(火)	○ 第4回学校運営協議会：授業参観、学校評価計画、面接指導計画
2月12日(木)	○ 第5回学校運営協議会：学校評価の結果分析・考察、次年度に向けて
2月20日(金)	○ 立志式臨席
3月16日(月)	○ 卒業式臨席

4 今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会を含む）

8月4日（月）「地域と学校が連携して『人間力』と育てるにはどうあればよいか」

- ・ 生徒が、地域の人と交流する企画を考え、地域へ提案していく。
- ・ 地域の人に話をしてもらおう機会を学校で企画する。
- ・ 地域の防災訓練を企画し、児童生徒も参加するようにする。
- ・ 地域のイベントへの児童生徒の参加を学校が促す。
- ・ 昔ながらの地域の行事を大切にする。
- ・ 生徒も参加して地域ごとの清掃を行う。
- ・ 学校の環境整備に地域の人も参加する。

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

・ 地域人材の活用

総合的な学習の時間に実施した活動の際に地域の方に協力していただき、大変有意義な活動となった。1年生の地域探訪において、まちづくり協議会に案内・説明をしていただいた。2年生の平和教育において、語り部の方に戦争の体験談を話していただいた。3年生の地域を考える活動において地域の方に生徒のグループ討議に加わっていただき、意見やアイデアをいただいた。

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

・ 校時程変更

生徒の「計画性のある生活」「個性を磨く時間の確保」また、教職員の教材研究や研修の時間を確保して、質の大会教育を実践していくため校時程の見直しを行った。その際、学校運営協議会で意見を伺い、変更の参考にした。

(3) 地域貢献活動

学校運営協議会や地域の団体から12のボランティア活動の要請があり、延べ人数200名以上の生徒が地域のボランティアに参加することができた。

① 「高崎春まつり」「高崎夏祭り」

高崎商工会青年部からの要請で、4月の春まつりと8月の夏まつりの前日準備、当日の運営ボランティア活動を行った。

② 「どろんこバレーボール」

6月に行われた高崎どろんこバレーボール大会の当日の運営ボランティア活動を行った。

③ 「秋の交通安全運動」

たちばな奉仕クラブの要請で、9月の交通安全運動の際に、交通安全意識の高揚を図るために、交通安全運動リーフレットと冷茶を配付した。

④ 「高崎クロスカントリー大会」

高崎総合支所の要請で、12月の「高崎クロスカントリー大会」の運営ボランティアを行った。

⑤ 「鬼磐階段かけ上がり競走」

2月に行われる東霧島神社「鬼磐階段かけ上がり競走」の運営サポートとしてボランティア活動を行う。



【たかぎ北斗鍋フェスタボランティア】



【たちばな夏釣りボランティア】

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 年間5回の学校運営協議会を実施することにより、積極的に学校運営に携わっていただいた。協議の前には授業を参観してもらい、学校の様子を知っていただけた。また、体育大会、文化祭、立志式などの行事にも来賓としてご来校いただくことで、学校の教育活動について共通理解を図ることができた。
- 地域から多くのボランティア活動の協力依頼があり、学校から地域への貢献する活動を実施することができた。また、委員の方から地域の方を紹介していただき、各学年の活動に地域の方に参加してもらおうことで、充実した活動となった。
- 学校が取り組んでいる「授業の工夫」や「学習支援」が保護者や地域にうまく伝わっていない現状があるので、どのように伝えていくかを検討する必要がある。

7 次年度の方向性

- 学校運営協議会から地域団体に協力依頼を行い、更に、地域の方々からの学校支援受け入れに力を促していきたい。
- 学校運営協議会の班別（学習支援、環境支援、ボランティア支援）協議を充実させることにより、学校運営協議会の主体的な活動を行っていききたい。

令和7年度 都城市立笛水小中学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立笛水小中学校		校長名	申間 由香里	
学級数	小4・中1:計5	児童生徒数	小15・中8:計23	職員数	13名
教育目標	感謝の心を持ち、笛水をほこれる児童生徒の育成				

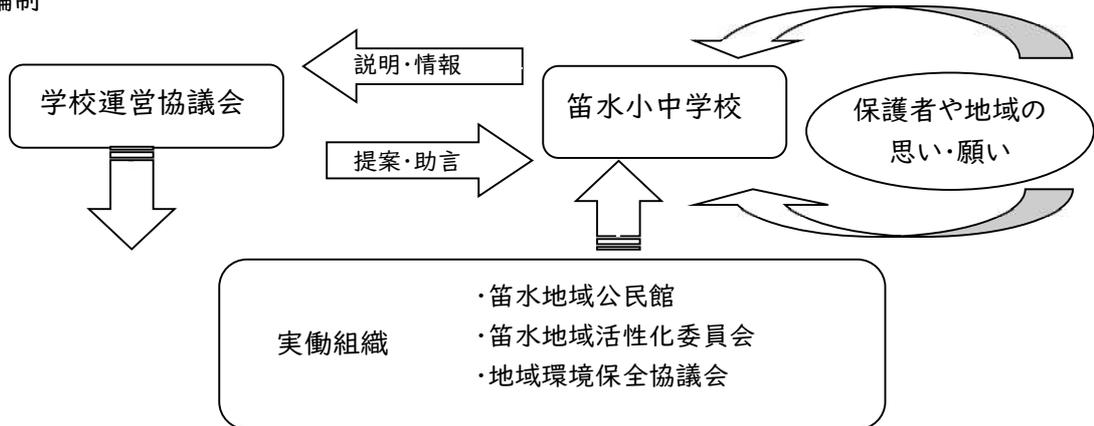
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員（計7名）・事務局（計2名）

学校運営協議会委員	No.	所属名（役職）	氏名	備考
	1	笛水地域公民館長	竹元 輝治	会長
	2	PTA会長	谷畑 政光	副会長
	3	笛水地域活性化委員長	大丸 優二	
	4	笛水地域活性化委員会事務局	村脇 裕二	
	5	笛水地域活性化委員会教育・文化振興部長	谷山 利夫	
	6	地域環境保全協議会長 PTA協力会委員	椎谷 広利	
	7	元PTA会長	時 和博	

事務局	役職	氏名
	校長	申間 由香里
	教頭（小）	高野 睦美
	教頭（中）	徳地 真地子

(2) 組織編制



3 活動報告

月 日	主な活動及び内容
4 月	・学校運営協議会委員選出
5 月 23 日	・第1回学校運営協議会（委嘱状交付、学校運営協議会の説明、役員選出、年間計画等）
6 月 8 日	・ダム湖周辺整備作業 ・田植え体験活動【中止】
8 月 4 日	・第2回学校運営協議会（高崎地区合同学校運営協議会）
9 月 2 8 日	・第3回学校運営協議会（学校評価アンケートの内容の検討） ・第15回笛水大運動会（地域と共催で実施）
10 月 14 日	・稲刈り体験活動
10 月 19 日	・秋祭り（地域と学校と協働で実施）
11 月 9 日	・ダム湖周辺整備作業
11 月 14 日	・第4回学校運営協議会（脱穀体験活動、運動会・秋祭りの反省、学校と地域の取組に関する協議）
11 月 21 日	・そば打ち体験活動の実施
12 月 14 日	・第5回学校運営協議会（餅つき体験の教育活動参観、学校評価について）
2 月 20 日	・第6回学校運営協議会（学校評価報告書、実践報告書、次年度の取組についての協議）

4 今年度実施した「熟議」のテーマ

11月：「地域と学校の現状と課題」

学校と地域の活動について、「学校との協力・協働」「地域づくり」の観点から分類し、今年度の取組の現状と課題を共有した。年度初め、学校運営協議会において、徒歩通学や自転車通学の児童生徒がいることを知らせると、早速、地域の方が朝の見守りを行ってくださったこと、児童生徒が作った「野菜」や「花の葉」をプレゼントしたことなど、情報を共有することができた。また、本校は、めざす児童生徒像に「礼をつくす子」を掲げている。普段、地域の方との交流活動において、自ら話しかける児童生徒もいるが「進んであいさつをする」という点に課題があり、委員の方からもご指摘をいただいた。

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

○ そば打ち体験

そば打ち体験活動は、毎年、地域と学校が共同で行ってきた貴重な交流活動である。地域の方を招いて、そばの打ち方を教わっており、児童生徒はもちろんのこと保護者も楽しみにしている。上級生を中心に話合いを重ね、地域の方への感謝の気持ちを込めながら準備と運営を行っている。実際の活動では、これまでの経験から、慣れた様子でそば粉を捏ねたり、包丁で麺を細く切ったり、上級生が下級生に積極的に教える姿が見られた。楽しい雰囲気の中、地域の方や保護者と一緒で一連の作業を行い、会食をする姿は、地域と学校が交流を深める良い機会となっている。



【そば打ち体験】

○ 米作り体験

米づくり体験活動は、毎年、笛水地域活性化委員会や地域環境保全協議会の方のご協力をいただき実施している。苗や畑の準備、管理等、学校と連絡を取りながら進めている。今年度は、天候不良のため児童生徒による田植えは実施できなかったが、地域の方々の協力のもと田植えを行い、その後も稲の生育に関する助言を得ながら稲刈りや脱穀、もちつきまでの一連の米作り体験活動を実施することができた。これらの活動をとおして、米作りの大変さや収穫の喜びを味わうとともに、地域の方への感謝の気持ちや笛水地域に対する誇りをもつ児童生徒を育てている。



【もちつき体験】

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

学校と地域が合同で行う運動会の開催時期について、学校運営協議会で話合いを重ねた。熱中症対策として開催時期を9月上旬から最終週あたりに変更したいことを相談し、地域の行事等を考えて運動会をずらし、10月3週に行う「笛水秋祭り」はそのまま実施することになった。また、「笛水秋祭り」と同時に行っていた「文化祭」は2月の「学習発表会」と兼ねることです了承を得た。

また、来年度は日曜に実施していた「笛水秋祭り」を土曜開催にすることで、笛水以外からも、よりたくさんの方が来場すると考え、土曜日開催することを決定した。

(3) 地域貢献活動

年2回（6月・11月）実施されるダム湖周辺整備作業は、地域公民館とPTAの共催で行っている。本校職員や保護者、地域の方、参加が可能な児童生徒とともに、椎屋公園周辺の草刈りやゴミ拾い、本校隣接保育園跡地周辺の草刈などに取り組んでいる。

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 学校と地域が協働で行う行事について、実行委員会や学校運営協議会等での話合いを重ね、継続的な取組として質の高い教育活動を展開することができている。
- コミュニティ・スクールだよりを発行し保護者や地域に配付することで、情報共有をし、学校のことをより知ってもらう機会となった。
- 大きく変化している学習環境や指導法について、授業参観において、委員の方に見ていただく機会を多く設定できなかった。

7 次年度の方向性

- 学校運営協議会を開催する際、授業参観の機会をより多く設定し、学習環境や指導法について参観してもらう。
- 笛水地域ならではの魅力ある学校づくりのために、活発な意見交換ができるよう熟議の方法や内容等について工夫を図っていきたい。
- 地域に対する貢献活動では、児童生徒に課題意識をもたせ、学校目標である「笛水を誇る」という心情を育みたい。